



第2回山口市総合計画策定協議会 説明資料



【目次】

I 第1回山口市総合計画策定協議会について

- 1 概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 2 委員からの主な発言概要・・・・・・・・・・・・・2

II 人口動態等について

- 1 本市全体の人口動態等
 - (1) 国・県・市における人口と人口増減率の推移・・・5
 - (2) 年齢3区分別の人口の推移（国勢調査）・・・・6
 - (3) 自然動態
 - ①出生数・死亡数の推移・・・・・・・・・・・・・7
 - ②合計特殊出生率等の推移・・・・・・・・・・・・・8
 - ③「高齢者」の状況について～人生100年時代の到来～
 - ア 寿命中位数等について・・・・・・・・・・・・・9
 - イ 健康寿命の推移について・・・・・・・・・・・・・10
 - (4) 社会動態
 - ①転入数・転出数の推移・・・・・・・・・・・・・11
 - ②県内・県外別の転入数・転出数の状況・・・・・・・・12
 - ③年齢（5歳階級）別の転入数・転出数の状況・・13
- 2 本市全体の将来人口推計等
 - (1) 将来人口推計
（令和2年国勢調査に基づいた本市独自推計）・・・14
 - (2) 人口長期ビジョンの達成に向けて・・・・・・・・15

3 市内21地域の人口動態・将来人口推計

- (1) 市内21地域の位置・概要・・・・・・・・・・・・・16
- (2) 市内21地域における人口の推移（国勢調査）・・・17
- (3) 市内21地域別の将来人口推計等
（令和2年国勢調査に基づいた本市独自推計）
 - ①将来人口推計（15ページの将来人口推計①）・・・・18
 - ②将来人口推計の人口増減指数・・・・・・・・・・・・・19
 - ③人口長期ビジョン（15ページの人口長期ビジョン④）・・20
 - ④人口長期ビジョンの人口増減指数・・・・・・・・・・・・・21
- (4) 市内21地域別の人口動態の状況・・・・・・・・・・・・・22
- 【参考】大殿地域～阿東地域・・・・・・・・・・・・・23～43

III 人口動態、将来人口推計から見えてきた課題・・・・・・・・・・・・・44

IV 今後の予定

- 1 策定協議会の今後の予定・・・・・・・・・・・・・45
- 2 後期基本計画策定のスケジュール・・・・・・・・・・・・・46

I 第1回山口市総合計画策定協議会について

1 概要

日時 令和4年3月25日(金)14:00~16:00

場所 セントコア山口 2階 サファイア

委員
(20名)

団体名	氏名
山口大学 副学長 [会長]	進士 正人
山口県立大学 看護栄養学部栄養学科 准教授 地域共生センター 産学連携コーディネーター [副会長]	今村 主税
NPO法人あっと 代表理事	藤井 智佳子
一般社団法人山口県社会福祉士会 会長	橘 康彦
山口学芸大学 教育学部教育学科 教授	佐藤 真澄
山口文化協会 理事	桑原 智恵
株式会社レノファ山口 代表取締役社長	小山 文彦
日本防災士会山口県支部 女性部長	坂本 京子
山口大学大学院創成科学研究科 准教授	白石 レイ
山口大学大学院創成科学研究科 准教授	鈴木 春菜

団体名	氏名
一般財団法人山口観光コンベンション協会 新山口駅観光交流センター 副支配人	于 佳男
山口県農業協同組合 山口統括本部長	永久 弘之
山口県中央森林組合 組合長	戸田岸 巖
山口商工会議所 事務局長	重村 奈津枝
株式会社山口銀行 常務執行役員 山口支店長 兼 県庁内支店長	西村 健一
山口市自治会連合会	板垣 幸男
元山口市地域おこし協力隊	粉川 妙
一般財団法人山口県デジタル技術振興財団 山口県未来技術活用統括監	田中 貴光
山口県総合企画部 山口県民局長	手嶋 郁夫
公募委員	郡 さやか

※第1回は、小山委員と板垣委員が欠席、橘委員がリモート参加。



会議風景



委嘱状交付



諮問

2 委員からの主な発言概要①

- 山口市は、国の家計調査において、1世帯当たりのガソリン購入量・購入金額が県庁所在都市の中で一番多い中で、カーボンニュートラルをどう達成するか。例えば、公共交通を充実させる、電気自動車を普及させるなど、あらゆる施策を考えていく必要がある。また、再生可能エネルギーの普及促進や食品ロスの削減なども含めて、市民の環境意識の醸成を図っていく必要がある。
- 貧困やシングルなど様々な家庭がある中で、それぞれの家庭が山口市で子育てして良かったと思えるように、本協議会でしっかりと提案していきたい。また、20年間、子育てをしてきて、随分、子育て環境は良くなっていると感じる。一方で、交通の分野は変わっていないと感じるので、子育て目線での改善点について、今後考えていきたい。
- 社会福祉士として活動する中で、昨今、子どもに関する相談が増えている。また、社会福祉士は成年後見人を兼任していることも多く、山口市にも成年後見センターが設置され、これまでの保健、医療、福祉の専門職の方だけでなく、教育機関や司法(家庭裁判所)との連携強化が必要と思っている。
- 山口市は、教育分野において、先進的な取組を進められていると感じている。一方で、貧困や不登校の問題を抱える子どもが増えているように感じる。一人ひとりの子どもたちの「居場所」としての学校づくりについて、考えていきたい。また、教員を目指す学生の数に急減した印象を持っているので、教員の働き方改革について検討していく必要がある。
- 障がい福祉サービスについては、量も増え、質も向上しているが、施設に頼り過ぎている側面もある。障がいのある方が、地域の中で普通に暮らし、普通に働くことができ、年齢を重ねていけるようなまちづくりを共に考えていきたい。
- 文化の分野では、コロナ禍において、十分な感染対策を講じながら何とか活動をしている。そうした今だからこそアフターコロナの理想像について、若い世代の方と共に考えていきたい。教育熱心な市民性のもと、文化協会は異なるジャンルとの総合舞台を作るという稀なことを長らくやってきたが、高齢化が進んでいるので、今後は、若い世代と一緒に作っていき、市民の生きがいづくりにつなげていきたい。
- 避難所において、女性目線や、多様性への配慮はまだまだ進んでおらず、避難したくてもできない方がいるという現状はあまり知られていない。目に見えない障がいや悩みを抱えている方の「小さな声」に寄り添う避難所が増えていけばいいし、総合計画にも、こうした「小さな声」が反映されたらいいと思う。

2 委員からの主な発言概要②

- 山口市は盆地ということもあり、自然の地形からコンパクトなまちになっている。一方で、平たい土地が少ないことから、交通分野において課題が生じている。こうした中で、歩いて暮らせるまちづくりが実現可能になると思うので、これをどのように進めていくかも検討のテーマになると思う。
- 交通は、産業や観光、子育てなど様々な分野をつなぐ「血管」のようなものだと思っている。とりわけ、公共交通は、子供や高齢者、妊婦など、自動車を使えない人を運ぶ重要な血管だと思うので、必ず議論が必要である。近年、交通を取り巻く環境は大きく変わってきている。例えば、交通政策基本法による行政の積極的な関与や、コロナ禍での交通事業者の経営環境の悪化、運転士を始めとする人材不足、自動運転技術の進展、小型モビリティの普及、定額サービスの導入など、検討項目は多いので、様々な視点で持って検討していく必要がある。
- インバウンド業務に携わる中で、外国人観光客を誘致することは、地方の山口市にとって本当に難しいと実感している。湯田温泉は長野県の湯田中温泉と間違えられ、外郎は名古屋というイメージが強く、認知度不足に歯がゆい思いをするとともに、シティセールス不足を実感している。インバウンドの誘客促進を始めとしたアフターコロナの市の観光政策について議論していきたい。
- コロナによって農家の経営環境は苦しくなっている。交流人口の減少やイベント等の中止により、地元農産物の需要が低迷した。とりわけ、「花き」は非常に厳しい状況。また、燃料代も上昇している。加えて、農家の方と市民の皆様をつなぐ活動もコロナ禍により自粛している状況にある。こうしたことへの対応に加え、後継者不足への対応も待ったなしである。
- 林業は、SDGs、2050カーボンニュートラルの実現、災害に強いまちづくりという観点から非常に重要な役割がある。また、林業は植えてから収穫するまで50年・60年という大変長い年月を要する産業である。こうした中で、人口減少による担い手不足が大きな課題である。
- 今後、市の人口が減っていく中で、地域経済においては消費が減るという悪循環にならないように、地域経済の発展と維持につながる消費の拡大に向けて、交流人口、定住人口を増やすことが重要。そのためには、人が集まる、住みたくなるまちづくり、すなわち、「豊かな暮らし」ができるまちづくりを進めていく必要がある。また、現在山口市に住んでいる私たち自身が、山口市をもっと知ってもっと好きになることが大事である。いわゆるシビックプライドを醸成することが根本的に必要である。

2 委員からの主な発言概要③

- 働く場所をいかに増やすかということが大切である。2021年度上期の新規設立法人数について、山口県が前年比伸び率全国トップとなる中で、山口市は前年比2倍の新設法人があった。日経新聞によると、市が企業のDXに力を入れていることがその要因とされている。今後、この良い流れをさらに加速させるため、今の新設法人の多くが飲食・美容関連が多い中で、ITやフリーランスなどのソフト産業の集積を図る取組を進めていく必要がある。
- イタリアで11年間住み、地域おこし協力隊員として山口市に住んでみて思うことは、山口市はヨーロッパの街に似ているということ。都市部が発展し、徒歩圏内に自然がある、例えば、蛍が舞う一の坂川が繁華街のすぐそばという街は、なかなか無く、それは、ヨーロッパの街にとっても似ている。また、農山村部と都市部の発展は、欧州に見られる都市の発展の仕方であり、目指すまちの在り方だと思う。山口市は、文化度がとても高く、食が美味しい山口は、ポテンシャルが高いので、その素晴らしさを発信してほしい。また、コロナや戦争など、有事の際の備えとして、食料自給率を上げる必要があり、そのためには農業の振興は重要。さらに、事業者が県内・県外から人を呼び込んで来れる面白いコンテンツを提供するなどのチャレンジをする時に、市は、そうしたチャレンジしやすい環境づくりに取り組んだ方が良い。
- デジタルは手段でしかなく、課題に対して、デジタルだったらどう解決ができるのか、デジタルのアプローチだったらこういうことができるかもしれない、というアイデアを出していきたい。
- それぞれの都道府県のイメージというのは、県都である市のイメージと重なる部分が多いと思うので、山口市の発展なくしては、県の発展もないと言っても過言ではないと思う。現在、国においては、成長戦略の柱にデジタル田園都市国家構想を掲げ、デジタル技術の実装により、地域の個性を生かした地方の活性化を目指している。都市も農山村も共に発展するまちづくりの実現に向けては、「山口って便利なまちだな」と思えるように、デジタルを活用したまちづくりという視点も、計画のどこかに盛り込んでいけばいいのではないかと。
- 一番関心のある問題が気候危機である。自分が将来、子どもを産んだとして、その子供たちが安全な場所で生きていけるのかということを考えるし、人々の幸せ、社会の幸福というのも地球環境が安全で初めて成り立つものではないかと思う。また、この気候危機の問題は、貧困や格差、雇用、経済、農業、地方の衰退など、様々な課題とも繋がっており、この気候危機を解決するというのは、そういった様々な課題を解決する方法にもなると思うし、地域は、そういった課題を解決する鍵を握っていると思う。

II 人口動態等について

1 本市全体の人口動態等

市内21地域別の人口の推移は17ページ参照

(1) 国・県・市における人口と人口増減率の推移

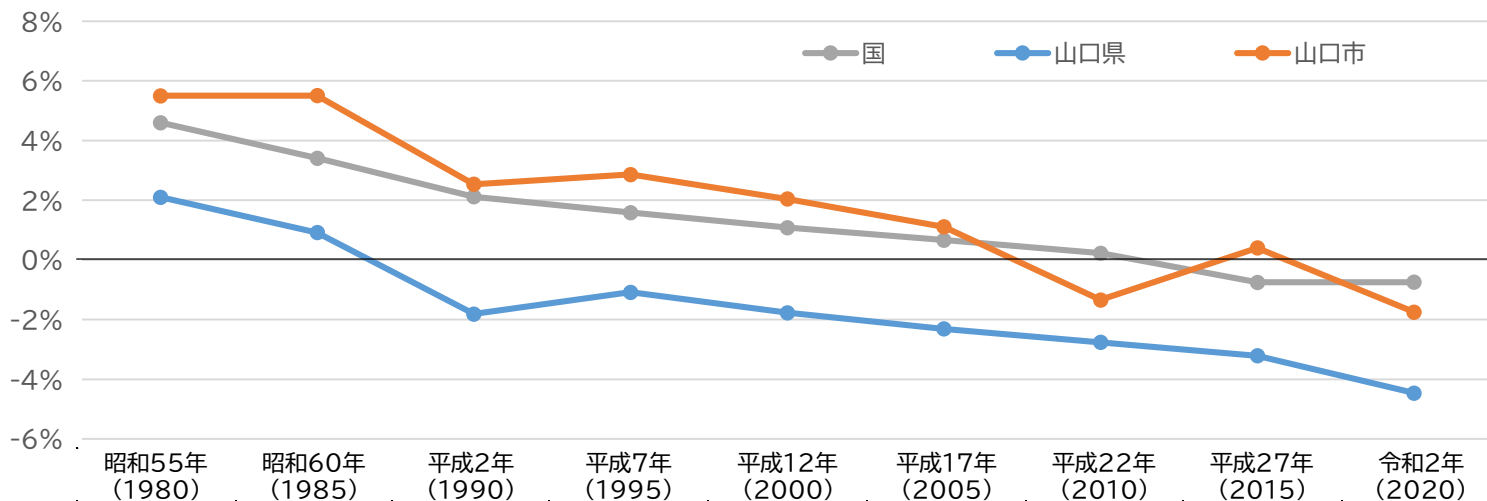
本市の人口は、平成17(2005)年の199,297人をピークに減少に転じた後、平成27(2015)年には197,422人と増加に転じたものの、令和2(2020)年には193,966人と再び人口減少に転じています。

また、人口の増減率については、令和2(2020)年において、山口県全体が4.5%の人口減少となる中、本市では、1.8%の人口減少に留まっています。

		昭和55年 (1980)	昭和60年 (1985)	平成2年 (1990)	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	令和2年 (2020)
国	人口(人)	117,060,396	121,048,923	123,611,167	125,570,246	126,925,843	127,767,994	128,057,352	127,094,745	126,146,099
	人口増減率(※)	4.6%	3.4%	2.1%	1.6%	1.1%	0.7%	0.2%	▲0.8%	▲0.7%
山口県	人口(人)	1,587,079	1,601,627	1,572,616	1,555,543	1,527,964	1,492,606	1,451,338	1,404,729	1,342,059
	人口増減率	2.1%	0.9%	▲1.8%	▲1.1%	▲1.8%	▲2.3%	▲2.8%	▲3.2%	▲4.5%
山口市	人口(人)	173,590	183,149	187,793	193,172	197,115	199,297	196,628	197,422	193,966
	人口増減率	5.5%	5.5%	2.5%	2.9%	2.0%	1.1%	▲1.3%	0.4%	▲1.8%

(※)人口増減率は、前回の調査結果(5年前の人口)からの増減率

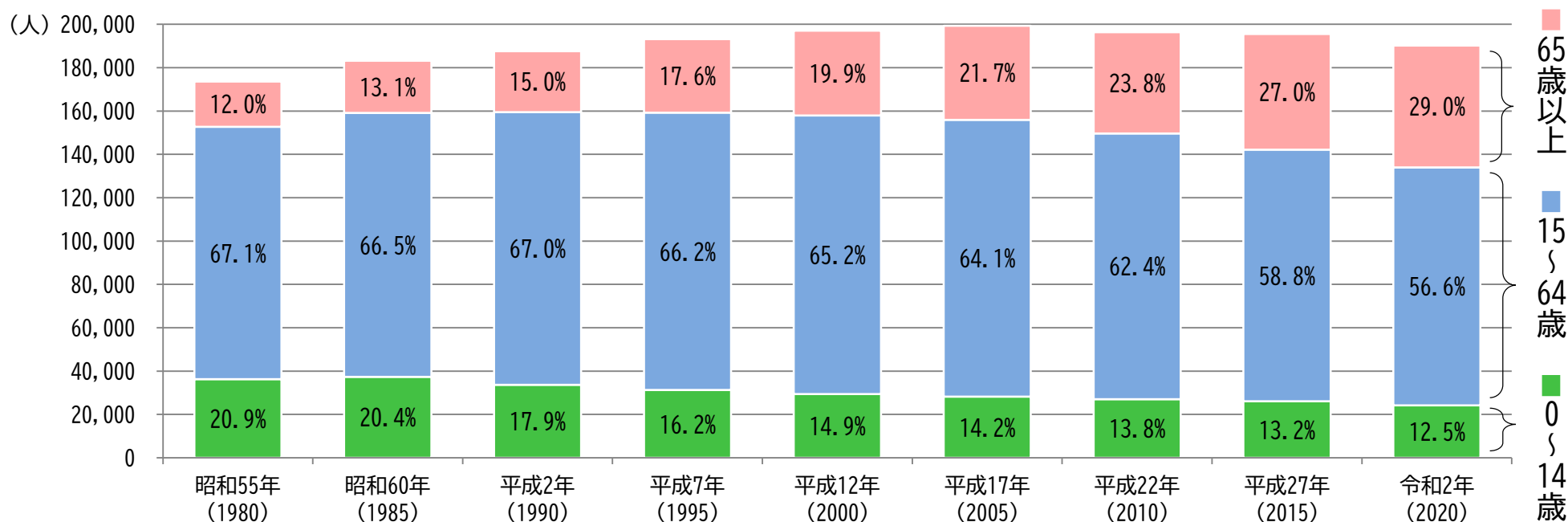
人口増減率の推移



(2) 年齢3区分別の人口の推移 (国勢調査)

本市における令和2(2020)年国勢調査の年齢3区分別人口を平成27(2015)年国勢調査と比較すると、少子高齢化が進行しています。

また、この年齢3区分別の比率の推移は、全国的な動きとほぼ同様の動きとなっています。



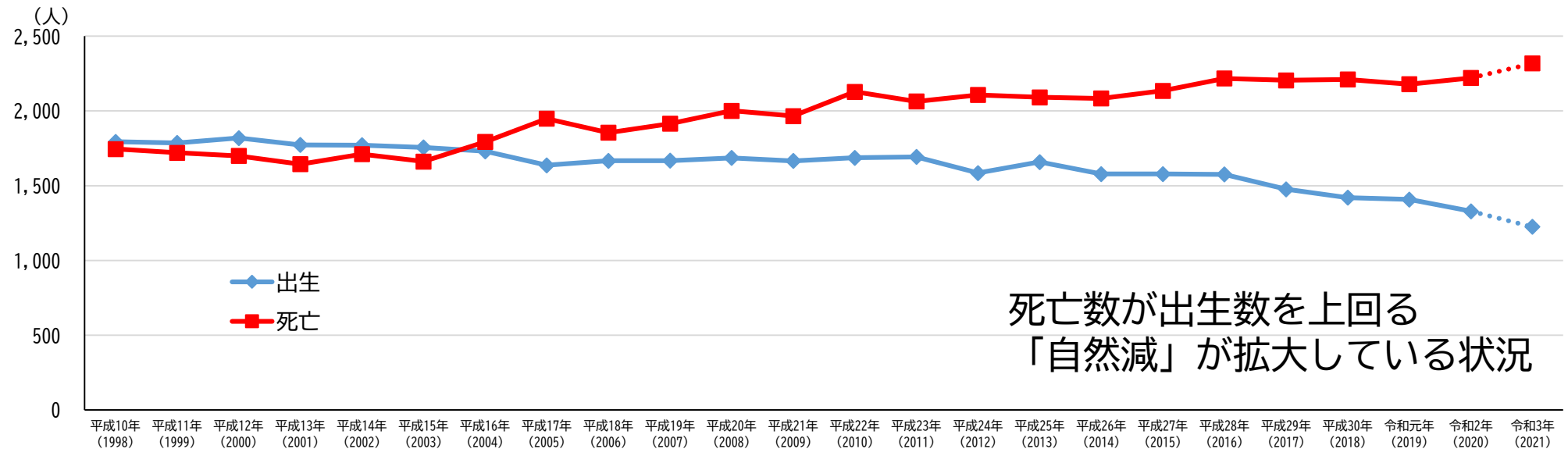
	昭和55年 (1980)	昭和60年 (1985)	平成2年 (1990)	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	令和2年 (2020)
総人口	173,590	183,149	187,793	193,172	197,115	199,297	196,628	197,422	193,966
65歳以上	20,858	23,964	28,136	33,930	39,212	43,297	46,709	53,325	56,173
15~64歳	116,463	121,830	125,809	127,841	128,441	127,766	122,614	116,106	109,862
0~14歳	36,259	37,351	33,667	31,373	29,459	28,221	27,045	26,118	24,166

- ・平成17年までの人口には、合併前の旧小郡町、旧秋穂町、旧阿知須町、旧徳地町、旧阿東町の人口を含む。
- ・総人口には「年齢不詳」を含むため、年齢区分の合計と総人口は異なる。

(3) 自然動態

①出生数・死亡数の推移

資料：（平成10年～令和元年）山口県統計年鑑
（令和2年～令和3年）山口市住民基本台帳



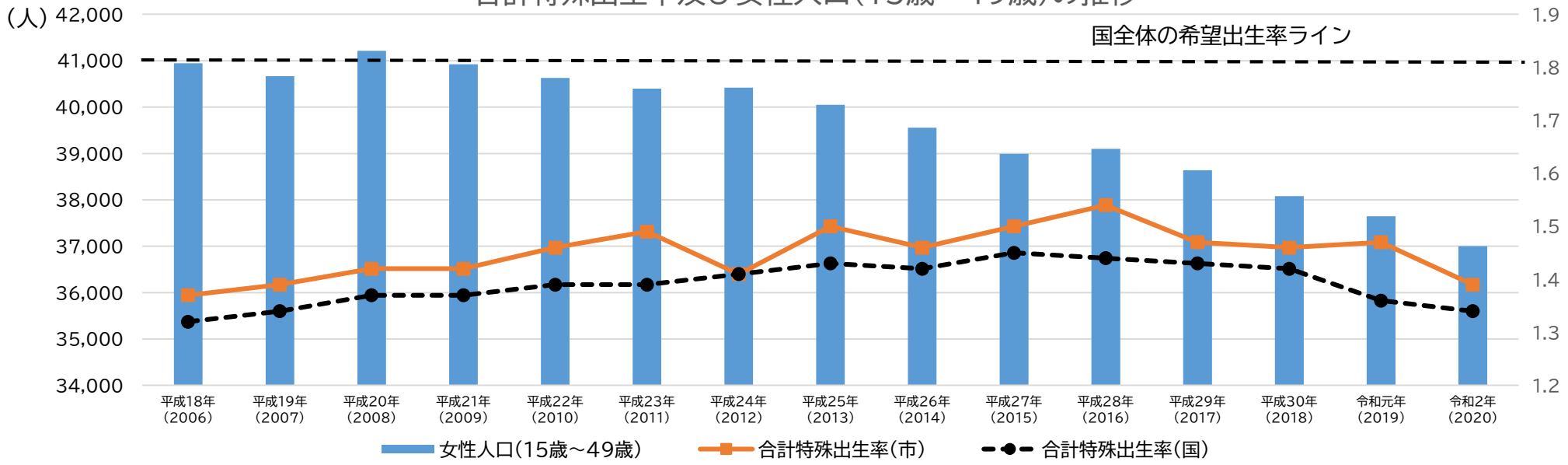
	平成10年 (1998)	平成11年 (1999)	平成12年 (2000)	平成13年 (2001)	平成14年 (2002)	平成15年 (2003)	平成16年 (2004)	平成17年 (2005)	平成18年 (2006)	平成19年 (2007)	平成20年 (2008)
出生	1,794	1,786	1,819	1,773	1,771	1,756	1,730	1,637	1,667	1,668	1,686
死亡	1,745	1,720	1,699	1,644	1,711	1,662	1,793	1,948	1,855	1,915	2,001
自然増減	49	66	120	129	60	94	-63	-311	-188	-247	-315

平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成25年 (2013)	平成26年 (2014)	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	《参考》 令和3年 (2021)
1,666	1,687	1,693	1,585	1,658	1,578	1,578	1,576	1,476	1,420	1,408	1,329	1,225
1,966	2,128	2,064	2,107	2,091	2,084	2,135	2,217	2,205	2,211	2,179	2,221	2,318
-300	-441	-376	-508	-433	-506	-557	-641	-729	-791	-771	-892	-1,093

②合計特殊出生率等の推移

資料：令和2年版厚生労働白書、令和3年版厚生労働白書
山口市住民基本台帳、山口市域の期間合計特殊出生率

合計特殊出生率及び女性人口(15歳～49歳)の推移



		平成18年(2006)	平成19年(2007)	平成20年(2008)	平成21年(2009)	平成22年(2010)	平成23年(2011)	平成24年(2012)	平成25年(2013)	平成26年(2014)	平成27年(2015)	平成28年(2016)	平成29年(2017)	平成30年(2018)	令和元年(2019)	令和2年(2020)	《参考》 希望出生率(※2)
国	合計特殊出生率(※1)	1.32	1.34	1.37	1.37	1.39	1.39	1.41	1.43	1.42	1.45	1.44	1.43	1.42	1.36	1.34	1.80
山口市	合計特殊出生率	1.37	1.39	1.42	1.42	1.46	1.49	1.41	1.50	1.46	1.50	1.54	1.47	1.46	1.47	1.39	
	女性人口(人)(15歳～49歳)	40,945	40,667	41,212	40,922	40,627	40,398	40,420	40,051	39,557	38,993	39,099	38,639	38,078	37,645	36,999	

(※1) 合計特殊出生率とは、人口統計上の指標で、15歳～49歳までの女性の年齢別の出生率を合計したもの。一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの子ども的人数に相当する。

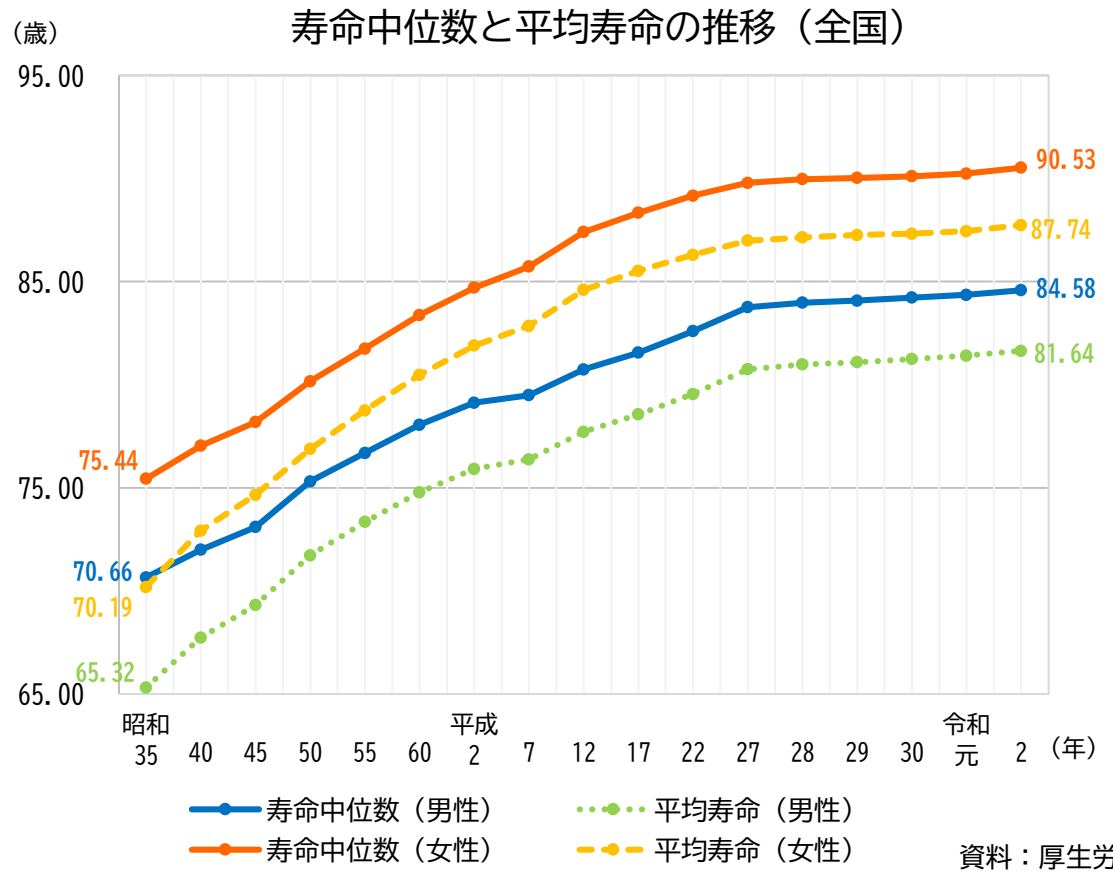
(※2) 希望出生率とは、結婚、妊娠・出産、子育てに関する国民の希望がかなうとした場合に想定される出生率。国立社会保障・人口問題研究所が行った「出生動向基本調査」で把握した結婚や子ども数の希望等を基に、一定の仮定に基づき算出すると、国全体では、概ね1.8程度となるとされている。

算出法：希望出生率 = ((既婚者割合 × 夫婦の予定子ども数) + (未婚者割合 × 未婚者の結婚希望割合 × 理想の子ども数)) × 離別等効果

③ 「高齢者」の状況について ～人生100年時代の到来～

ア 寿命中位数等について

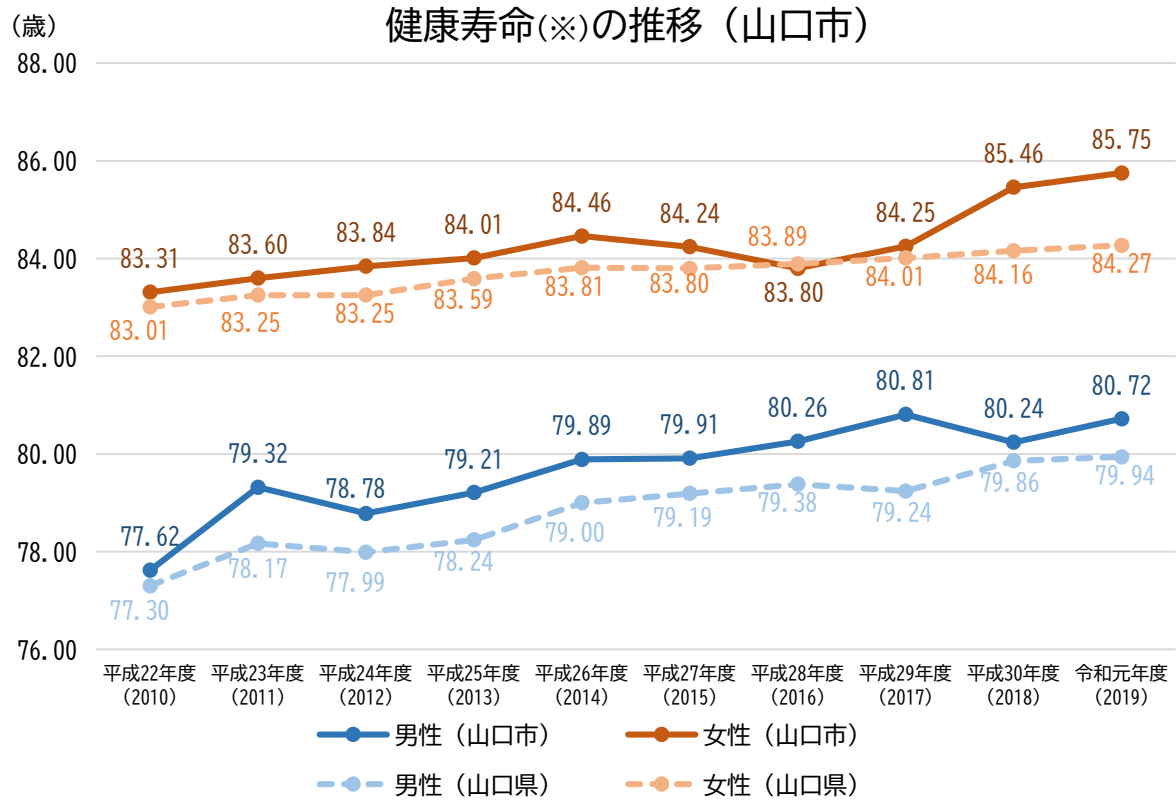
- 厚生労働省の統計によると、出生者のうち半数が生存すると期待される「寿命中位数」については、令和2(2020)年に生まれた子どもの約半数が、男性84.58歳、女性が90.53歳まで生存すると推計されています。
 - ある海外の研究(※)によると、「2007年に日本で生まれた子供の半数が107歳より長く生きる」と推計されており、我が国は、健康寿命が世界一の長寿社会を迎えています。
- (※) アメリカのカリフォルニア大学バークレー校とドイツのマックス・プランク人口研究所が共同研究した人間の生命に関するデータ



資料：厚生労働省 令和2年簡易生命表の概況

③ 「高齢者」の状況について ～人生100年時代の到来～ イ 健康寿命の推移について

- 本市の健康寿命については、男女ともに80歳を超え、県平均を上回っています。
- 「高齢者に関する定義検討ワーキンググループ報告書」によると、**高齢者については、加齢に伴う身体・心理機能の変化の出現が10～20年前と比較すると、5～10年遅延しており、「若返り」現象がみられているとされています。**
 (日本老年学会・日本老年医学会「高齢者に関する定義検討ワーキンググループ報告書(平成29年3月)」)

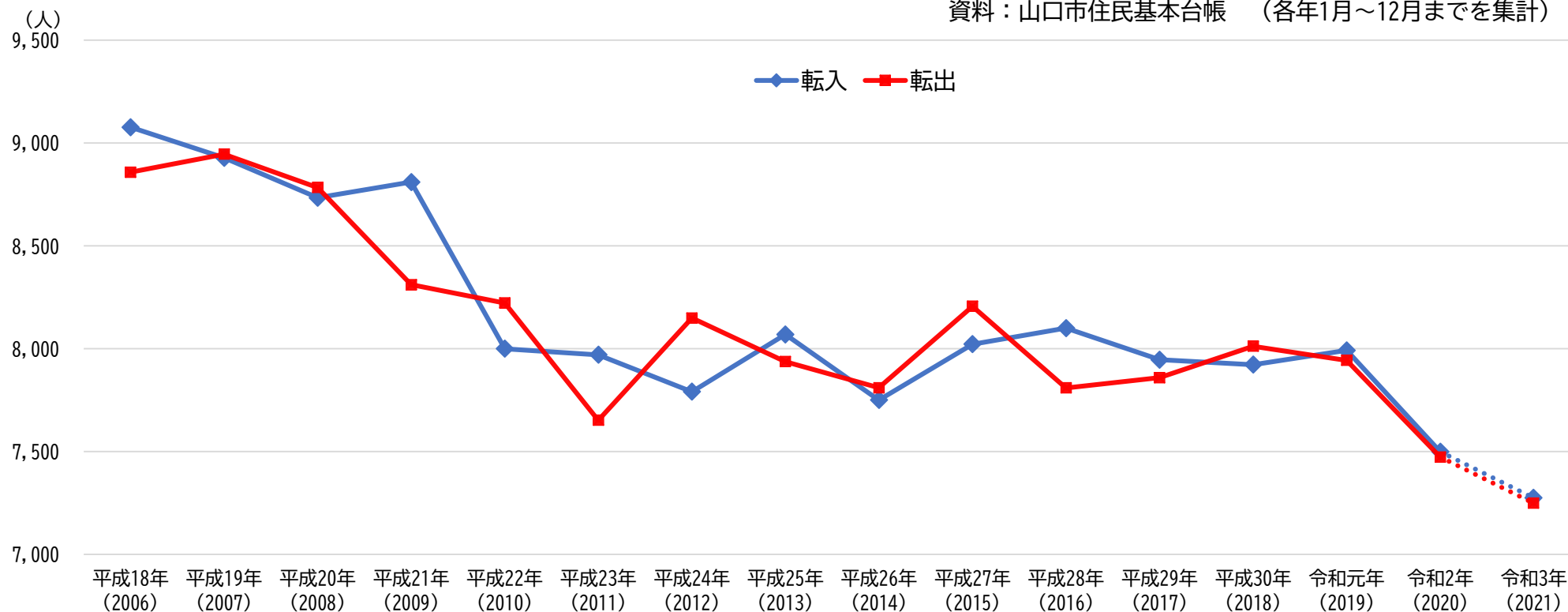


(※) 「日常生活動作が自立している期間の平均」 (要介護2以上になるまでの期間) を指す。 資料：山口県健康増進課

(4) 社会動態

① 転入数・転出数の推移

資料：山口市住民基本台帳（各年1月～12月までを集計）

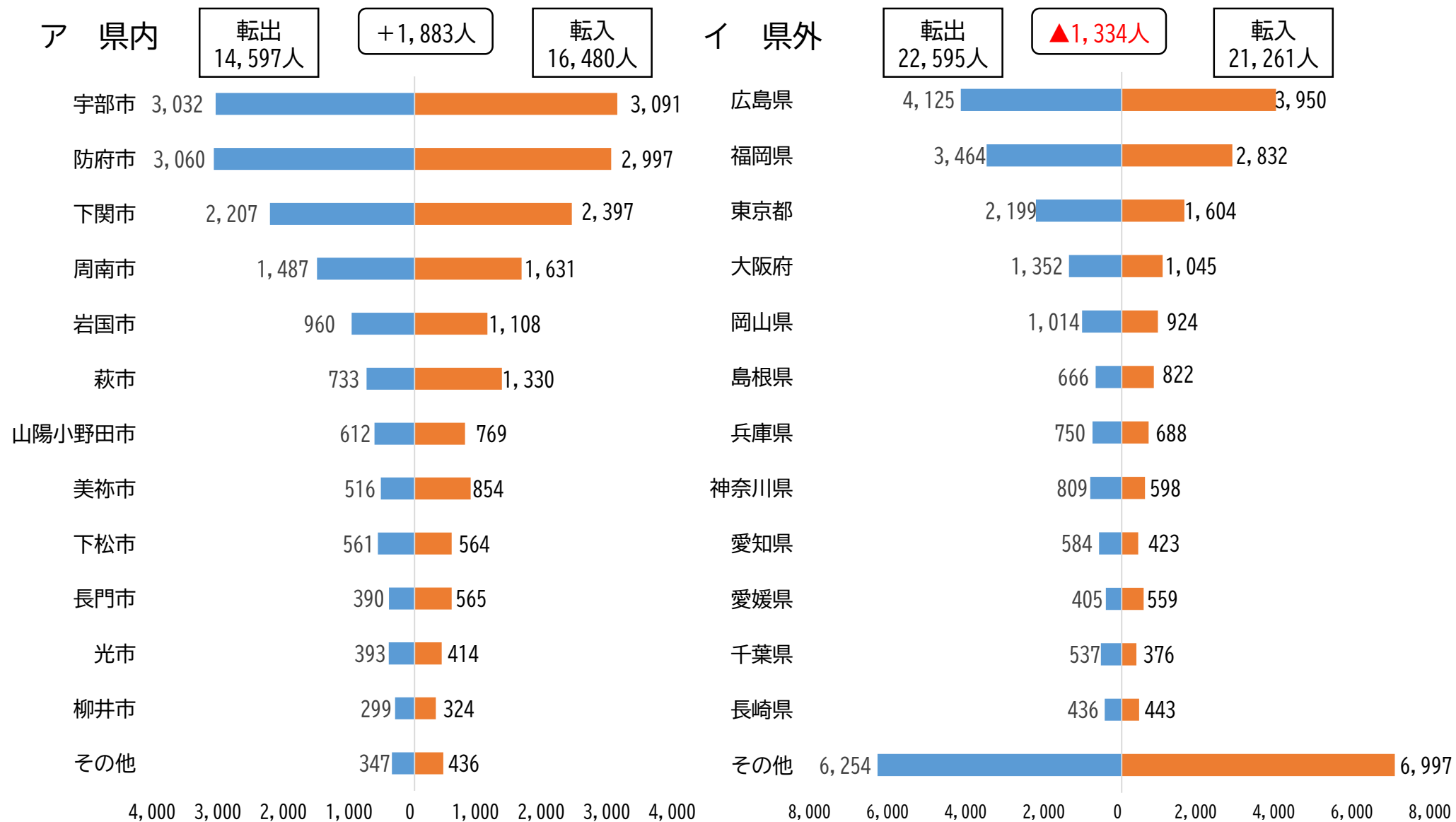


	平成18年 (2006)	平成19年 (2007)	平成20年 (2008)	平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成25年 (2013)	平成26年 (2014)	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	《参考》 令和3年 (2021)
転入数	9,077	8,928	8,734	8,810	8,000	7,970	7,791	8,069	7,750	8,022	8,100	7,946	7,922	7,992	7,499	7,274
転出数	8,858	8,946	8,784	8,311	8,222	7,652	8,149	7,937	7,810	8,206	7,809	7,859	8,012	7,943	7,473	7,248
社会増減	219	-18	-50	499	-222	318	-358	132	-60	-184	291	87	-90	49	26	26

②県内・県外別の転入数・転出数の状況

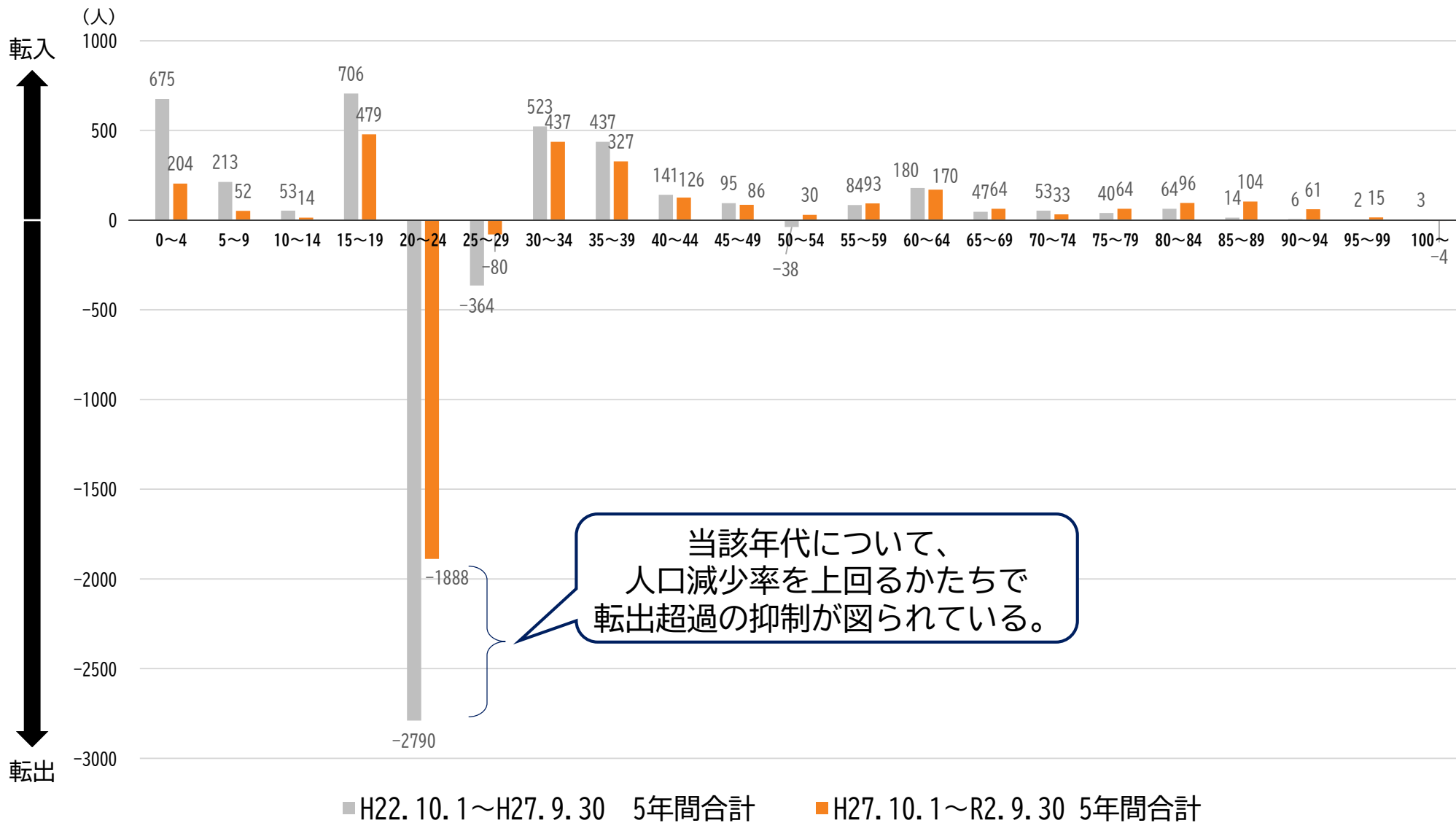
市内21地域別の転出入状況は23ページ～43ページ参照

資料：山口市住民基本台帳（平成27年10月1日～令和2年9月30日までの合計）



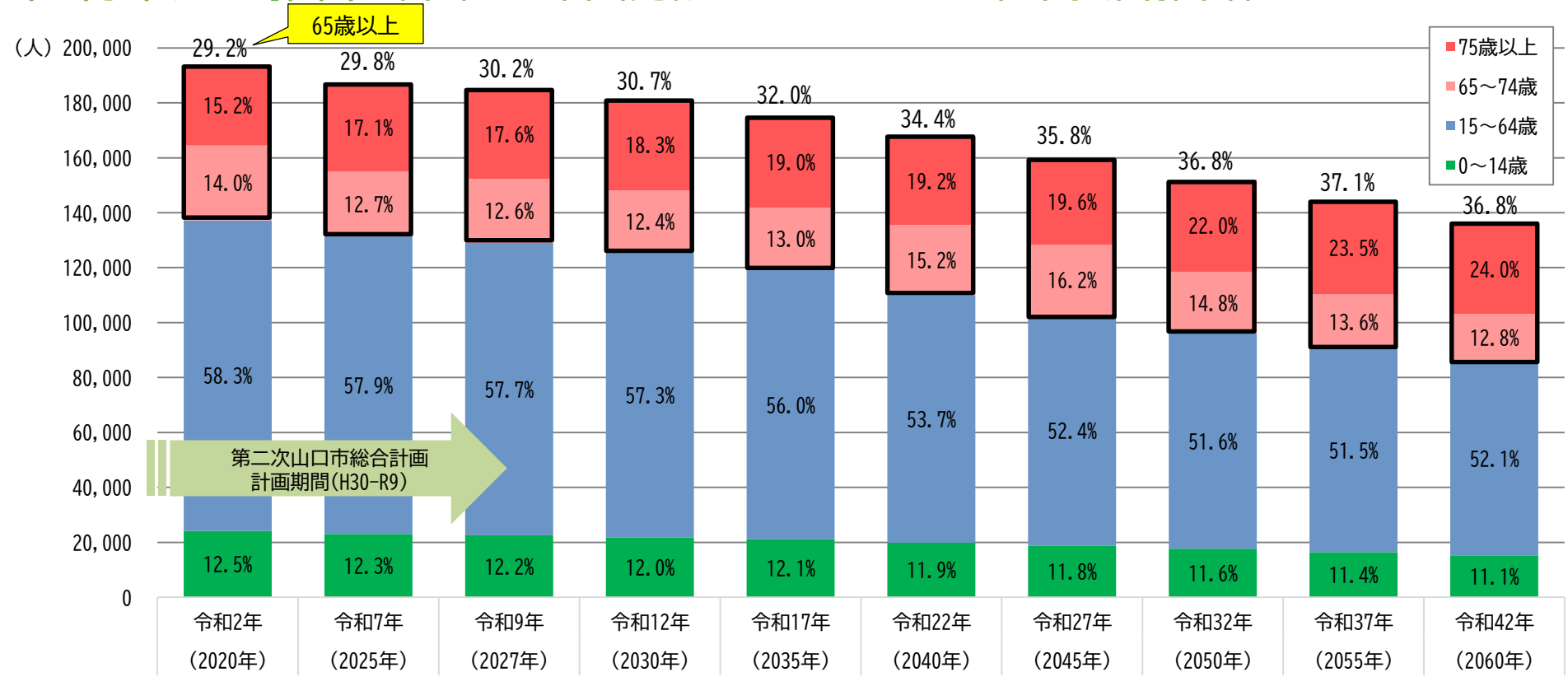
③年齢（5歳階級）別の転入数・転出数の状況

資料：山口市住民基本台帳（各年10月～翌9月までを集計）



2 本市全体の将来人口推計等

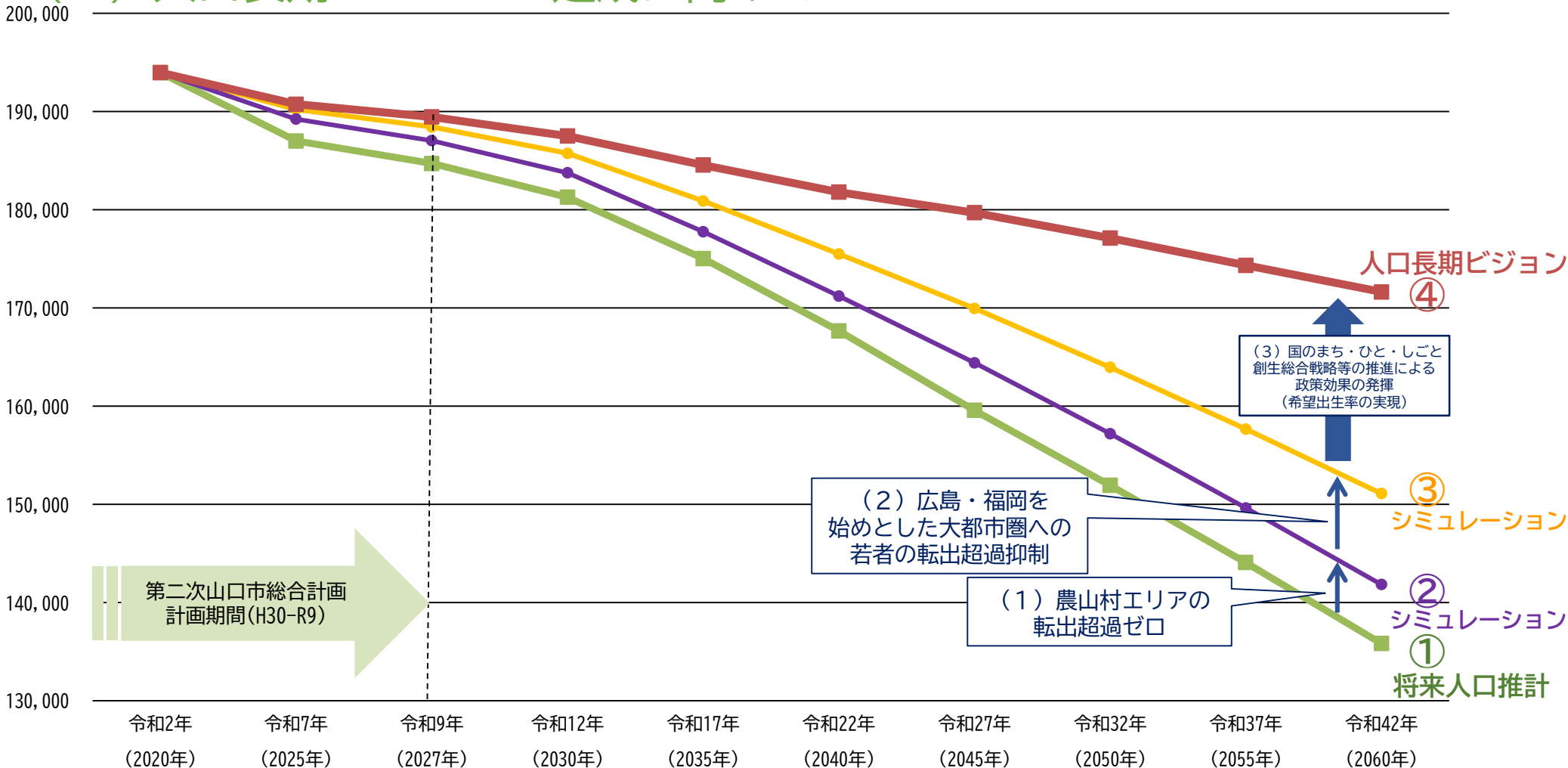
(1) 将来人口推計 (令和2年国勢調査に基づいた本市独自推計)



	令和2年 (2020年)	令和7年 (2025年)	令和9年 (2027年)	令和12年 (2030年)	令和17年 (2035年)	令和22年 (2040年)	令和27年 (2045年)	令和32年 (2050年)	令和37年 (2055年)	令和42年 (2060年)
総人口	193,966	187,005	184,715	181,279	175,035	167,676	159,584	151,948	144,079	135,832
65歳以上	56,750	55,684	55,668	55,644	55,946	57,691	57,042	55,918	53,509	49,983
75歳以上	29,509	31,906	32,437	33,234	33,247	32,176	31,236	33,398	33,867	32,655
65~74歳	27,241	23,778	23,231	22,410	22,699	25,515	25,806	22,520	19,642	17,327
15~64歳	113,032	108,312	106,517	103,825	97,936	90,078	83,696	78,335	74,150	70,759
0~14歳	24,184	23,010	22,530	21,810	21,153	19,908	18,846	17,696	16,420	15,091

(※) 2015年と2020年の国勢調査結果から、こども女性比及び0-4歳性比を算出し、山口市住民基本台帳（2015年と2020年）から移動率を算出し、本市独自に推計した。

(2) 人口長期ビジョンの達成に向けて

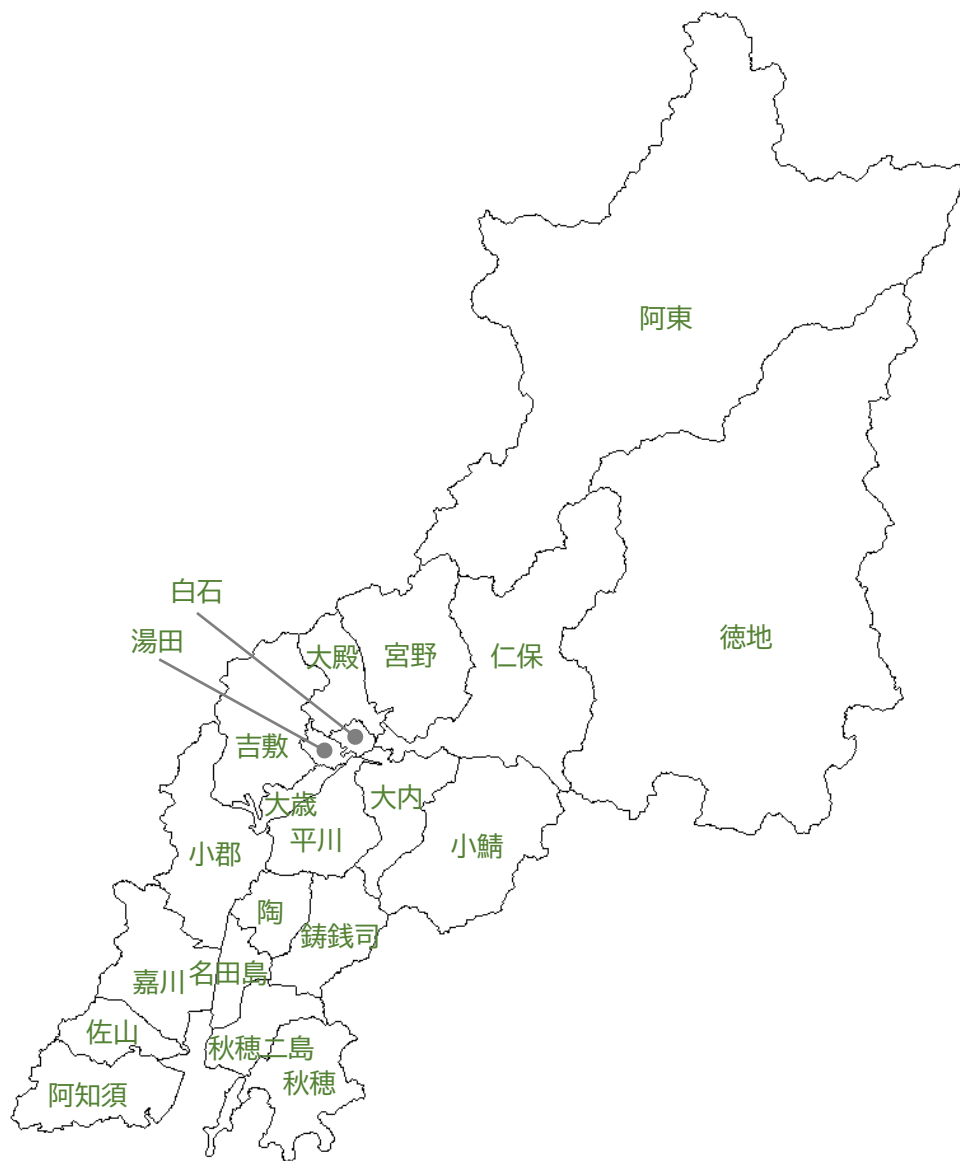


	令和2年 (2020年)	令和7年 (2025年)	令和9年 (2027年)	令和12年 (2030年)	令和17年 (2035年)	令和22年 (2040年)	令和27年 (2045年)	令和32年 (2050年)	令和37年 (2055年)	令和42年 (2060年)
④人口長期ビジョン ※	193,966	190,754	189,459	187,517	184,566	181,806	179,703	177,120	174,350	171,642
③シミュレーション	193,966	190,221	188,435	185,757	180,904	175,510	169,968	163,965	157,673	151,107
②シミュレーション	193,966	189,236	187,050	183,770	177,767	171,218	164,415	157,207	149,638	141,842
①将来人口推計	193,966	187,005	184,715	181,279	175,035	167,676	159,584	151,948	144,079	135,832

※人口長期ビジョンは、令和2(2020)年国勢調査結果を踏まえて、修正している。

3 市内21地域の人口動態・将来人口推計

(1) 市内21地域の位置・概要



地域	面積	人口 (令和 年国勢調査)	人口密度 (令和 年国勢調査)
大 殿	13.07 k	7,353	563 人/km ²
白 石	4.71 k	10,467	2,222 人/km ²
湯 田	4.09 k	13,185	3,224 人/km ²
仁 保	72.85 k	3,019	41 人/km ²
小 鯖	43.83 k	4,347	99 人/km ²
大 内	24.92 k	22,715	912 人/km ²
宮 野	38.42 k	14,214	370 人/km ²
吉 敷	26.67 k	14,602	548 人/km ²
平 川	19.61 k	20,744	1,058 人/km ²
大 歳	10.82 k	13,924	1,287 人/km ²
陶	11.52 k	2,328	202 人/km ²
鑄 銭 司	20.42 k	2,763	135 人/km ²
名 田 島	8.93 k	1,187	133 人/km ²
秋 穂 二 島	16.15 k	2,099	130 人/km ²
嘉 川	28.87 k	6,611	229 人/km ²
佐 山	12.02 k	2,656	221 人/km ²
小 郡	33.40 k	26,344	789 人/km ²
秋 穂	24.09 k	6,113	254 人/km ²
阿 知 須	25.49 k	9,233	362 人/km ²
徳 地	290.35 k	5,196	18 人/km ²
阿 東	293.08 k	4,866	17 人/km ²

(2) 市内21地域における人口の推移（国勢調査）

地区	S55 (1980)	S60 (1985)	H2 (1990)	H7 (1995)	H12 (2000)	H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	R2 (2020)	R2/H7 25年間増減率	R2/H27 5年間増減率
大 殿	12,312	11,671	10,266	9,103	8,826	8,059	7,496	7,566	7,353	▲19.2%	▲2.8%
白 石	10,622	9,726	10,514	10,269	9,399	10,064	9,941	10,390	10,467	1.9%	0.7%
湯 田	14,599	15,076	14,025	14,137	13,846	13,430	12,588	12,981	13,185	▲6.7%	1.6%
仁 保	4,026	4,239	4,104	3,904	3,849	3,721	3,579	3,256	3,019	▲22.7%	▲7.3%
小 鯖	3,470	4,779	5,067	5,428	5,310	5,066	4,768	4,706	4,347	▲19.9%	▲7.6%
大 内	11,708	14,220	15,991	18,341	20,439	21,494	22,158	22,878	22,715	23.8%	▲0.7%
宮 野	11,894	12,863	13,217	13,851	14,549	15,343	15,509	15,136	14,214	2.6%	▲6.1%
吉 敷	7,319	8,549	10,602	12,195	13,741	14,494	14,450	14,823	14,602	19.7%	▲1.5%
平 川	10,596	13,275	14,859	16,307	17,531	19,380	19,479	20,402	20,744	27.2%	1.7%
大 歳	7,182	8,023	9,442	10,745	11,969	12,842	13,036	13,481	13,924	29.6%	3.3%
陶	2,515	2,715	2,804	2,889	2,772	2,733	2,688	2,584	2,328	▲19.4%	▲9.9%
鑄 銭 司	3,379	3,809	3,773	3,755	3,571	3,369	3,153	3,064	2,763	▲26.4%	▲9.8%
名 田 島	1,945	1,889	1,783	1,689	1,651	1,504	1,410	1,290	1,187	▲29.7%	▲8.0%
秋 穂 二 島	3,577	3,547	3,382	3,188	2,999	2,827	2,573	2,333	2,099	▲34.2%	▲10.0%
嘉 川	6,824	7,016	6,932	7,136	7,130	7,055	6,874	6,533	6,611	▲7.4%	1.2%
佐 山	2,776	2,816	2,700	2,642	2,865	2,876	2,833	2,704	2,656	0.5%	▲1.8%
小 郡	18,832	20,116	21,772	22,881	23,107	23,009	24,250	25,502	26,344	15.1%	3.3%
秋 穂	9,060	8,997	8,481	8,149	7,941	7,697	7,262	6,680	6,113	▲25.0%	▲8.5%
阿 知 須	8,327	8,407	8,385	8,300	8,823	9,031	9,176	9,426	9,233	11.2%	▲2.0%
徳 地	11,137	10,571	9,753	9,130	8,375	7,683	6,771	5,915	5,196	▲43.1%	▲12.2%
阿 東	11,490	10,845	9,941	9,133	8,422	7,620	6,634	5,772	4,866	▲46.7%	▲15.7%
総 数	173,590	183,149	187,793	193,172	197,115	199,297	196,628	197,422	193,966	0.4%	▲1.8%

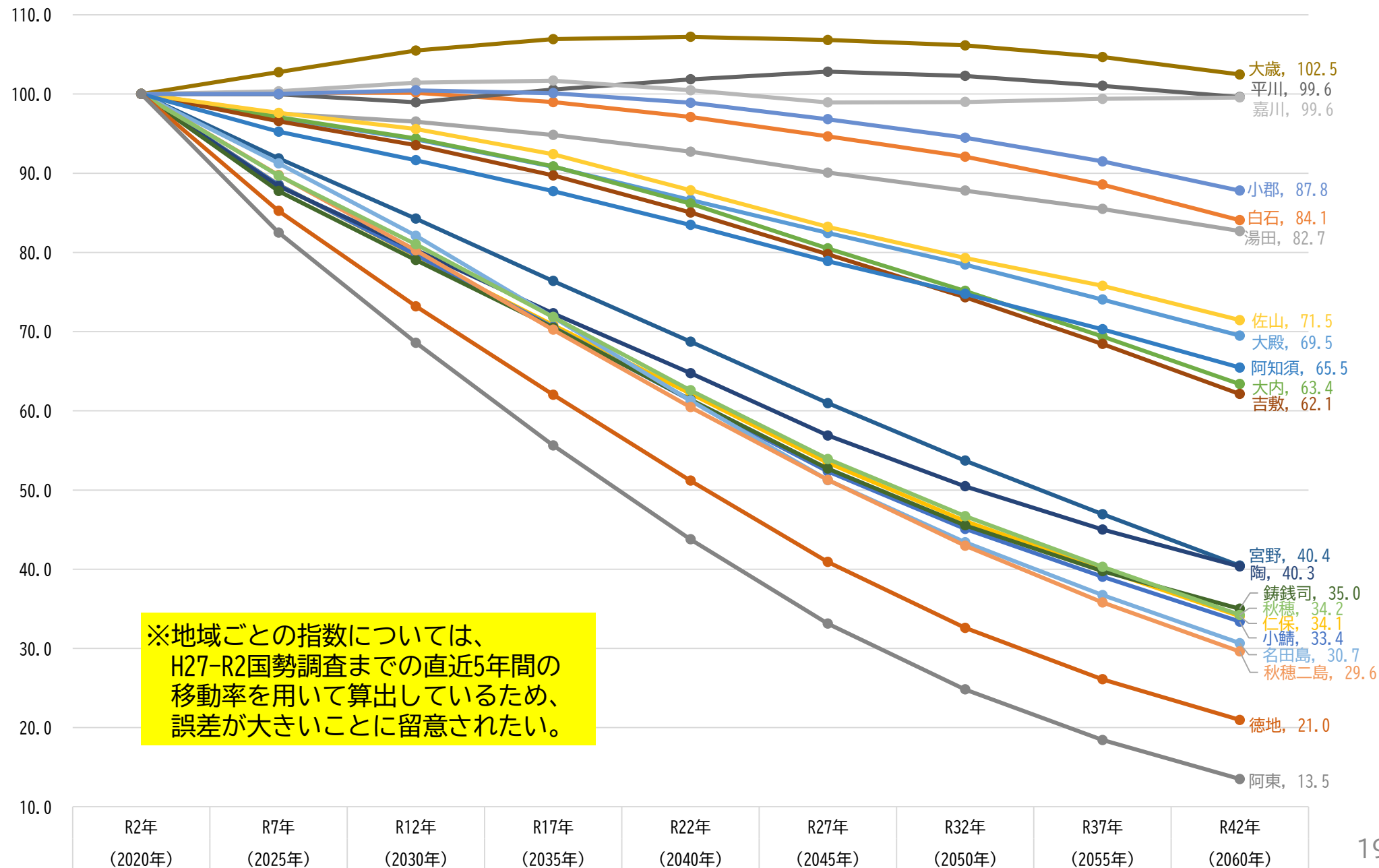
(3) 市内21地域別の将来人口推計等（令和2年国勢調査に基づいた本市独自推計）

① 将来人口推計（15ページの将来人口推計①）

	R2年 (2020年)	R7年 (2025年)	R12年 (2030年)	R17年 (2035年)	R22年 (2040年)	R27年 (2045年)	R32年 (2050年)	R37年 (2055年)	R42年 (2060年)
大殿	7,353	7,130	6,932	6,678	6,370	6,063	5,769	5,445	5,110
白石	10,467	10,484	10,485	10,361	10,163	9,907	9,640	9,270	8,800
湯田	13,185	12,863	12,725	12,503	12,225	11,877	11,578	11,273	10,904
仁保	3,019	2,674	2,403	2,139	1,877	1,613	1,392	1,206	1,028
小鯖	4,347	3,849	3,463	3,069	2,666	2,276	1,960	1,697	1,451
大内	22,715	22,051	21,439	20,641	19,573	18,288	17,067	15,763	14,398
野	14,214	13,060	11,978	10,858	9,770	8,666	7,634	6,672	5,749
吉敷	14,602	14,102	13,658	13,101	12,418	11,649	10,854	9,995	9,072
平川	20,744	20,737	20,527	20,860	21,130	21,330	21,219	20,959	20,667
大歳	13,924	14,310	14,688	14,890	14,930	14,875	14,780	14,575	14,268
陶	2,328	2,057	1,870	1,683	1,508	1,324	1,175	1,048	939
鑄銭司	2,763	2,424	2,184	1,948	1,697	1,456	1,258	1,098	967
畠島	1,187	1,083	975	853	728	608	515	436	364
秋穂二島	2,099	1,884	1,685	1,474	1,269	1,076	902	752	621
嘉川	6,611	6,634	6,706	6,723	6,643	6,541	6,545	6,570	6,582
佐山	2,656	2,593	2,539	2,454	2,333	2,211	2,106	2,013	1,898
小郡	26,344	26,347	26,466	26,375	26,053	25,506	24,894	24,102	23,130
秋穂	6,113	5,483	4,953	4,392	3,826	3,296	2,855	2,463	2,093
阿須	9,233	8,795	8,461	8,101	7,707	7,285	6,903	6,490	6,045
徳池	5,196	4,429	3,803	3,223	2,659	2,126	1,694	1,356	1,090
阿東	4,866	4,015	3,338	2,707	2,130	1,612	1,208	897	657
合計	193,966	187,005	181,279	175,035	167,676	159,584	151,948	144,079	135,832

※2015年と2020年の国勢調査結果から、こども女性比及び0-4歳比を算出し、また、山口市住民基本台帳（2015年と2020年）から人口移動率を算出し、本市独自に推計した。なお、人口移動率は、地域ごとに算出した5年間（2015年と2020年）の移動率を適用している。

② 将来人口推計の人口増減指数 令和2年（2020年）の人口を基準値100とした場合



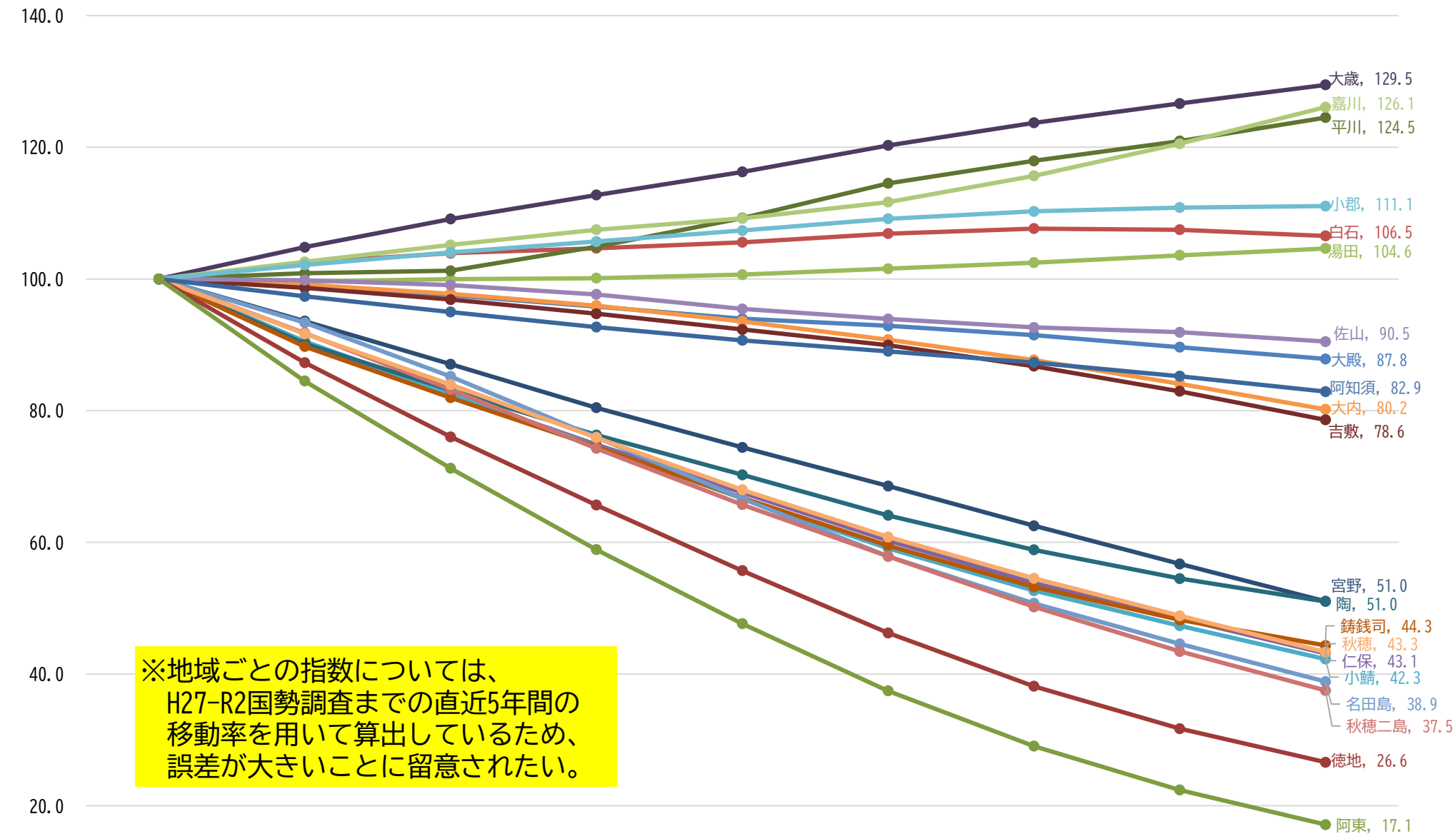
③ 人口長期ビジョン（15ページの人口長期ビジョン④）

	R2年 (2020年)	R7年 (2025年)	R12年 (2030年)	R17年 (2035年)	R22年 (2040年)	R27年 (2045年)	R32年 (2050年)	R37年 (2055年)	R42年 (2060年)
大殿	7,353	7,273	7,171	7,042	6,907	6,827	6,725	6,589	6,457
白石	10,467	10,694	10,846	10,925	11,020	11,156	11,237	11,217	11,120
湯田	13,185	13,121	13,163	13,184	13,255	13,374	13,496	13,641	13,778
仁保	3,019	2,727	2,485	2,255	2,036	1,816	1,622	1,459	1,300
小鯖	4,347	3,926	3,582	3,236	2,891	2,563	2,285	2,054	1,834
大内	22,715	22,493	22,177	21,765	21,222	20,594	19,895	19,075	18,193
野	14,214	13,322	12,390	11,449	10,593	9,758	8,899	8,074	7,265
吉敷	14,602	14,385	14,128	13,814	13,464	13,117	12,652	12,095	11,464
平川	20,744	21,153	21,234	21,996	22,911	24,019	24,734	25,363	26,115
大歳	13,924	14,596	15,193	15,701	16,188	16,750	17,229	17,637	18,029
陶	2,328	2,099	1,934	1,775	1,635	1,491	1,370	1,268	1,187
鑄銭司	2,763	2,473	2,259	2,054	1,840	1,640	1,467	1,329	1,222
畠島	1,187	1,105	1,008	899	789	685	601	528	460
秋穂二島	2,099	1,922	1,743	1,555	1,376	1,212	1,051	909	785
嘉川	6,611	6,767	6,937	7,089	7,203	7,366	7,629	7,951	8,318
佐山	2,656	2,645	2,626	2,588	2,530	2,489	2,455	2,436	2,398
小郡	26,344	26,876	27,377	27,811	28,249	28,722	29,017	29,166	29,228
秋穂	6,113	5,593	5,124	4,631	4,149	3,711	3,327	2,981	2,644
阿和須	9,233	8,972	8,753	8,543	8,357	8,203	8,046	7,854	7,638
徳池	5,196	4,518	3,934	3,399	2,883	2,394	1,974	1,641	1,377
阿東	4,866	4,095	3,453	2,854	2,309	1,815	1,408	1,085	830
合計	193,966	190,754	187,517	184,566	181,806	179,703	177,120	174,350	171,642

※内閣官房まちひとしごと創生本部事務局提供データ（令和元年6月）により推計した。

移動数については、第2期山口市まち・ひと・しごと創生総合戦略における人口長期ビジョンの算出条件による。

④ 人口長期ビジョンの人口増減指数 令和2年（2020年）の人口を基準値100とした場合



R2年 (2020年)	R7年 (2025年)	R12年 (2030年)	R17年 (2035年)	R22年 (2040年)	R27年 (2045年)	R32年 (2050年)	R37年 (2055年)	R42年 (2060年)
-------------	-------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------	--------------

(4) 市内21地域別の人口動態の状況

長期にわたり人口減少が進んでいる地域（A）は、大殿、仁保、小鯖、陶、鑄銭司、名田島、秋穂二島、秋穂、徳地、阿東の10地域で、直近5年間で人口減少が進んでいる地域（B）は、仁保、小鯖、陶、鑄銭司、名田島、秋穂二島、秋穂、徳地、阿東の9地域。

また、直近5年間で転出超過となっている地域（C）は、仁保、小鯖、大内、宮野、吉敷、陶、名田島、秋穂二島、秋穂、徳地、阿東の11地域。



	A	B	C
	長期にわたって人口減少が進んでいる地域	直近5年間で人口減少が進んでいる地域	直近5年間で転出超過となっている地域
1	○	○	○
2	○	○	
3	○		
4			○
5			

A：国勢調査におけるH7年とR2年の25年間を比較して、人口増減率がおおむね▲20%の地域

B：国勢調査におけるH27年とR2年の5年間を比較して、人口増減率がおおむね▲10%の地域

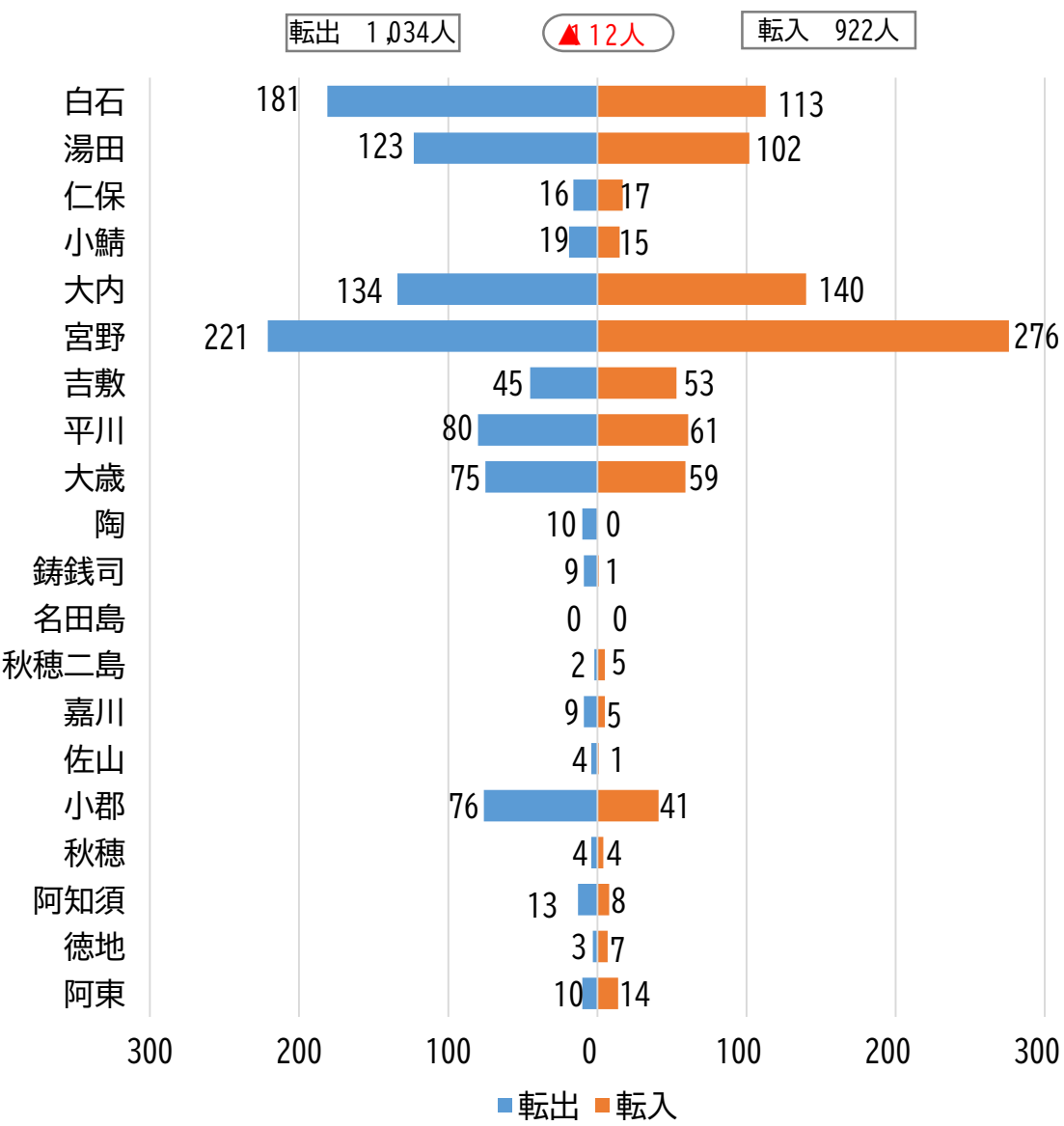
C：H27.10.1～R2.9.30の5年間に於いて、市内・県内・県外への転出が、転入を上回っている地域

本市においては、農山村エリアにおいて、人口減少が長期にわたり続いています。
(地図上のオレンジ、黄色の地域)

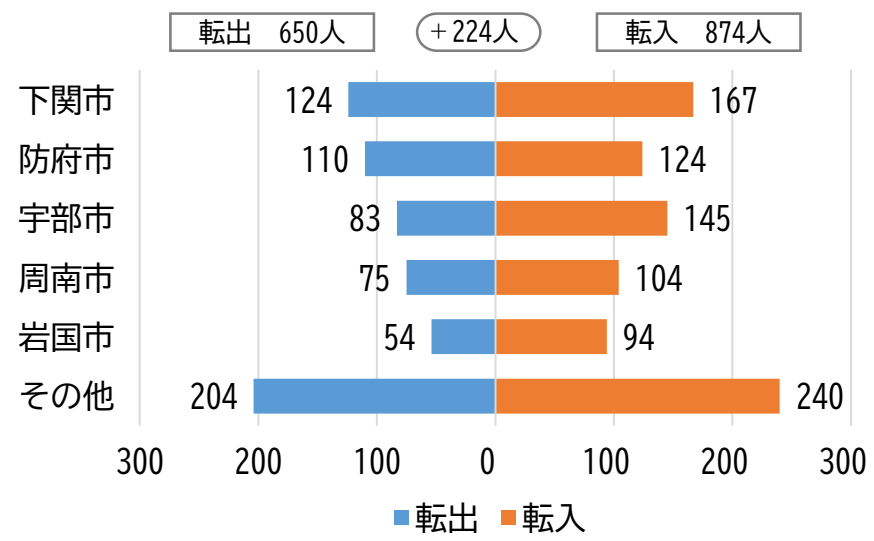
【参考①】 大殿地域 市内・県内・県外の転出入状況 (H27.10.1~R2.9.30)

【5年間の人口増減】
+35人

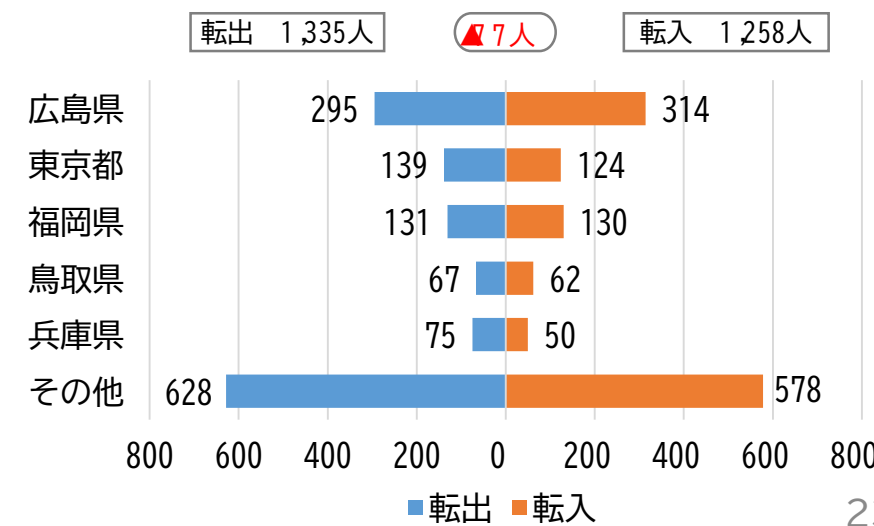
①市内の転出入状況



②県内の転出入状況 (上位5市町)



③県外の転出入状況 (上位5都道府県)

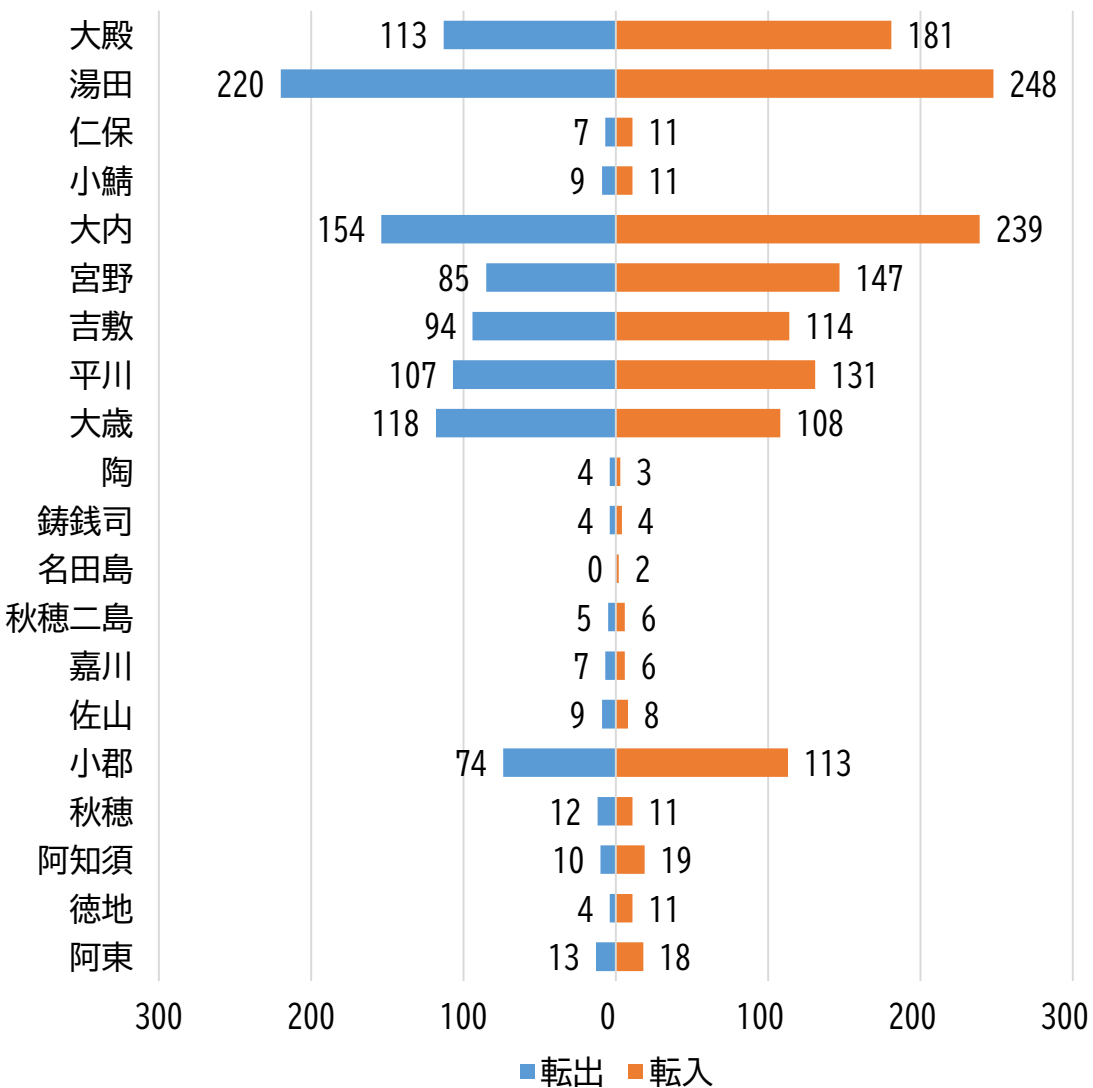


【参考②】白石地域 市内・県内・県外の転出入状況 (H27.10.1~R2.9.30)

【5年間の人口増減】
+468人

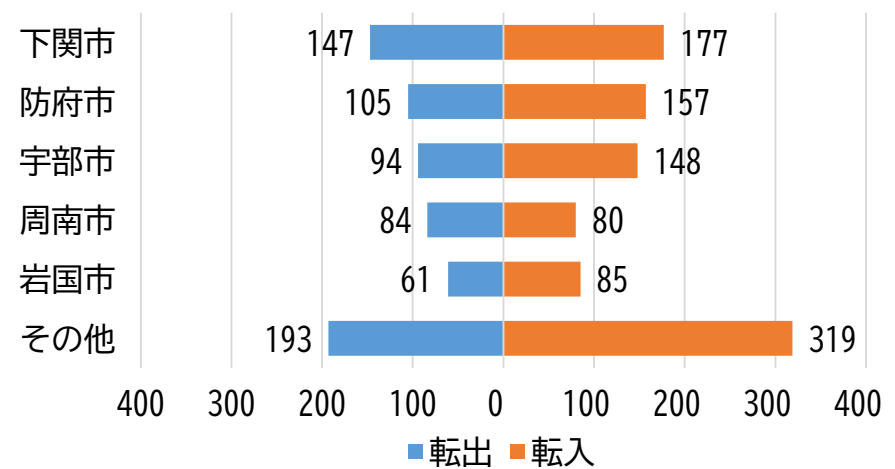
①市内の転出入状況

転出 1,049人 +342人 転入 1,391人



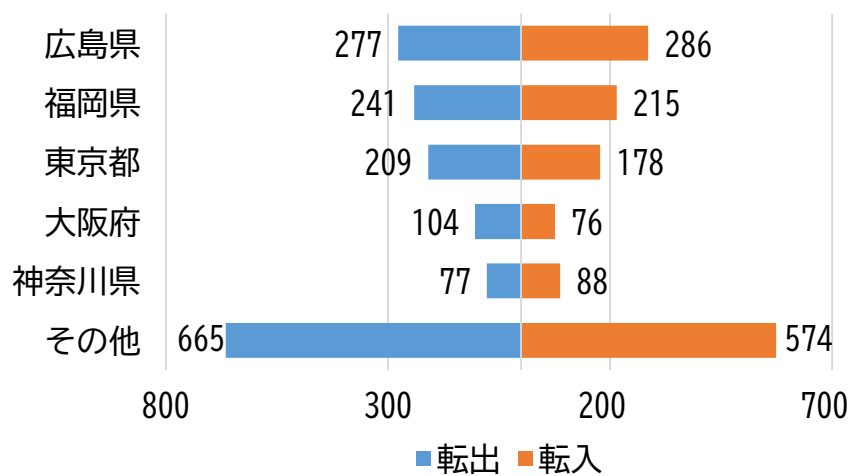
②県内の転出入状況 (上位5市町)

転出 684人 +282人 転入 966人



③県外の転出入状況 (上位5都道府県)

転出 1,573人 ▲56人 転入 1,417人

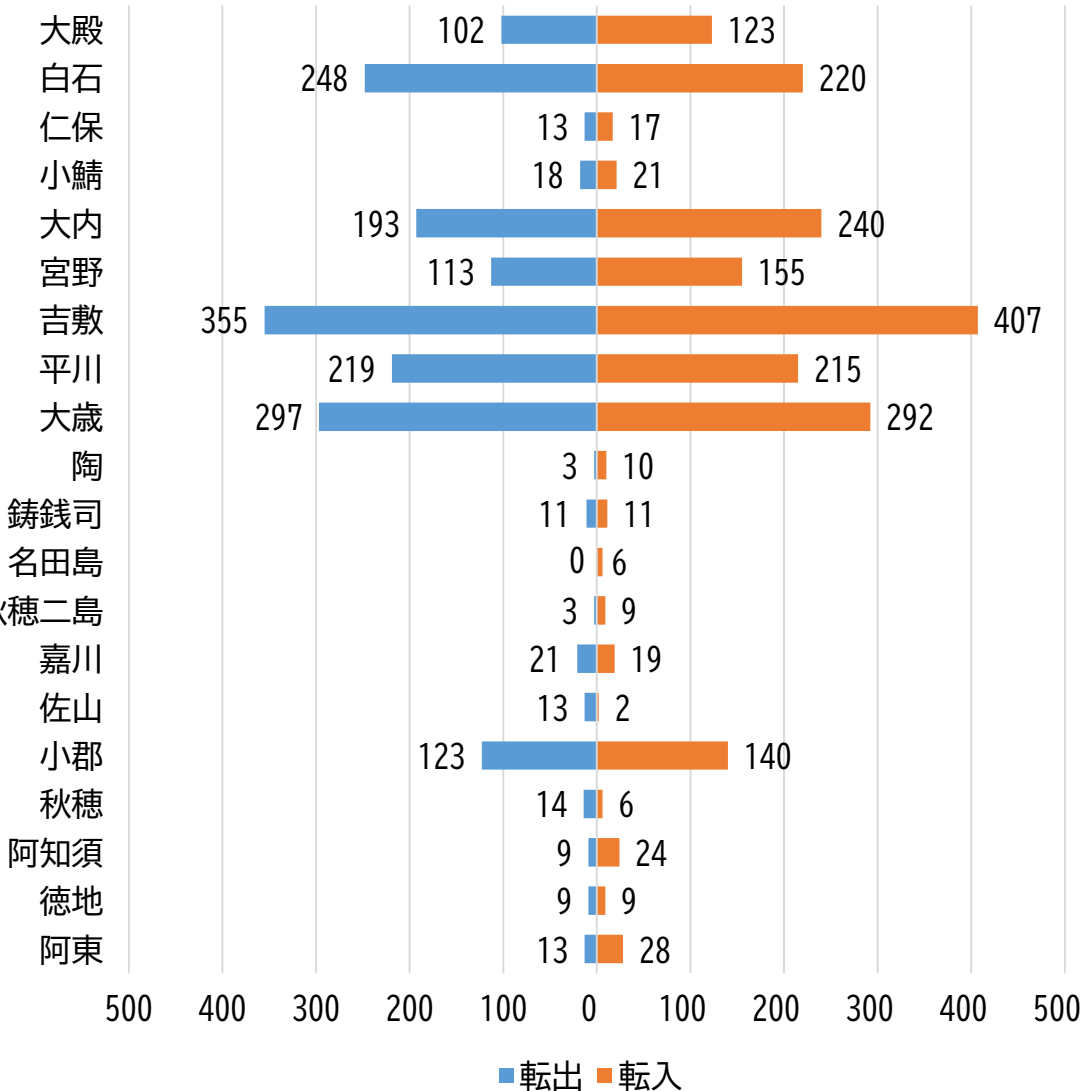


【参考③】湯田地域 市内・県内・県外の転出入状況 (H27.10.1~R2.9.30)

【5年間の人口増減】
+278人

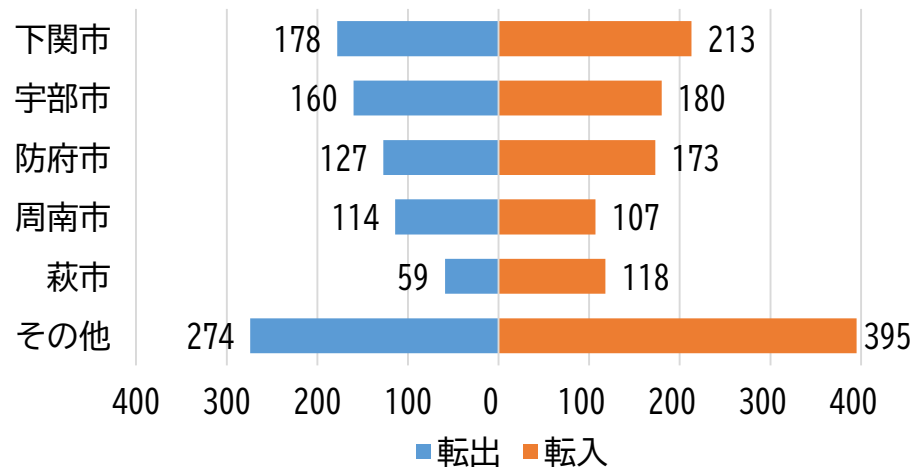
①市内の転出入状況

転出 1,777人 (+177人) 転入 1,954人



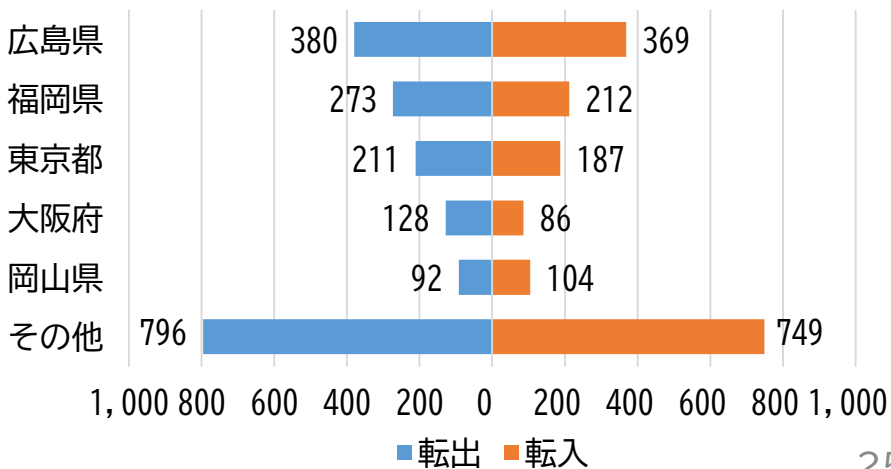
②県内の転出入状況 (上位5市町)

転出 912人 (+274人) 転入 1,186人



③県外の転出入状況 (上位5都道府県)

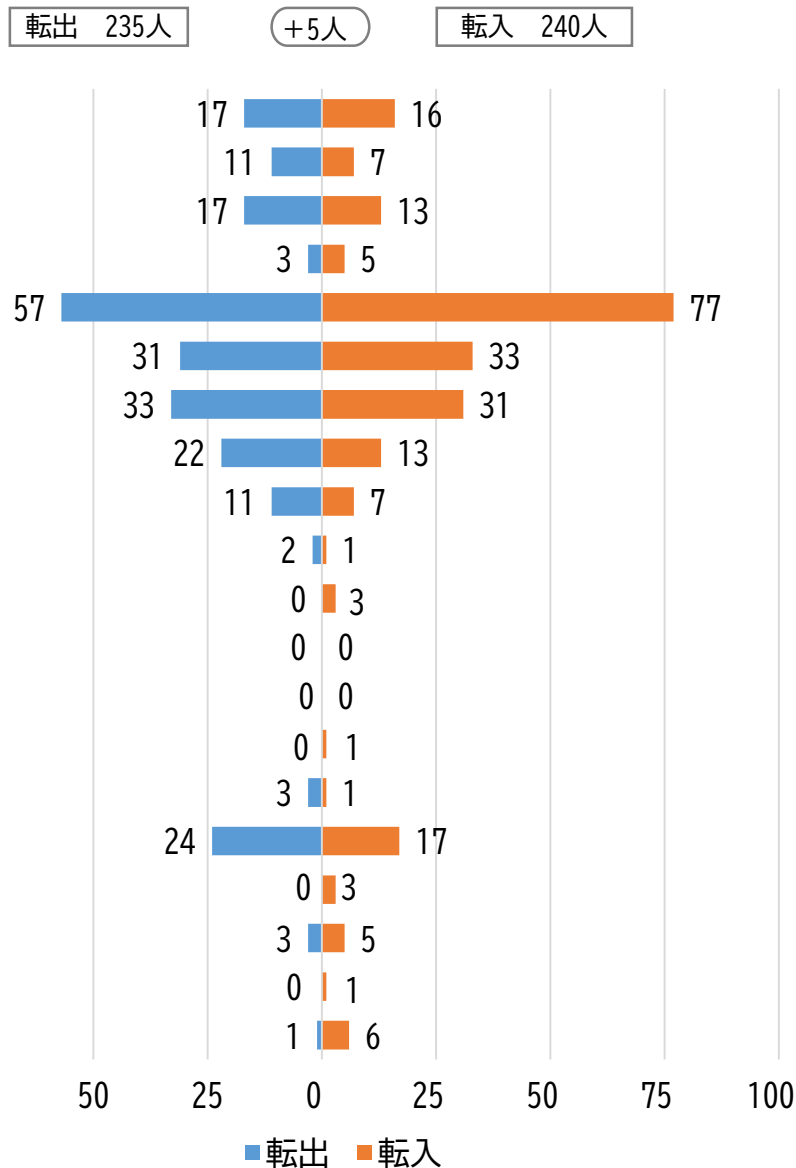
転出 1,880人 (▲73人) 転入 1,707人



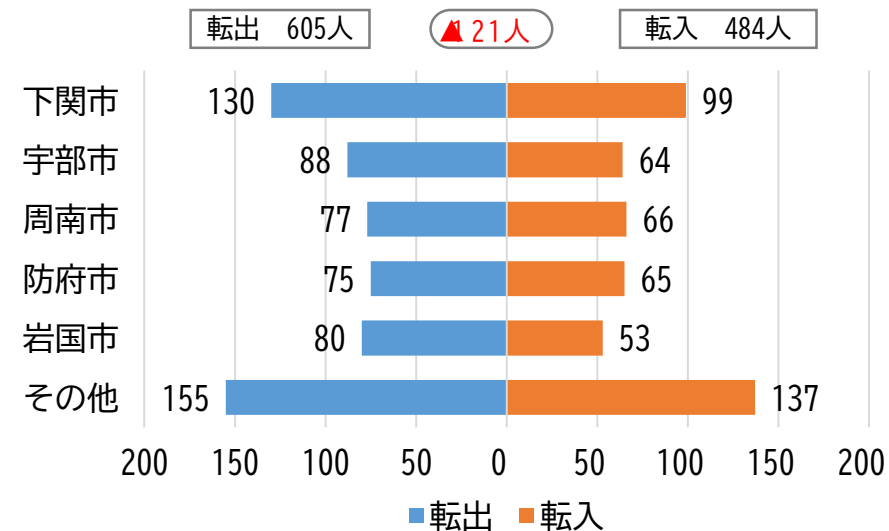
【参考④】 仁保地域 市内・県内・県外の転出入状況 (H27. 10. 1~R2. 9. 30)

【5年間の人口増減】
▲16人

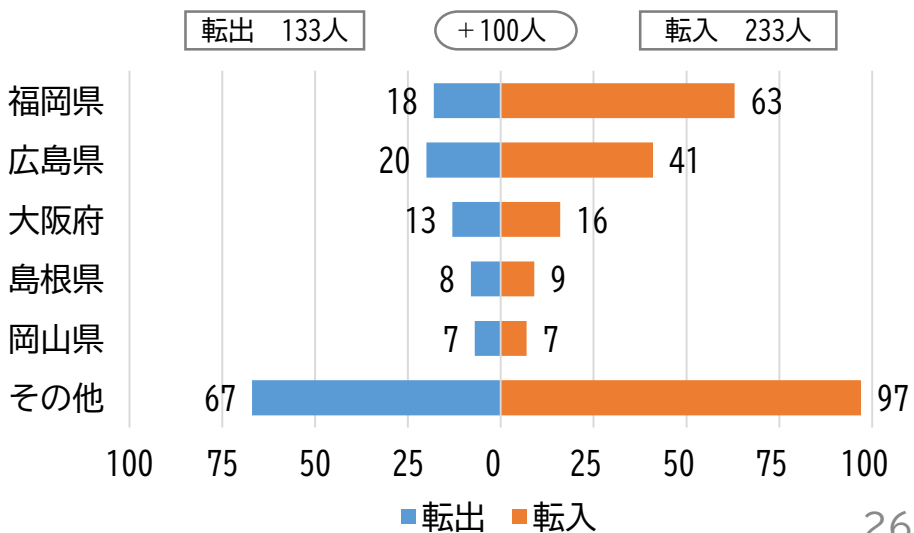
①市内の転出入状況



②県内の転出入状況 (上位5市町)



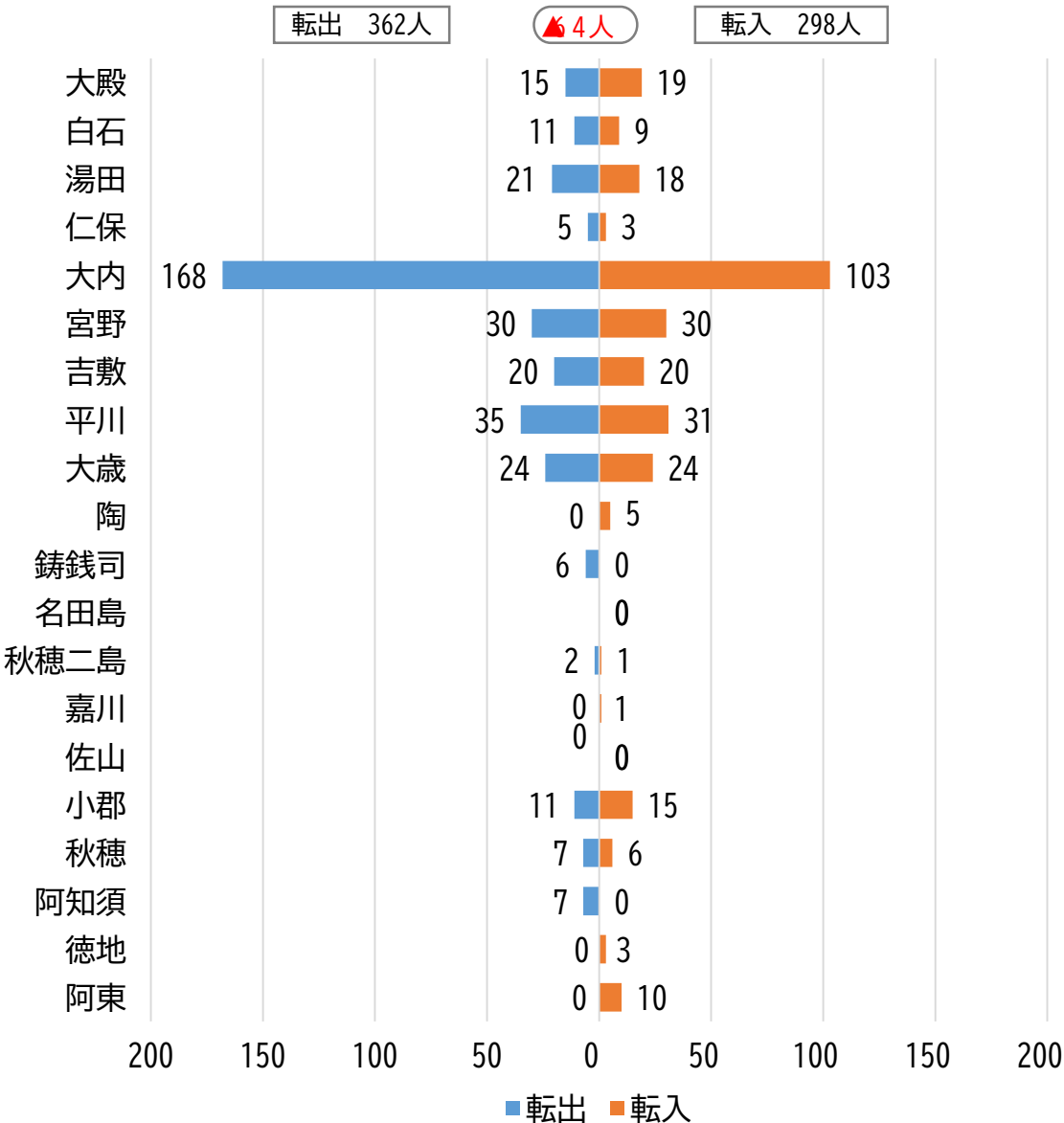
③県外の転出入状況 (上位5都道府県)



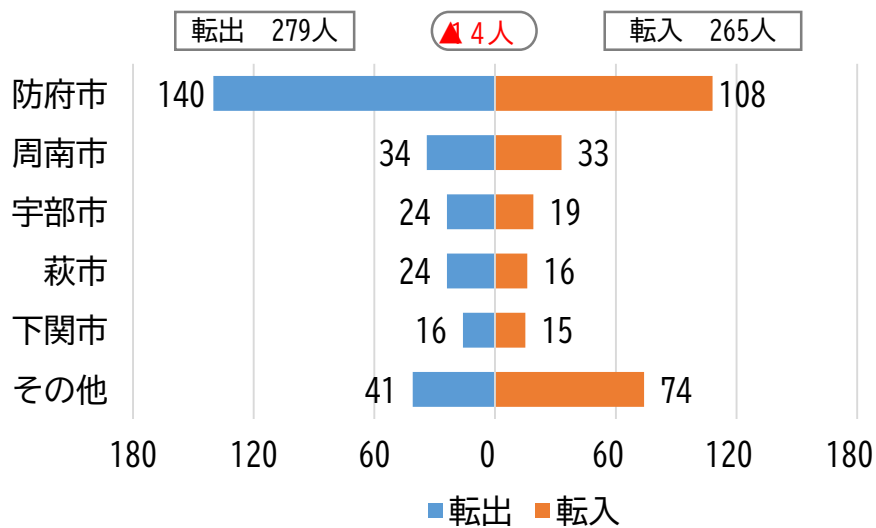
【参考⑤】小鯖地域 市内・県内・県外の転出入状況 (H27. 10. 1~R2. 9. 30)

【5年間の人口増減】
▲82人

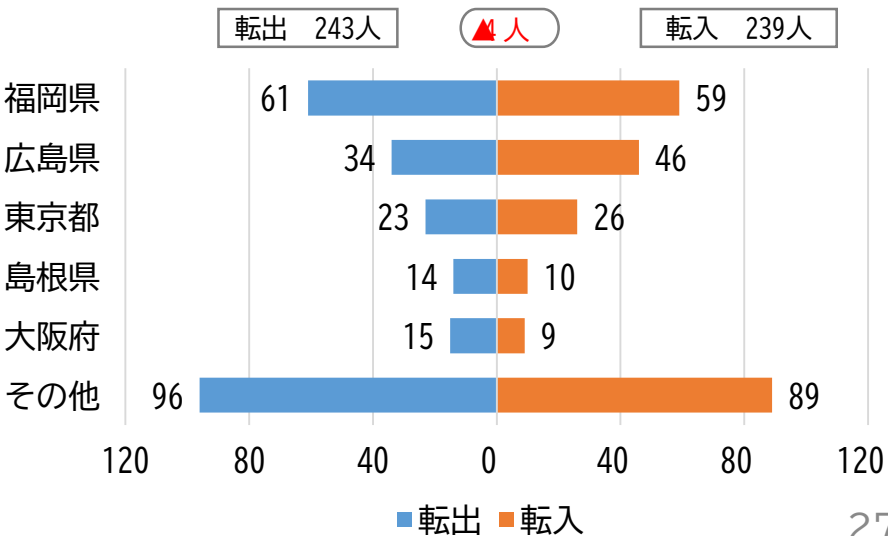
①市内の転出入状況



②県内の転出入状況 (上位5市町)



③県外の転出入状況 (上位5都道府県)

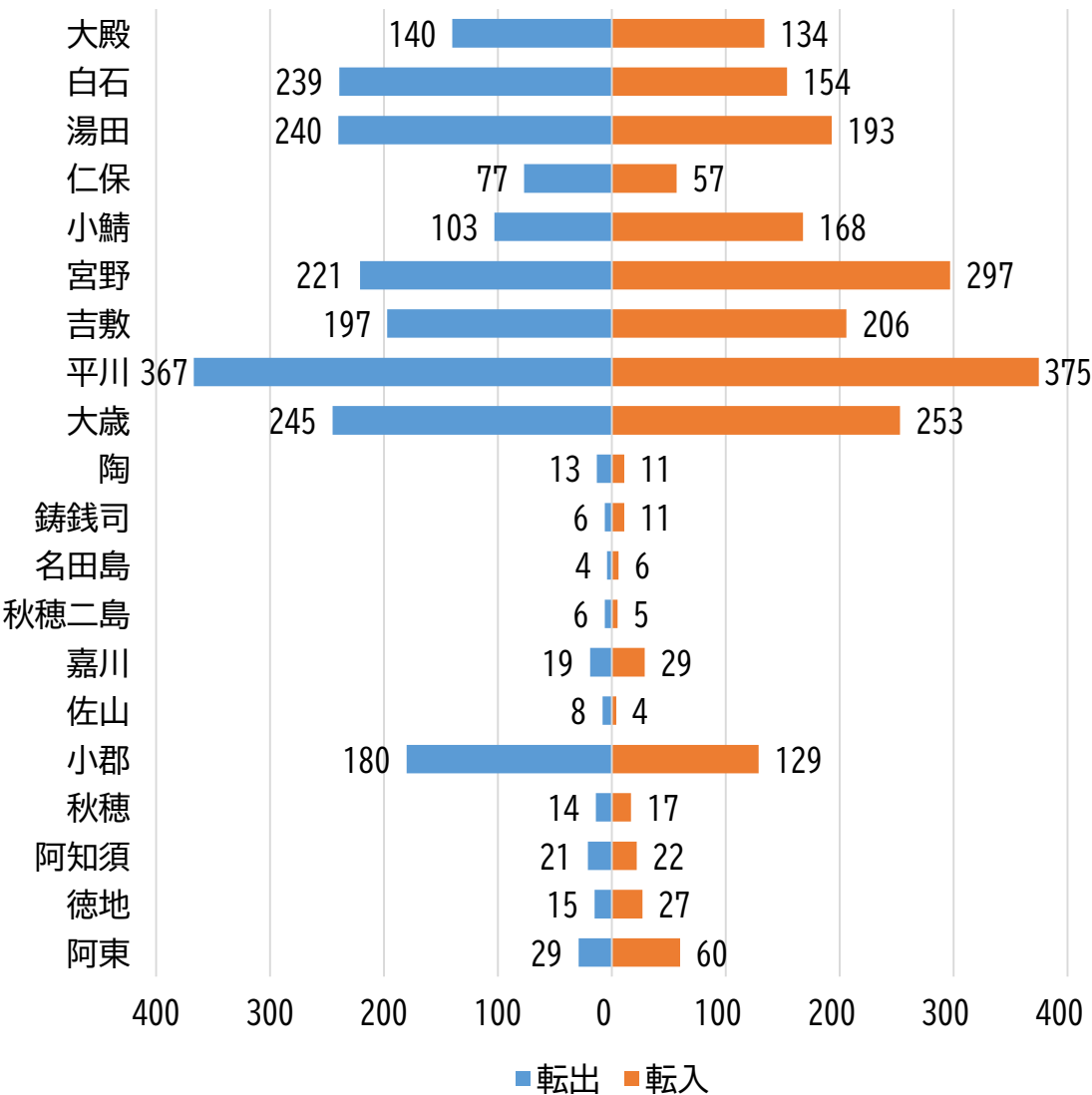


【参考⑥】大内地域 市内・県内・県外の転出入状況 (H27. 10. 1~R2. 9. 30)

【5年間の人口増減】
▲240人

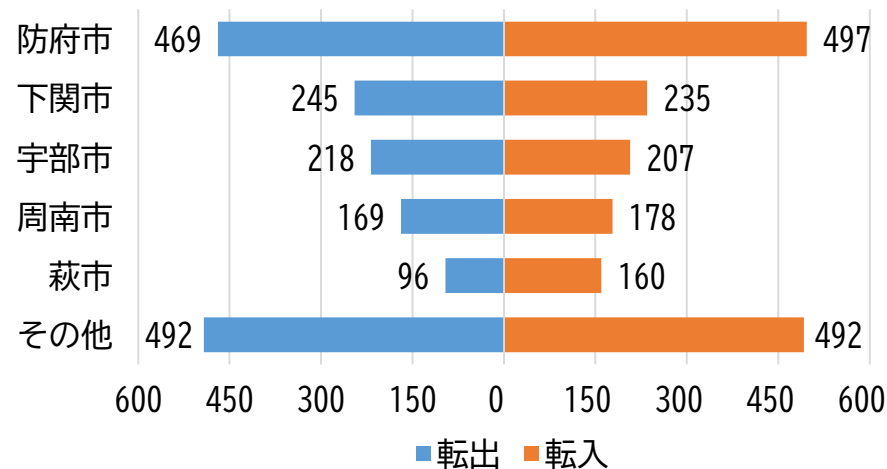
①市内の転出入状況

転出 2,144人 (+14人) 転入 2,158人



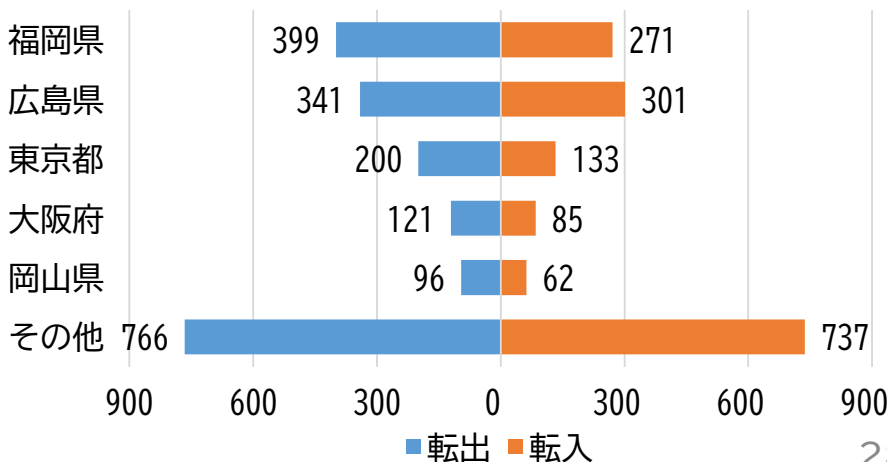
②県内の転出入状況 (上位5市町)

転出 1,689人 (+80人) 転入 1,769人



③県外の転出入状況 (上位5都道府県)

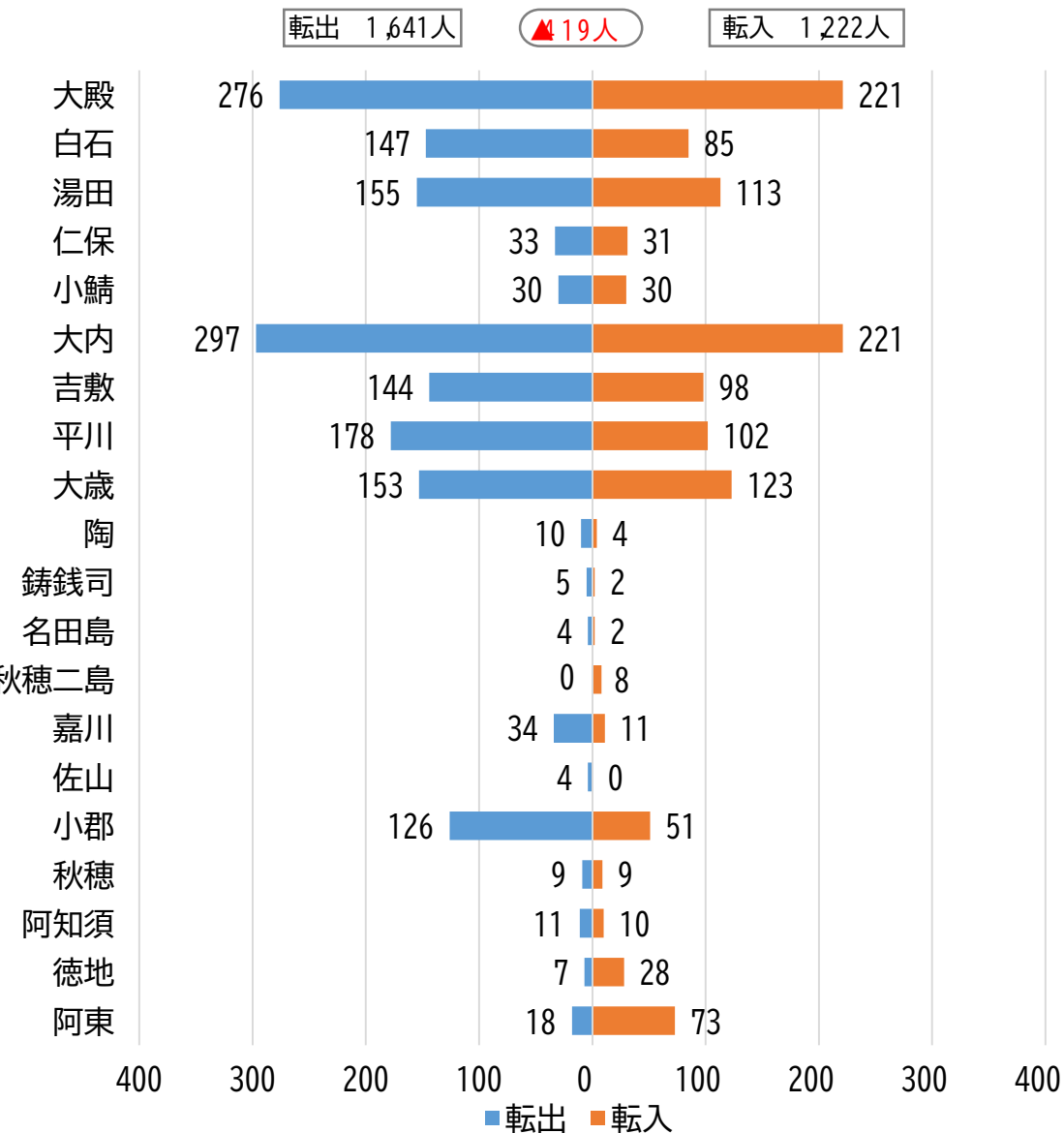
転出 1,923人 (▲34人) 転入 1,589人



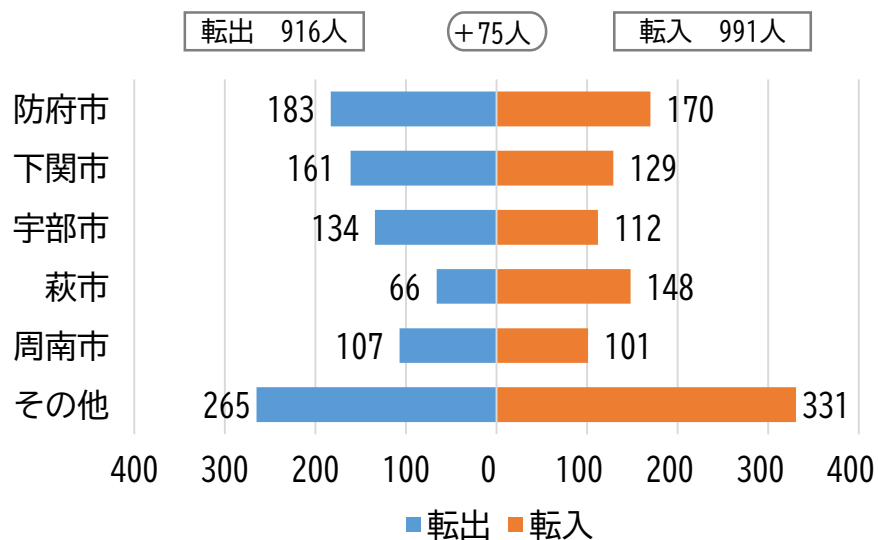
【参考⑦】 宮野地域 市内・県内・県外の転出入状況 (H27. 10. 1~R2. 9. 30)

【5年間の人口増減】
▲702人

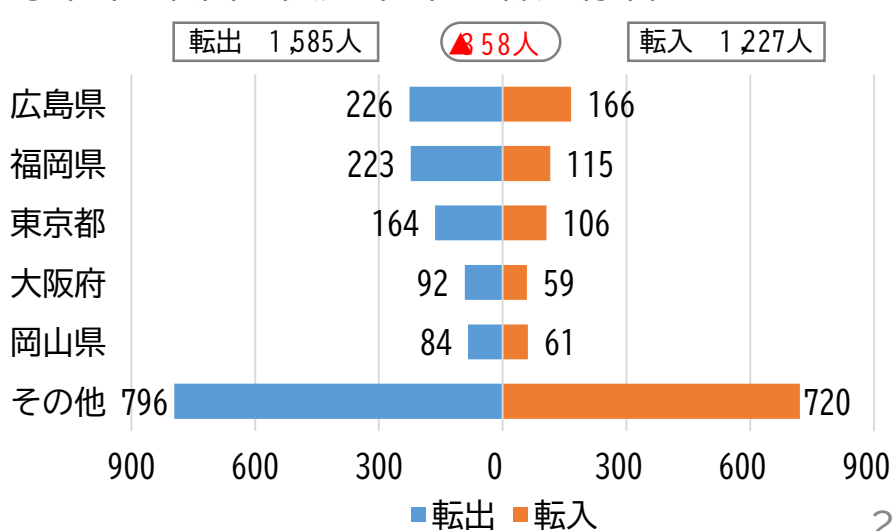
①市内の転出入状況



②県内の転出入状況 (上位5市町)



③県外の転出入状況 (上位5都道府県)

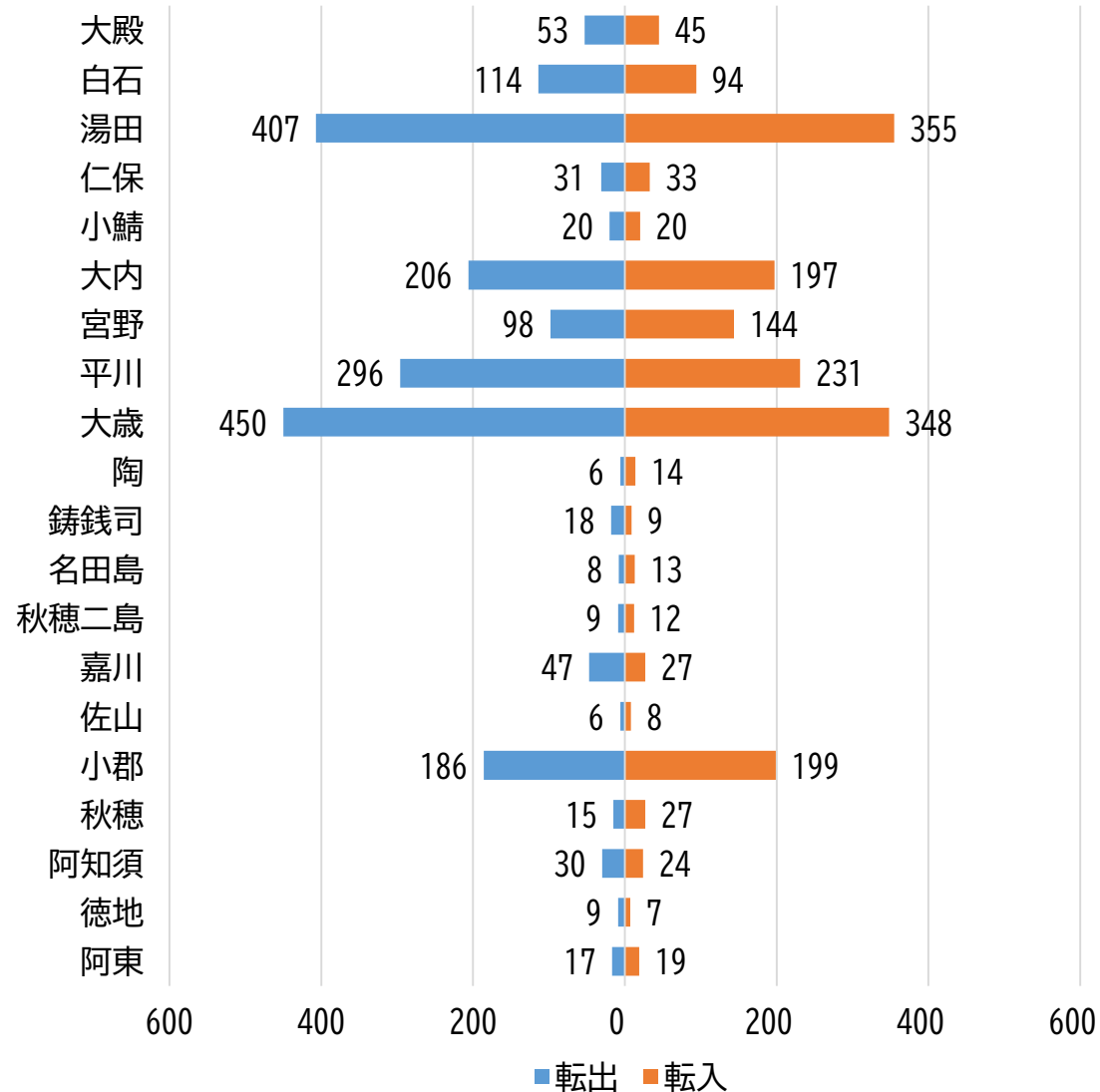


【参考⑧】吉敷地域 市内・県内・県外の転出入状況 (H27. 10. 1~R2. 9. 30)

【5年間の人口増減】
▲229人

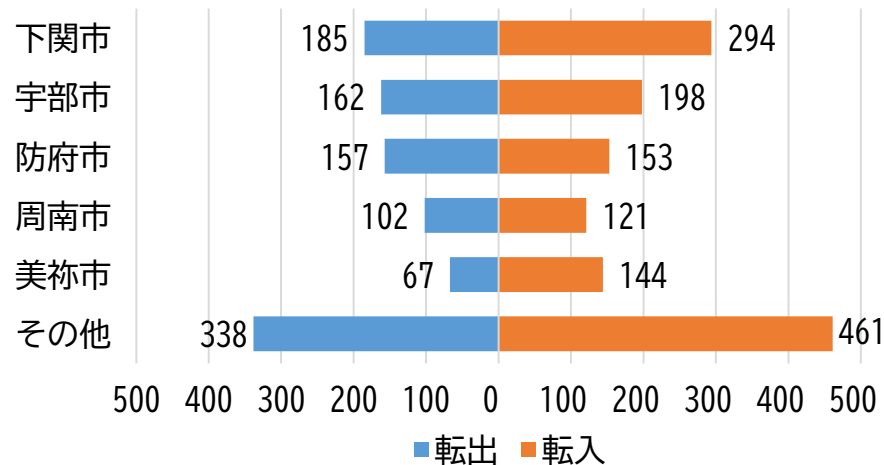
①市内の転出入状況

転出 2,026人 ▲200人 転入 1,826人



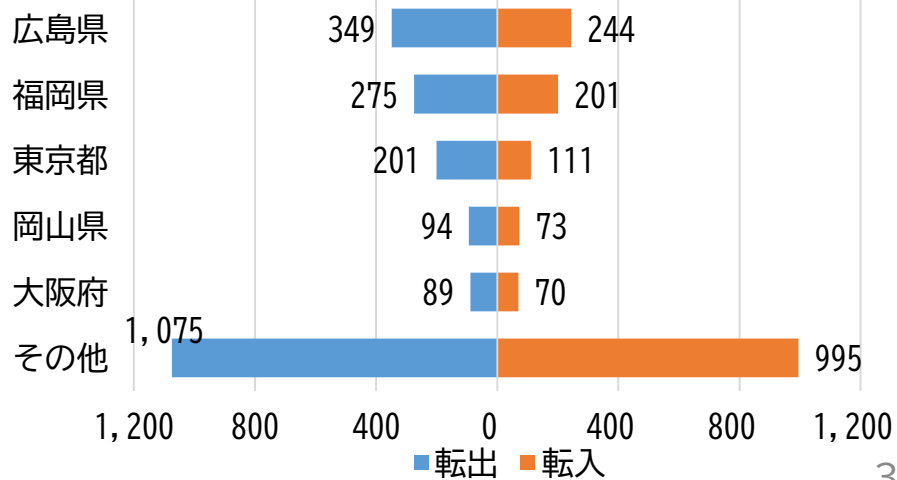
②県内の転出入状況 (上位5市町)

転出 1,011人 +360人 転入 1,371人



③県外の転出入状況 (上位5都道府県)

転出 2,083人 ▲89人 転入 1,694人

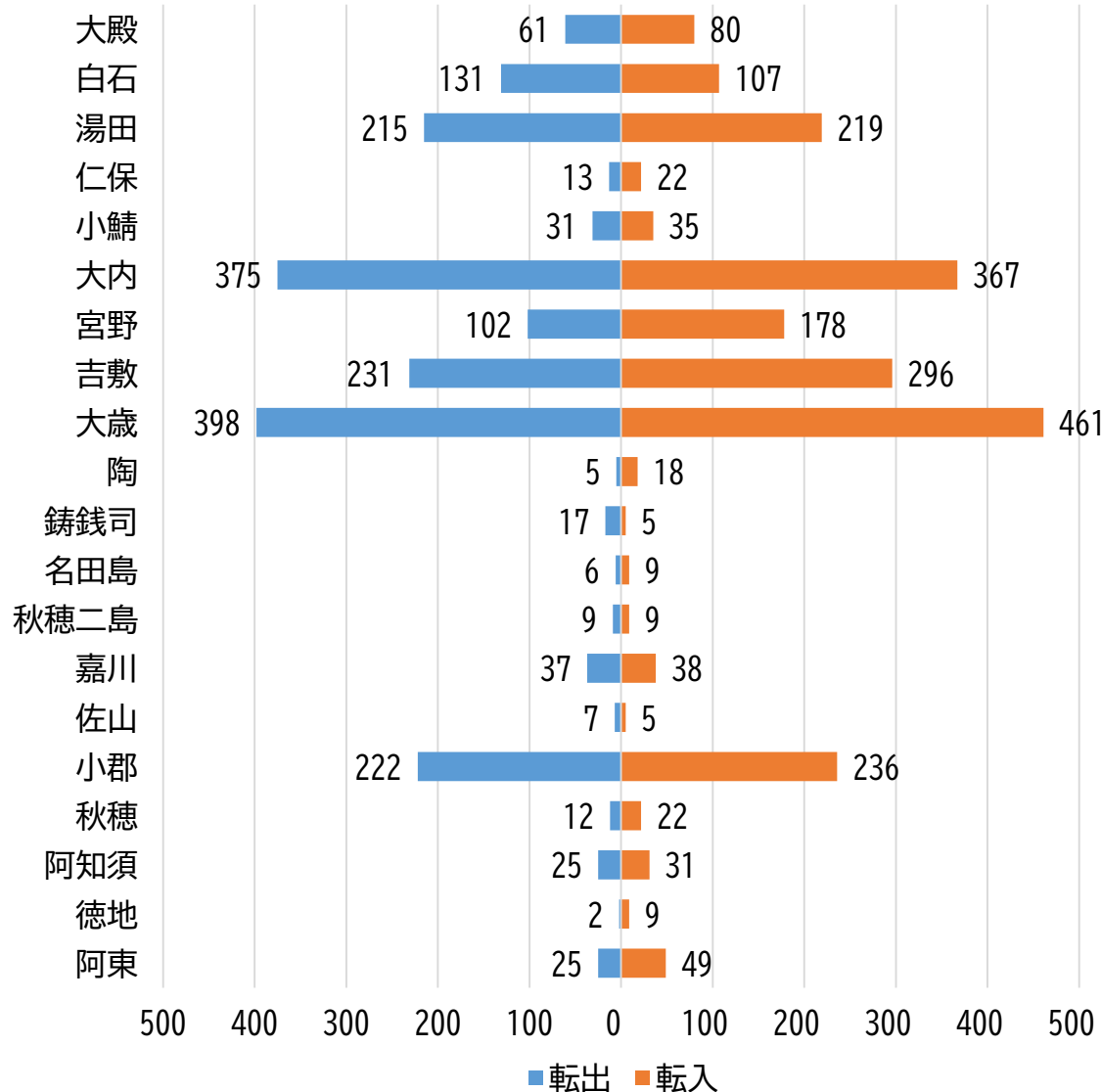


【参考⑨】平川地域 市内・県内・県外の転出入状況 (H27.10.1~R2.9.30)

【5年間の人口増減】
+353人

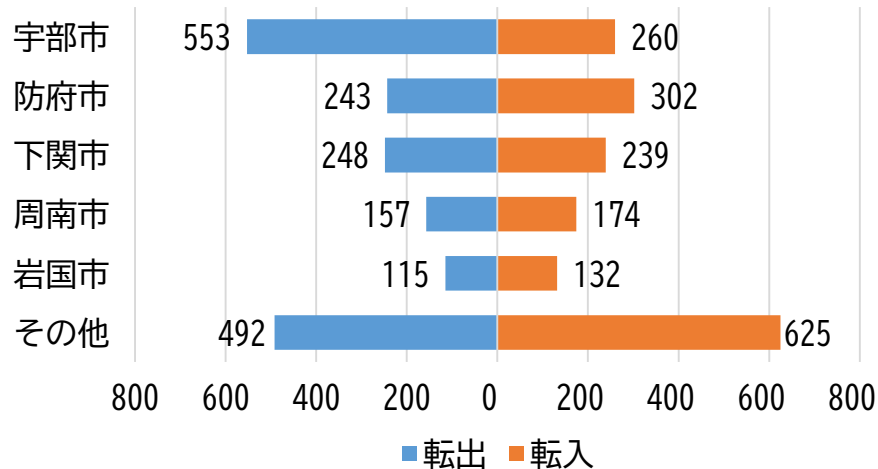
①市内の転出入状況

転出 1,924人 +272人 転入 2,196人



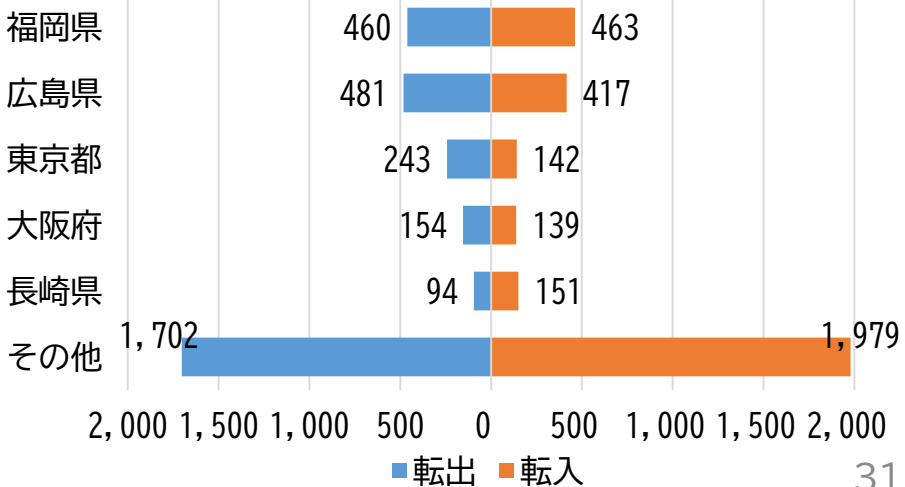
②県内の転出入状況 (上位5市町)

転出 1,808人 ▲6人 転入 1,732人



③県外の転出入状況 (上位5都道府県)

転出 3,134人 +157人 転入 3,291人

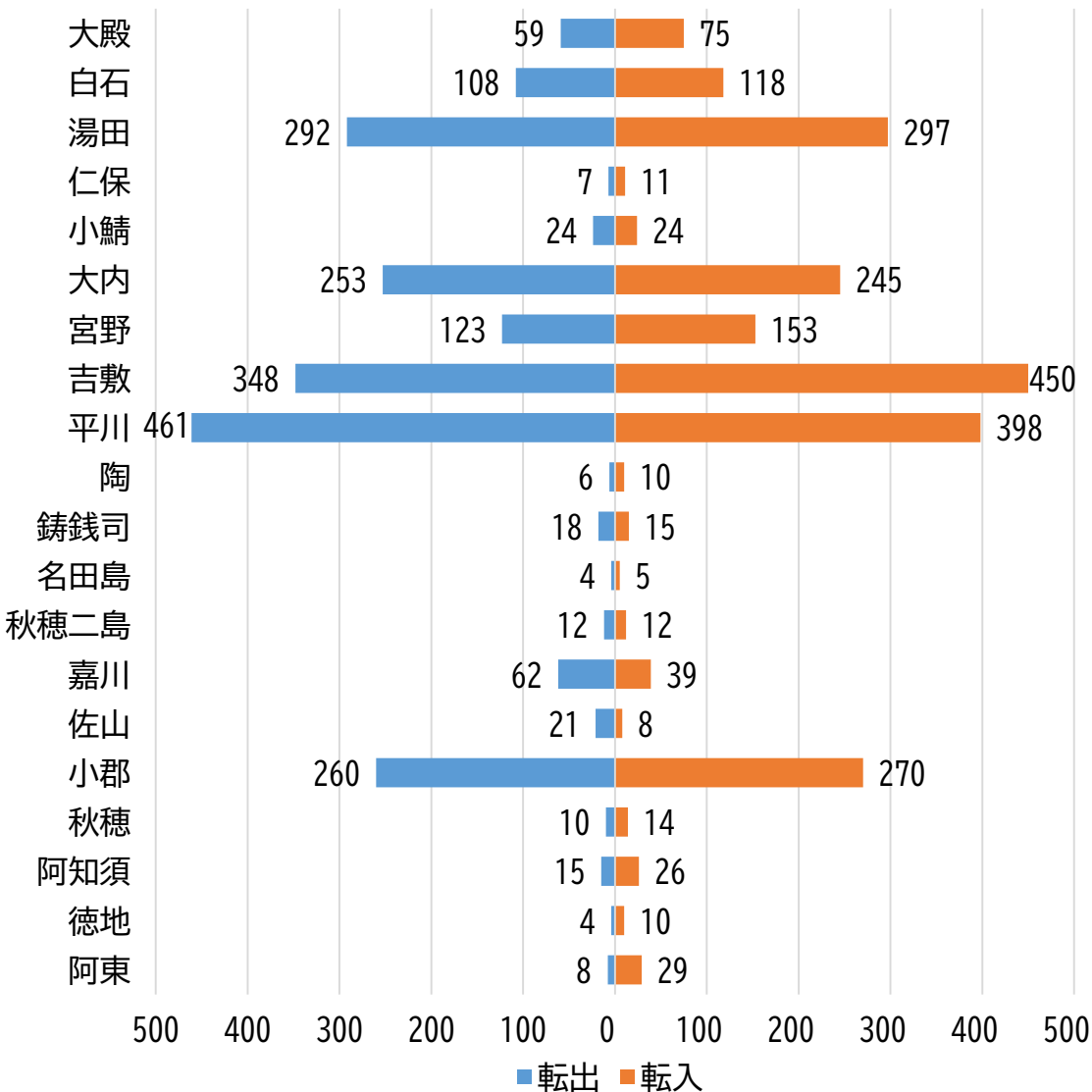


【参考⑩】大歳地域 市内・県内・県外の転出入状況 (H27. 10. 1~R2. 9. 30)

【5年間の人口増減】
+319人

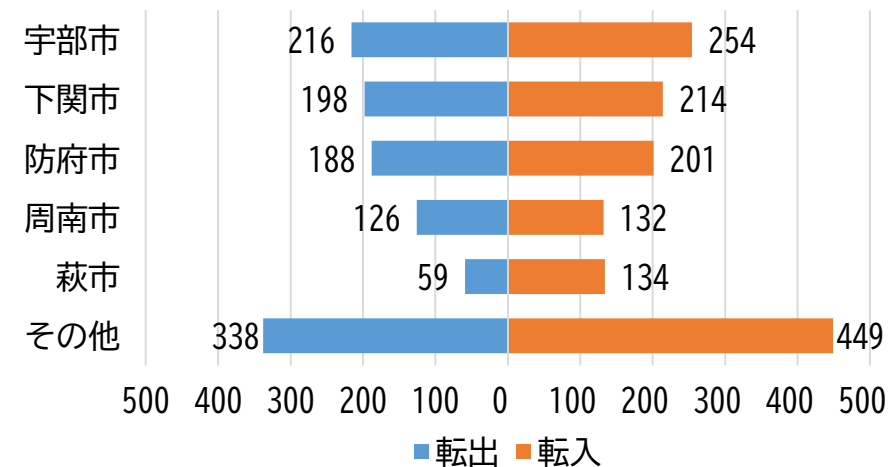
①市内の転出入状況

転出 2,095人 +114人 転入 2,209人



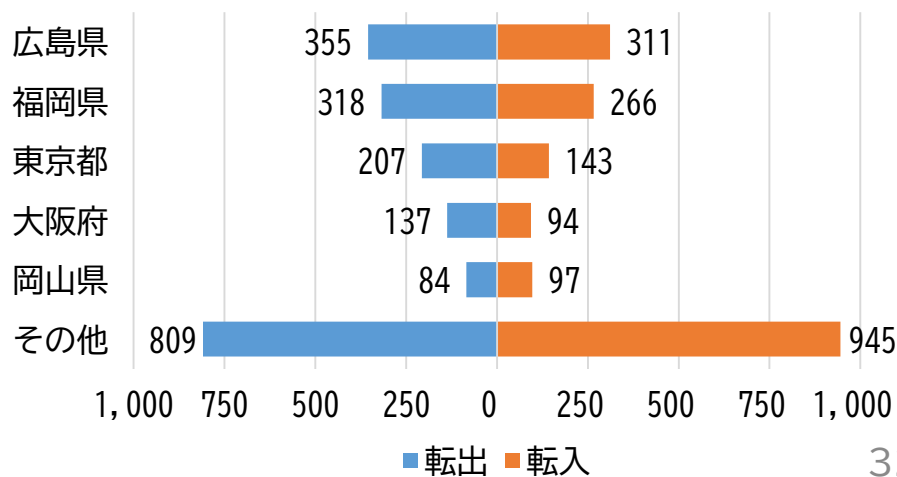
②県内の転出入状況 (上位5市町)

転出 1,125人 +259人 転入 1,384人



③県外の転出入状況 (上位5都道府県)

転出 1,910人 ▲4人 転入 1,856人

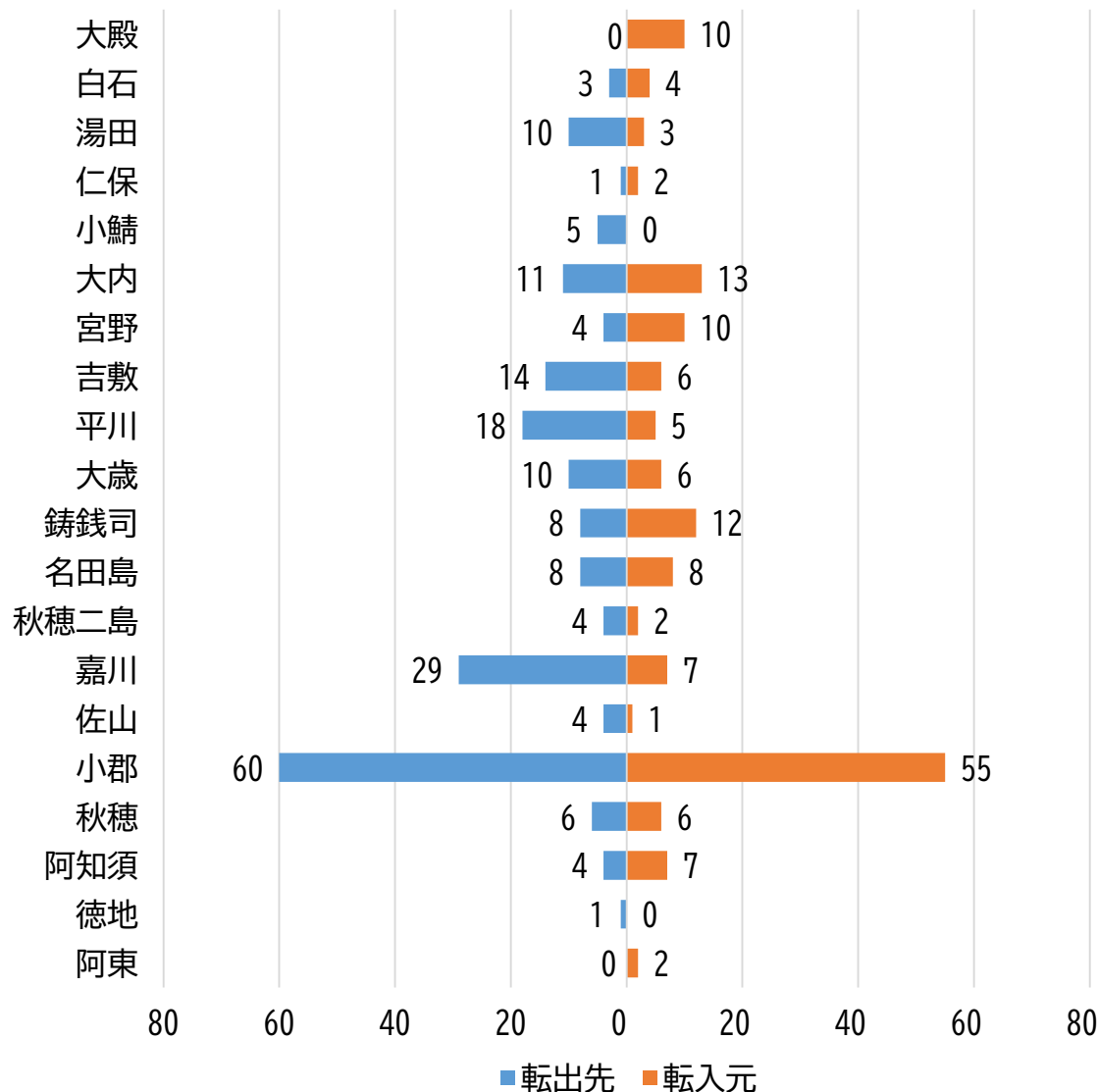


【参考⑪】 陶地域 市内・県内・県外の転出入状況 (H27.10.1~R2.9.30)

【5年間の人口増減】
▲30人

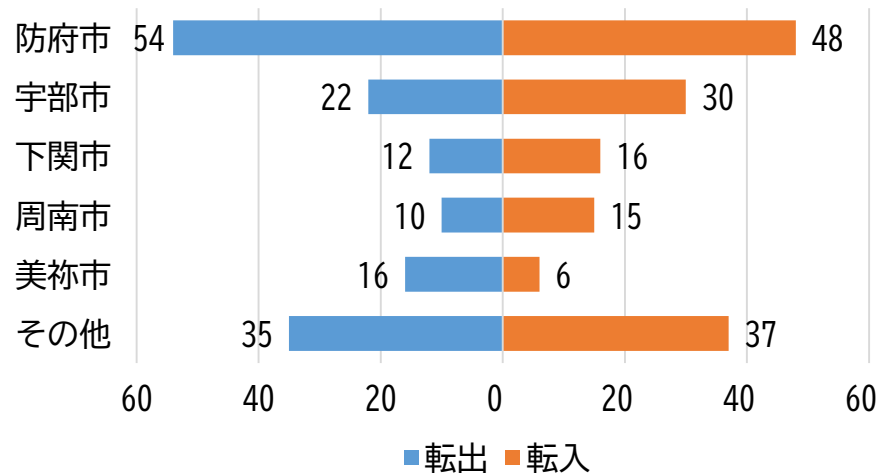
①市内の転出入状況

転出 200人 ▲1人 転入 159人



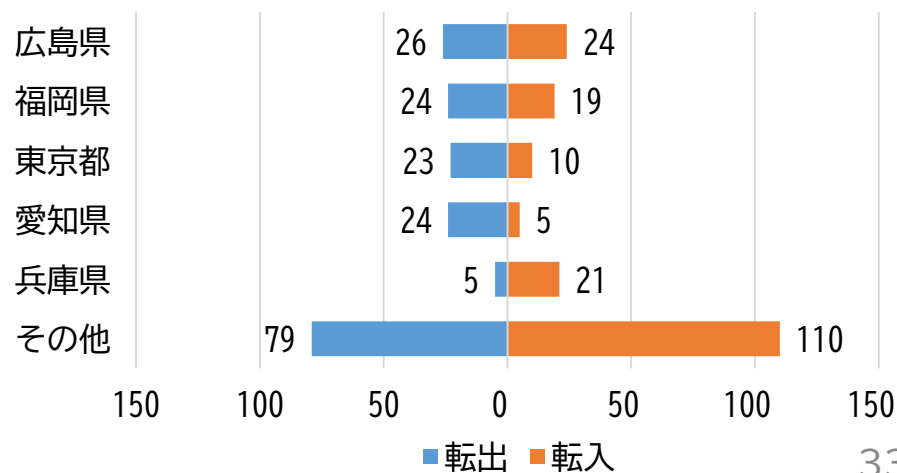
②県内の転出入状況 (上位5市町)

転出 149人 +3人 転入 152人



③県外の転出入状況 (上位5都道府県)

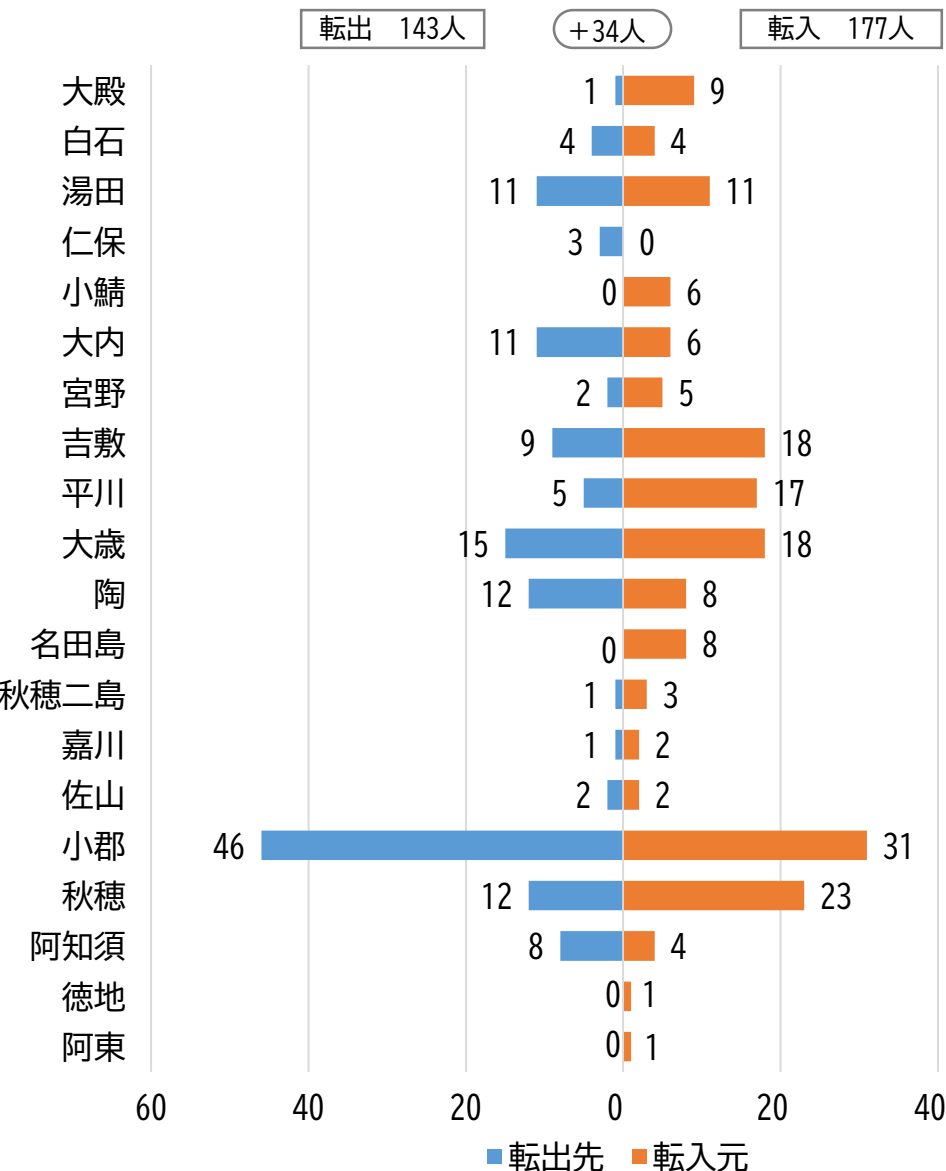
転出 181人 +8人 転入 189人



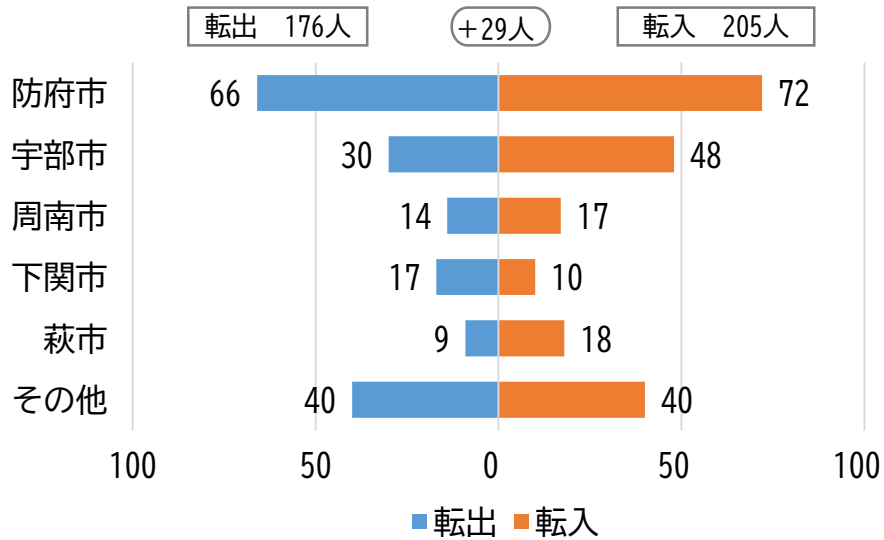
【参考⑫】 鑄銭司地域 市内・県内・県外の転出入状況 (H27.10.1~R2.9.30)

【5年間の人口増減】
+69人

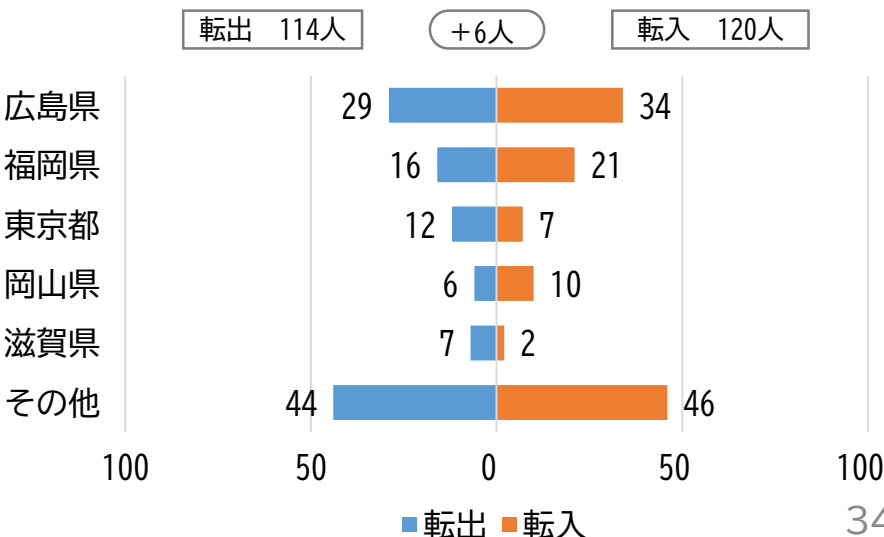
①市内の転出入状況



②県内の転出入状況 (上位5市町)



③県外の転出入状況 (上位5都道府県)

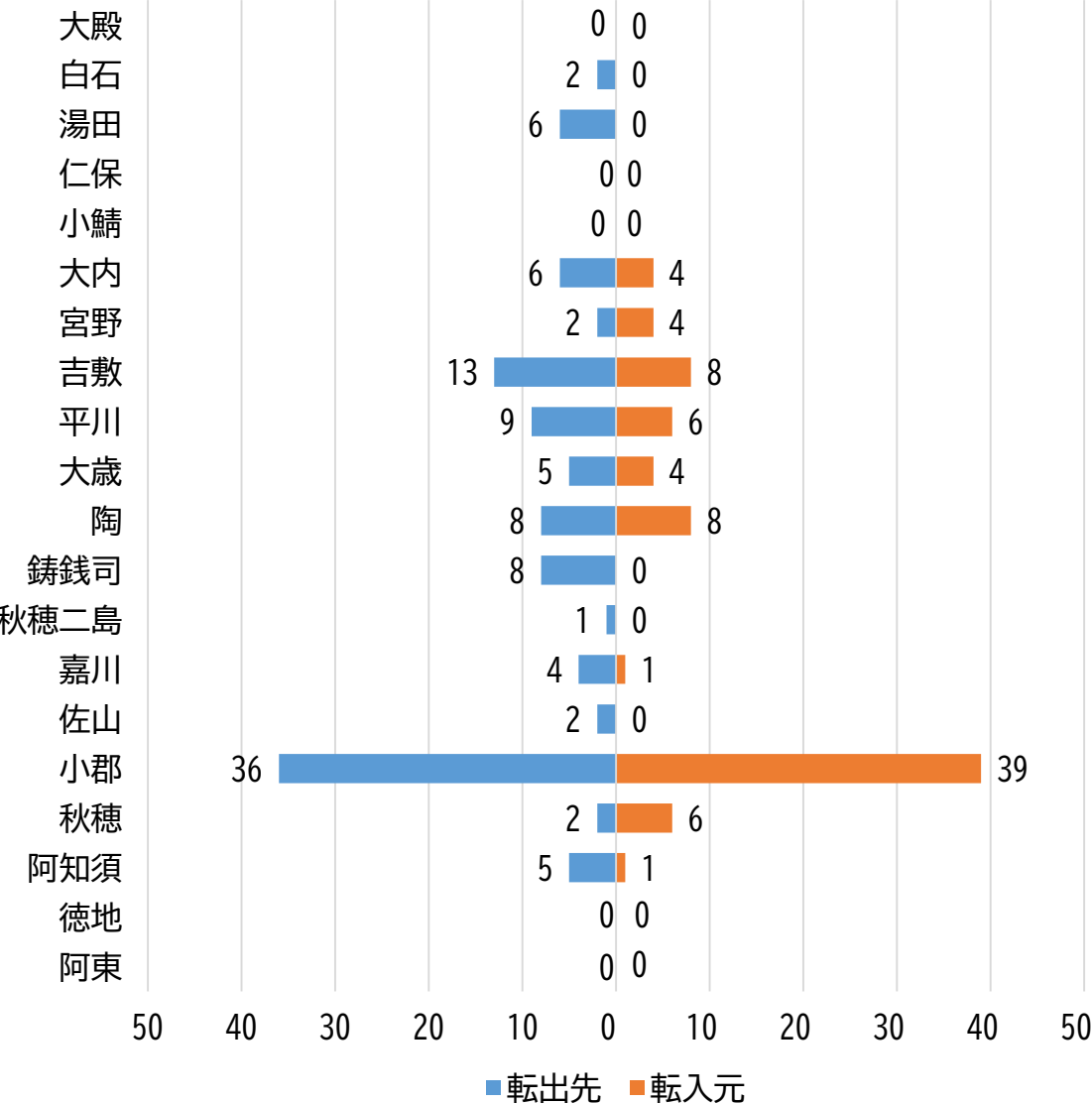


【参考⑬】 名田島地域 市内・県内・県外の転出入状況 (H27.10.1~R2.9.30)

【5年間の人口増減】
▲38人

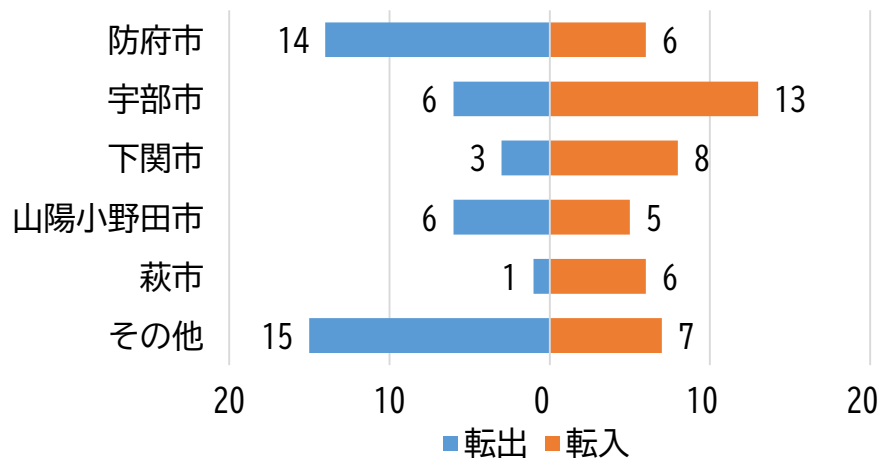
①市内の転出入状況

転出 109人 ▲8人 転入 81人



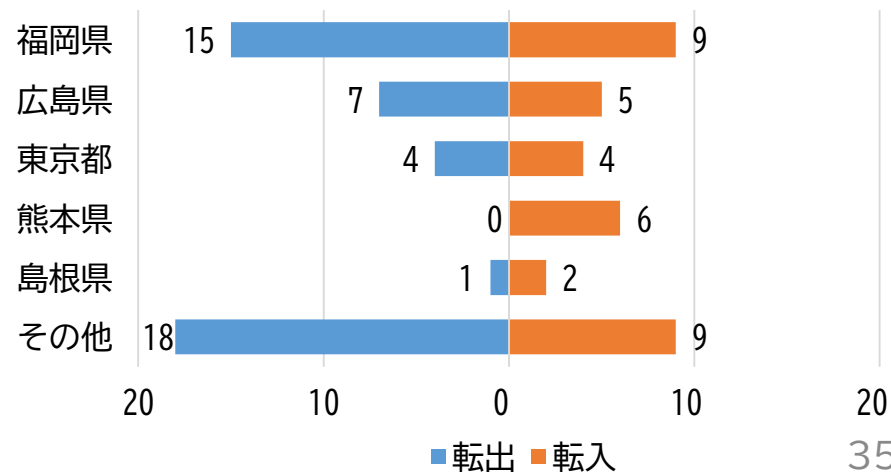
②県内の転出入状況 (上位5市町)

転出 45人 ±0人 転入 45人



③県外の転出入状況 (上位5都道府県)

転出 45人 ▲0人 転入 35人

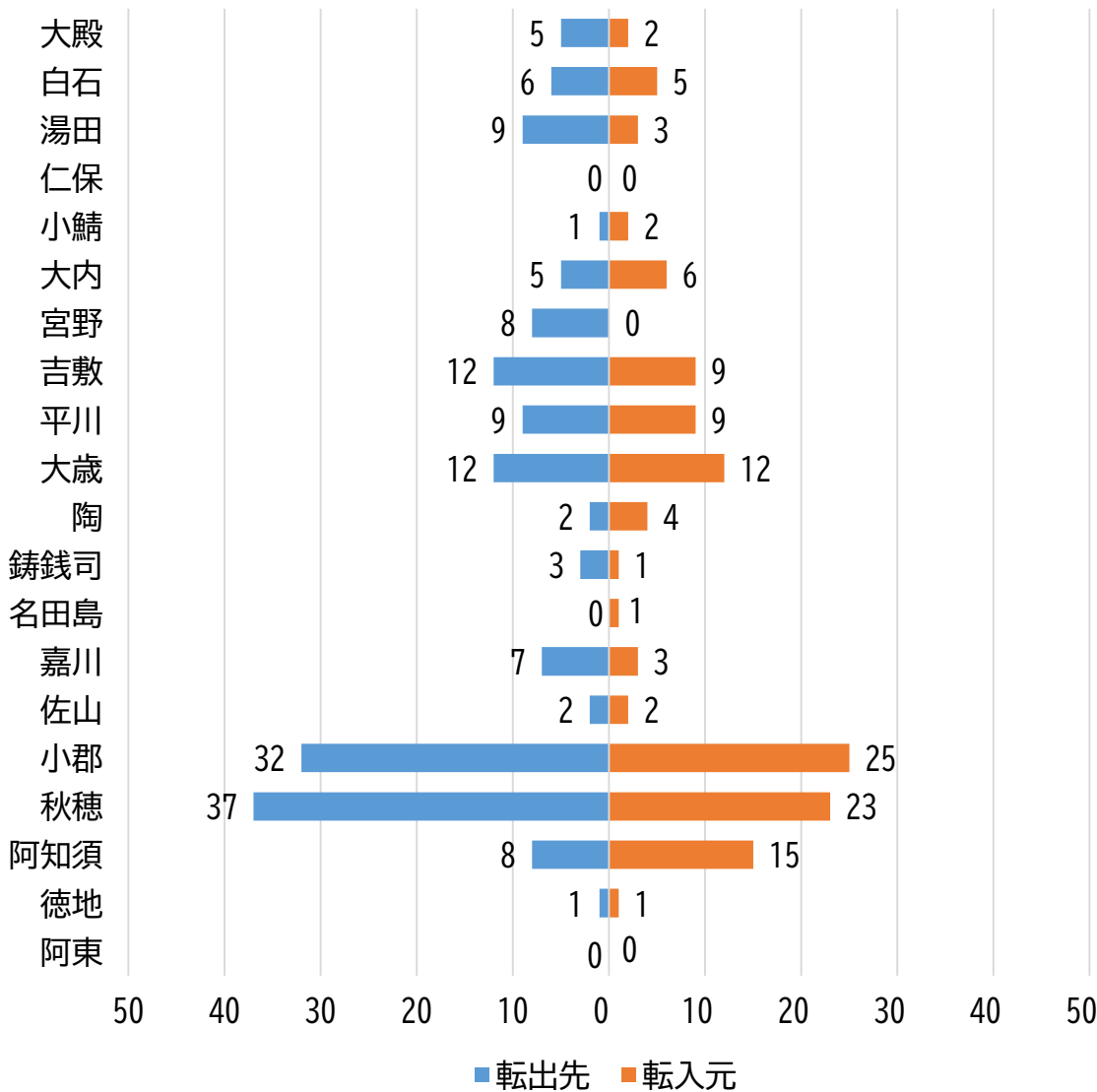


【参考⑭】秋穂二島地域 市内・県内・県外の転出入状況 (H27.10.1~R2.9.30)

【5年間の人口増減】
▲51人

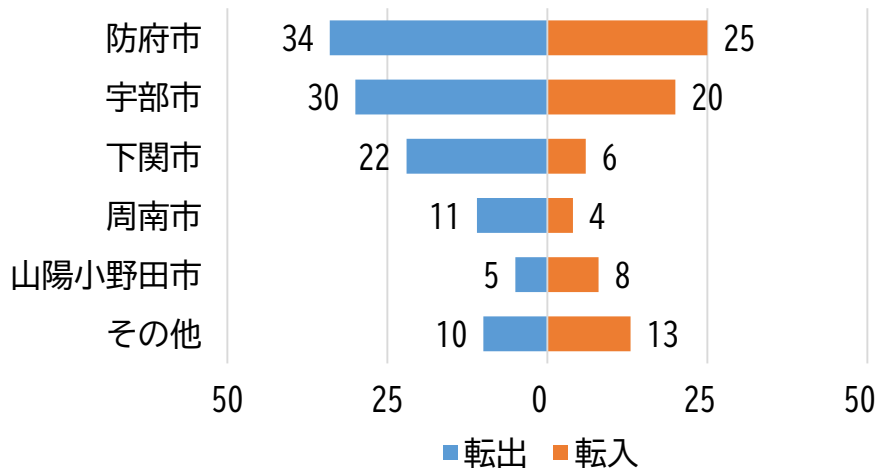
①市内の転出入状況

転出 159人 ▲6人 転入 123人



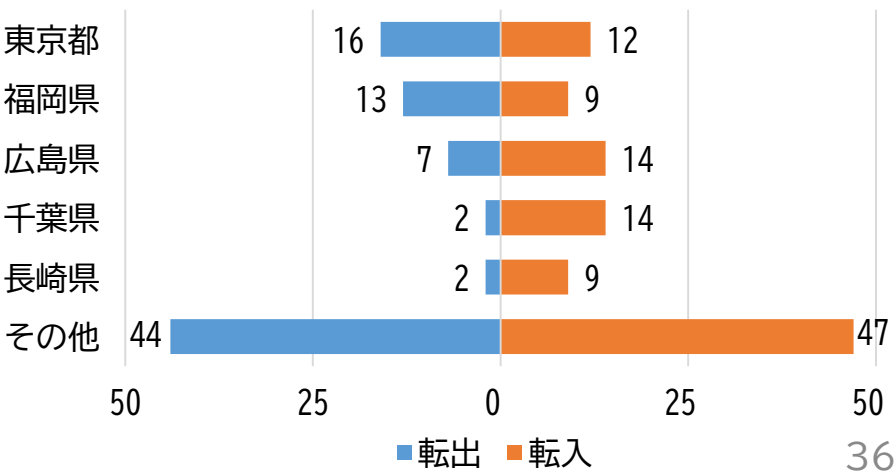
②県内の転出入状況 (上位5市町)

転出 112人 ▲6人 転入 76人



③県外の転出入状況 (上位5都道府県)

転出 84人 +21人 転入 105人

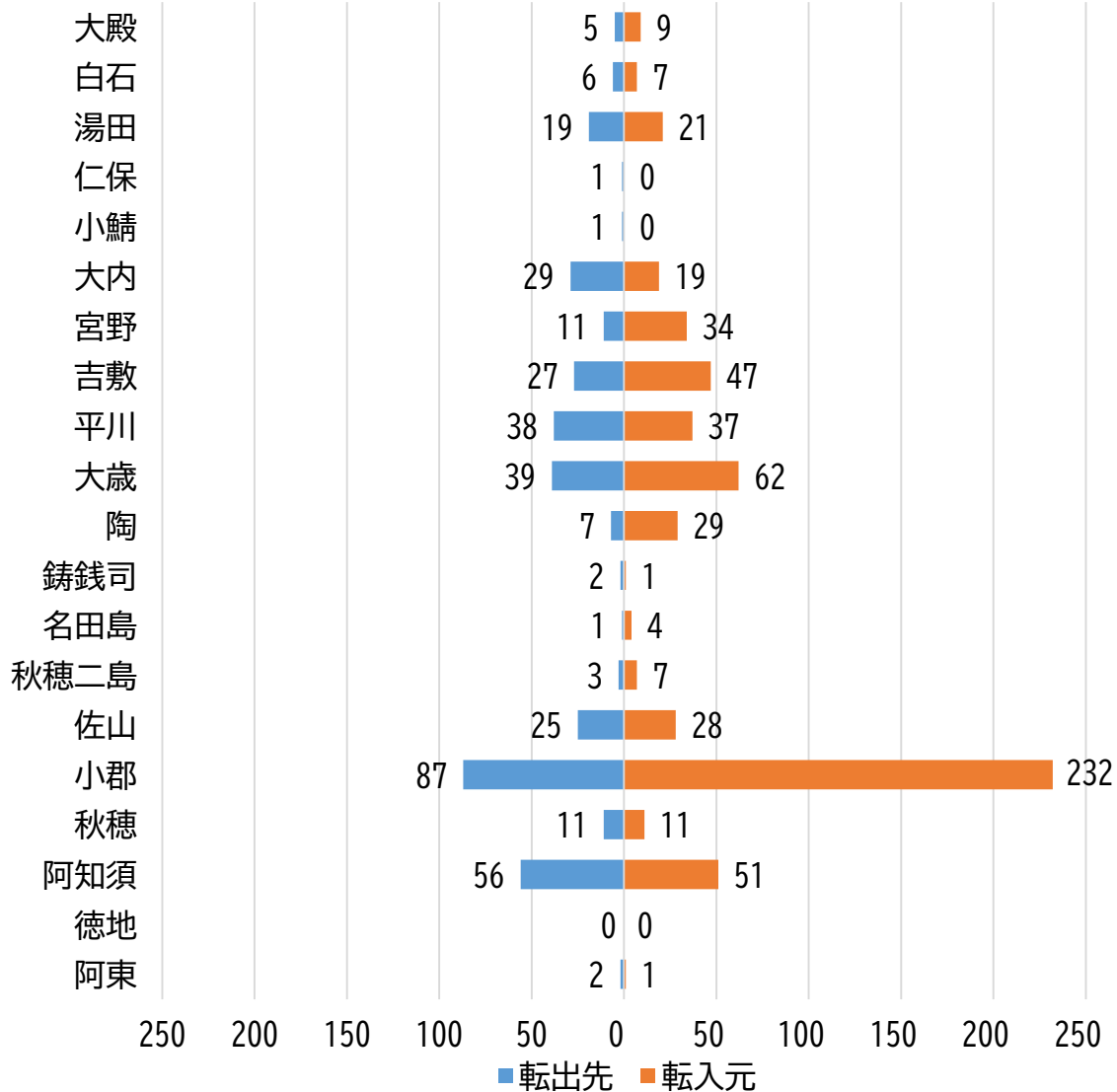


【参考⑮】 嘉川地域 市内・県内・県外の転出入状況 (H27. 10. 1~R2. 9. 30)

【5年間の人口増減】
+343人

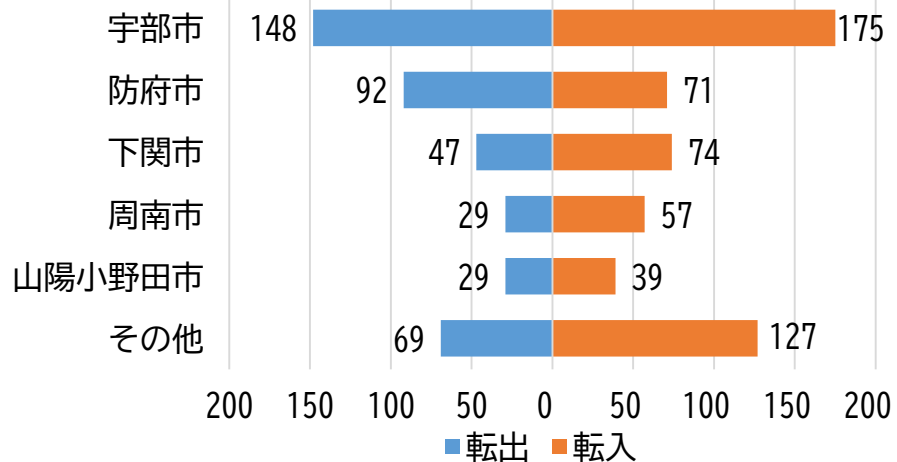
①市内の転出入状況

転出 370人 +230人 転入 600人



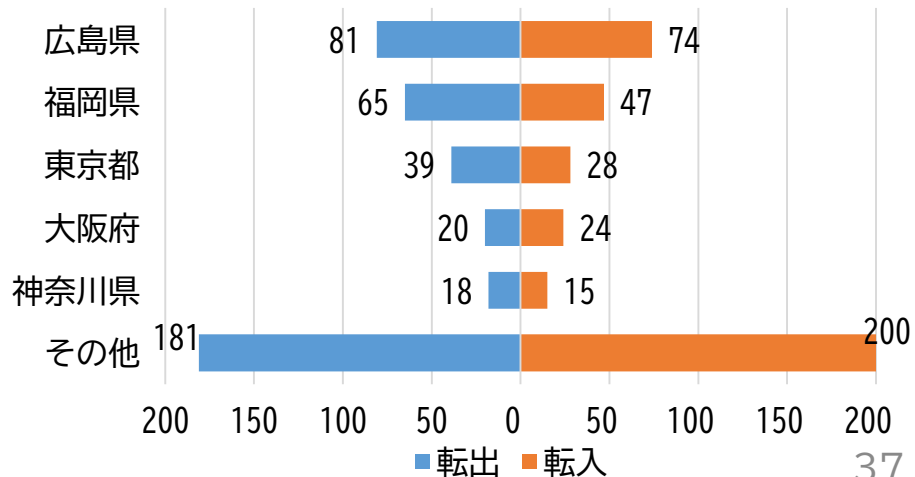
②県内の転出入状況 (上位5市町)

転出 414人 +129人 転入 543人



③県外の転出入状況 (上位5都道府県)

転出 404人 ▲6人 転入 388人

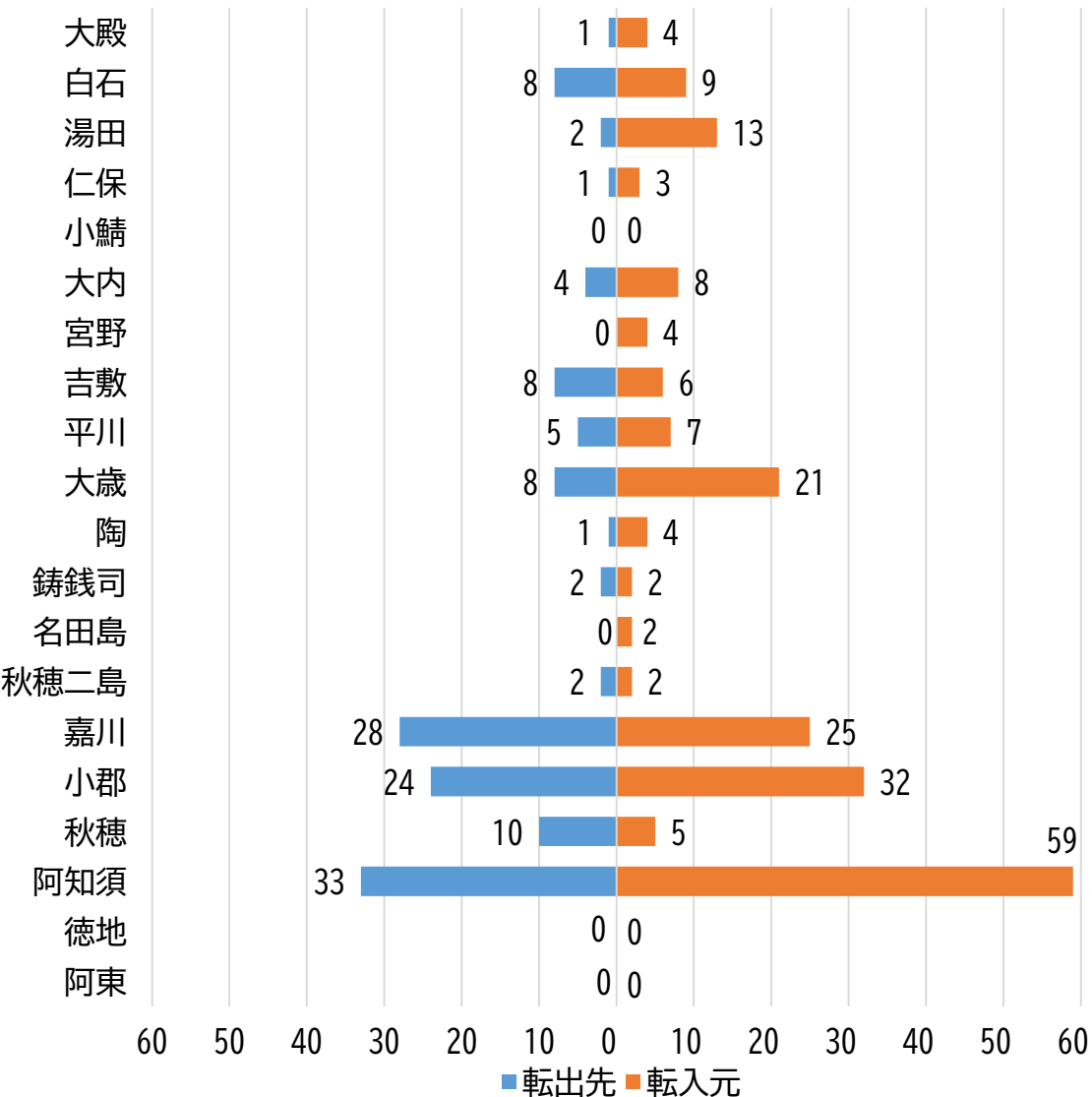


【参考⑬】 佐山地域 市内・県内・県外の転出入状況 (H27. 10. 1~R2. 9. 30)

【5年間の人口増減】
+103人

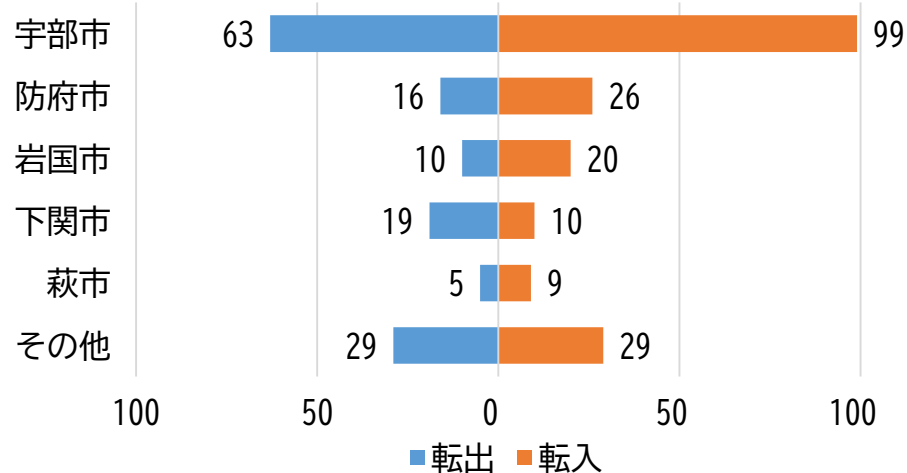
①市内の転出入状況

転出 137人 +69人 転入 206人



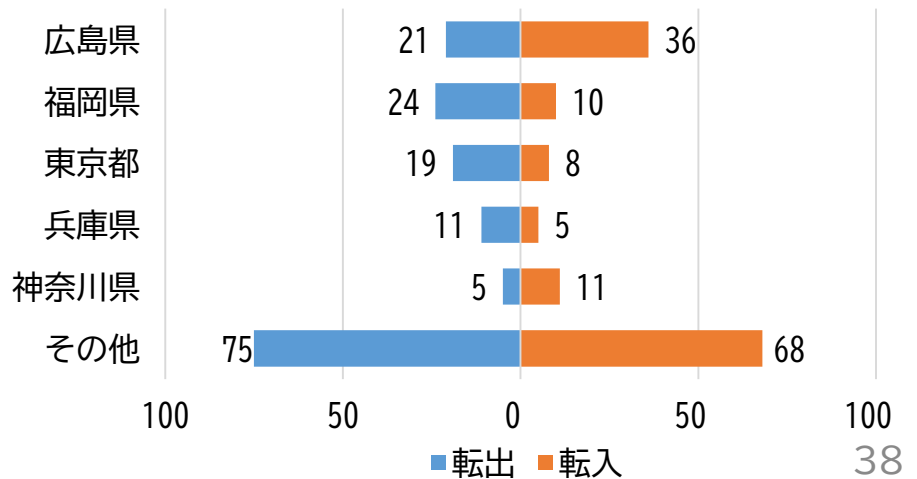
②県内の転出入状況 (上位5市町)

転出 142人 +51人 転入 193人



③県外の転出入状況 (上位5都道府県)

転出 155人 ▲7人 転入 138人

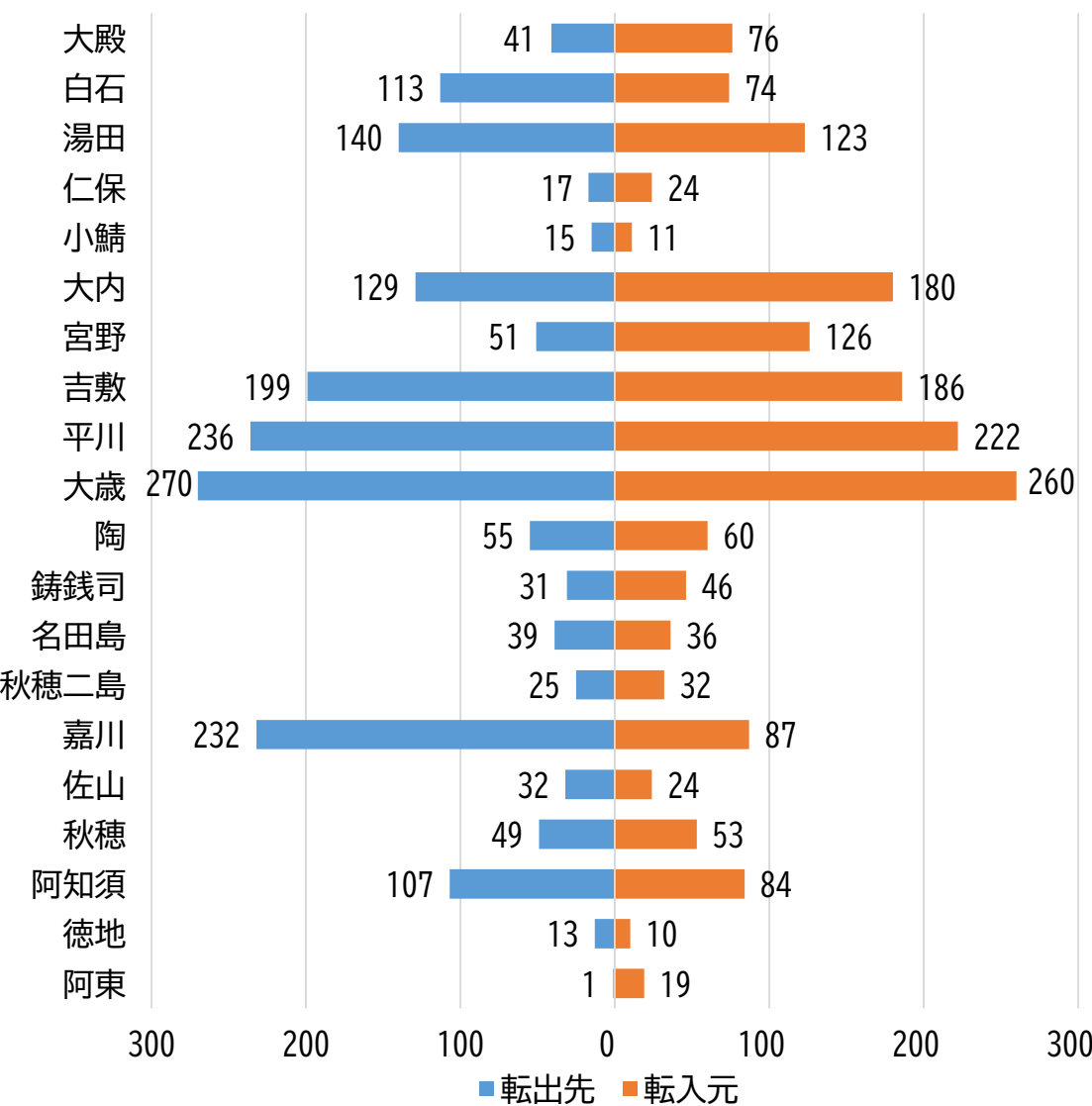


【参考⑰】小郡地域 市内・県内・県外の転出入状況 (H27. 10. 1~R2. 9. 30)

【5年間の人口増減】
+374人

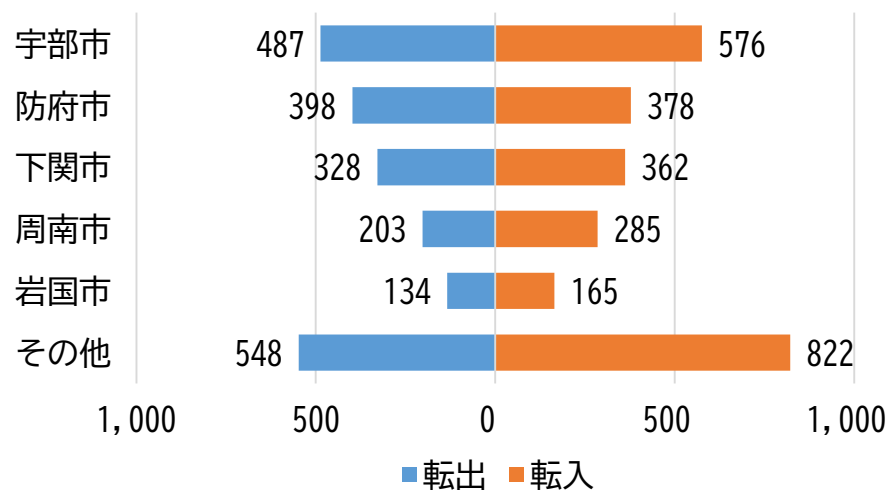
①市内の転出入状況

転出 1,795人 ▲2人 転入 1,733人



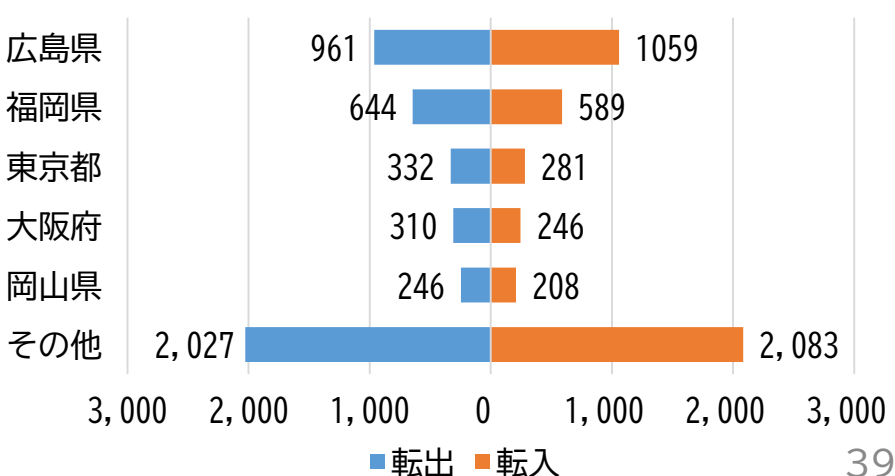
②県内の転出入状況 (上位5市町)

転出 2,098人 +490人 転入 2,588人



③県外の転出入状況 (上位5都道府県)

転出 4,520人 ▲4人 転入 4,466人

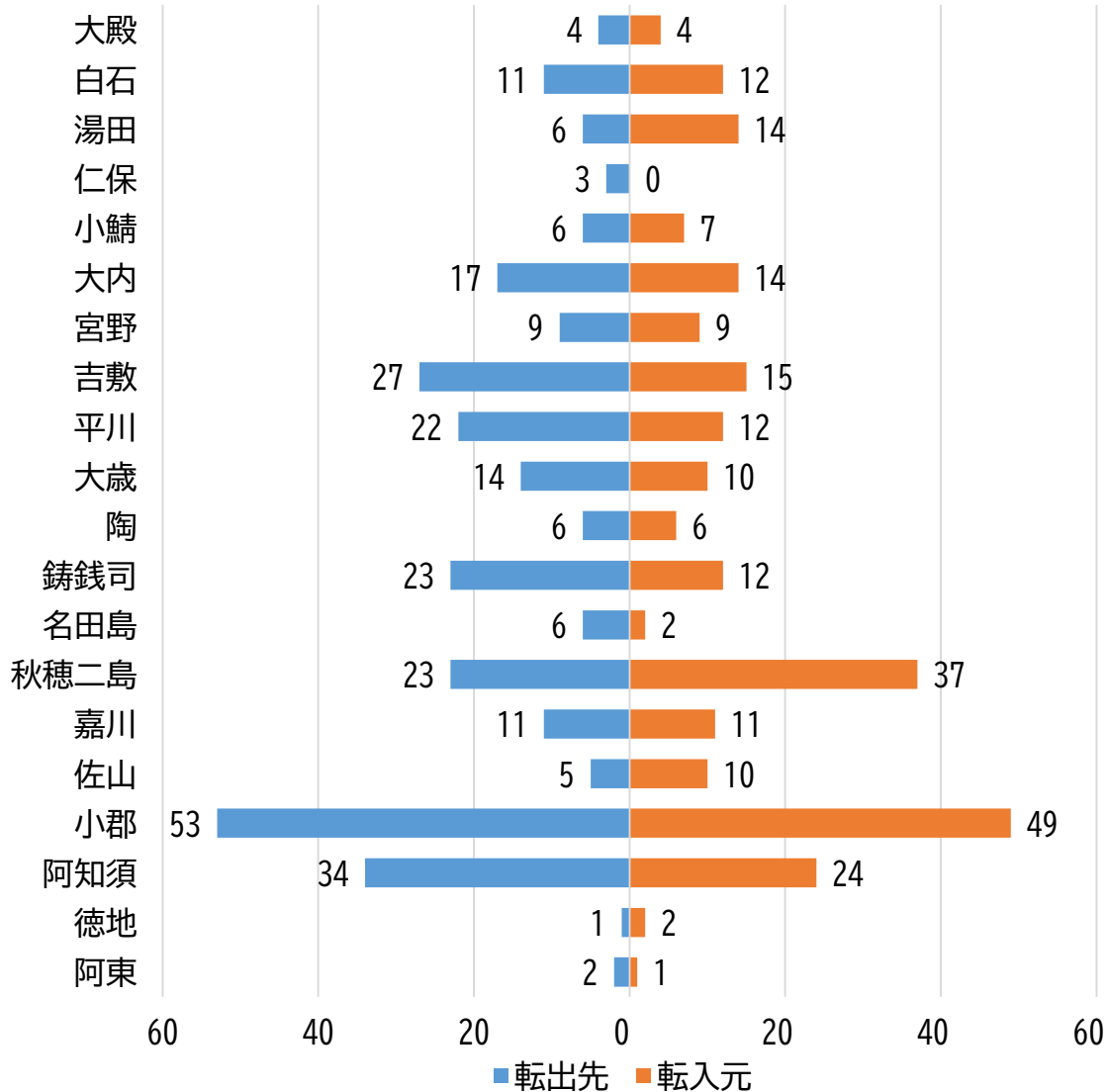


【参考⑱】 秋穂地域 市内・県内・県外の転出入状況 (H27. 10. 1~R2. 9. 30)

【5年間の人口増減】
▲99人

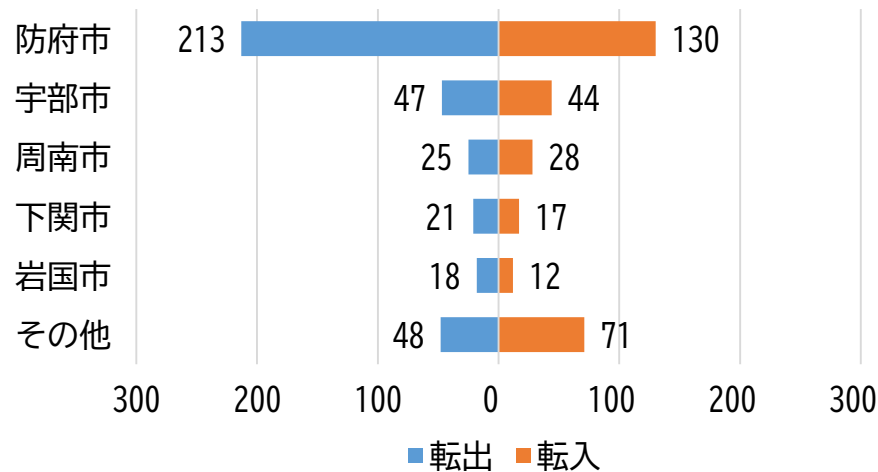
①市内の転出入状況

転出 283人 ▲2人 転入 251人



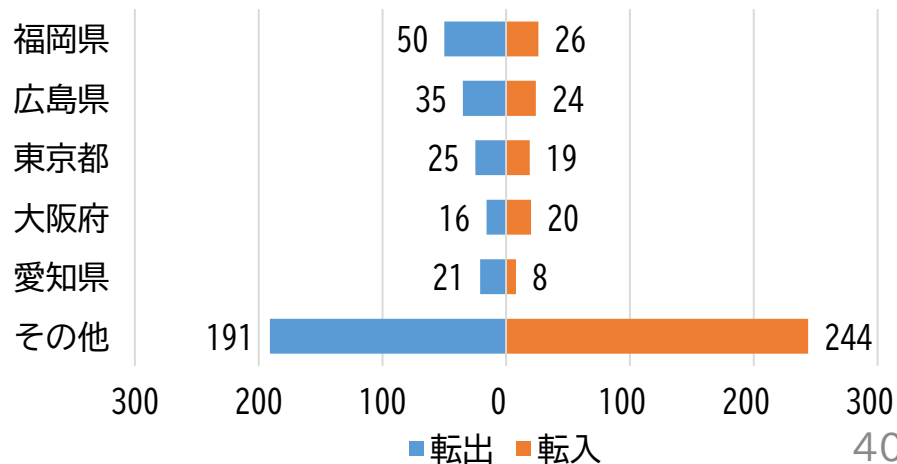
②県内の転出入状況 (上位5市町)

転出 372人 ▲0人 転入 302人



③県外の転出入状況 (上位5都道府県)

転出 338人 +3人 転入 341人

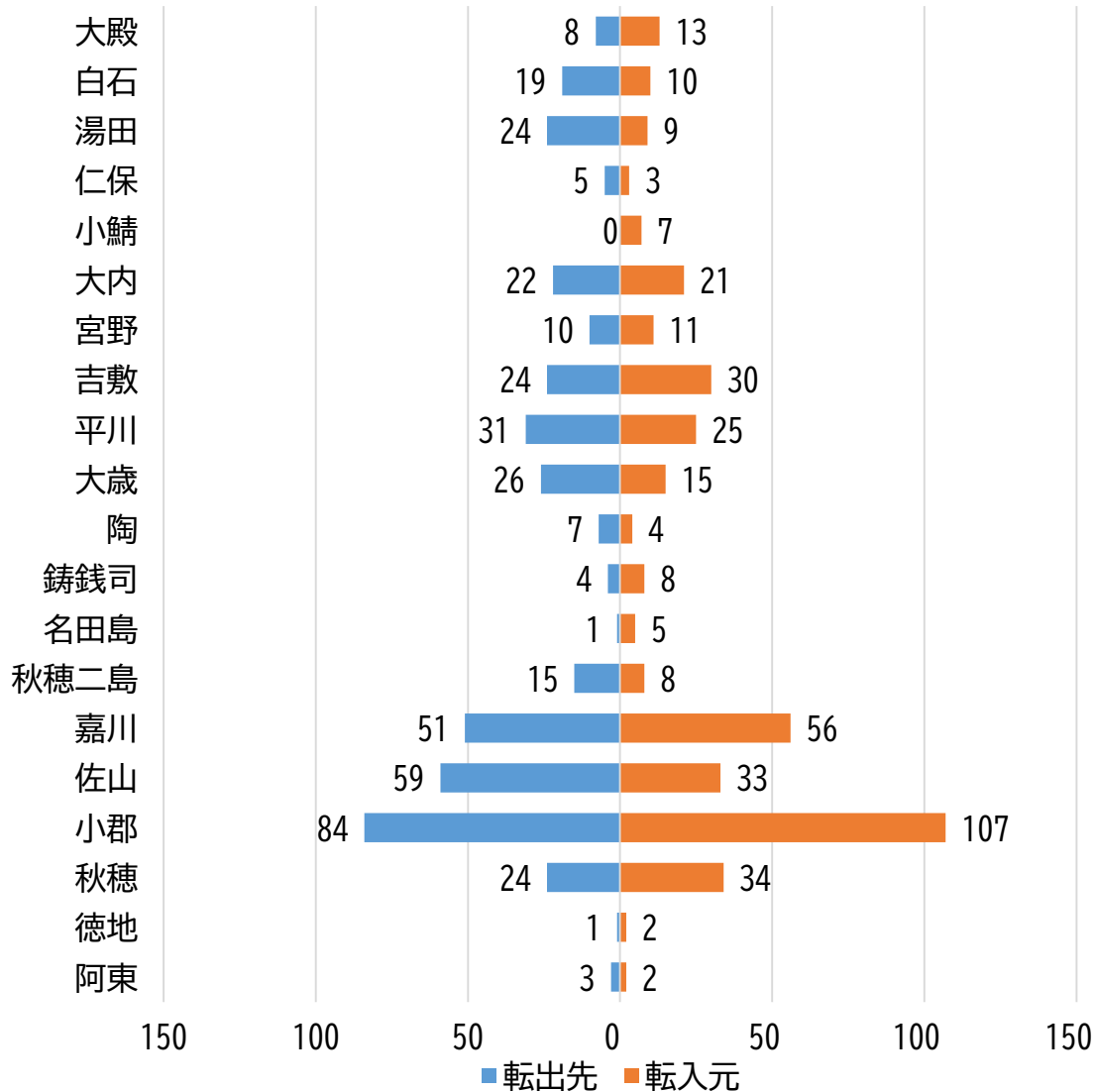


【参考⑱】阿知須地域 市内・県内・県外の転出入状況 (H27.10.1~R2.9.30)

【5年間の人口増減】
+50人

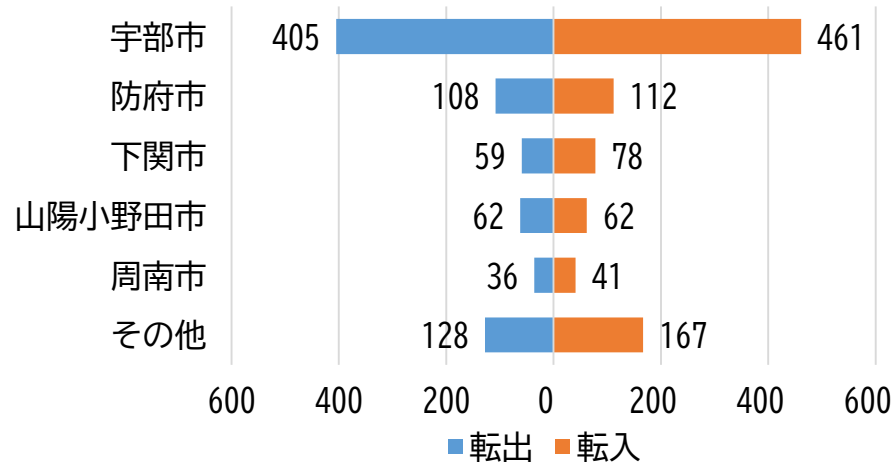
①市内の転出入状況

転出 418人 ▲5人 転入 403人



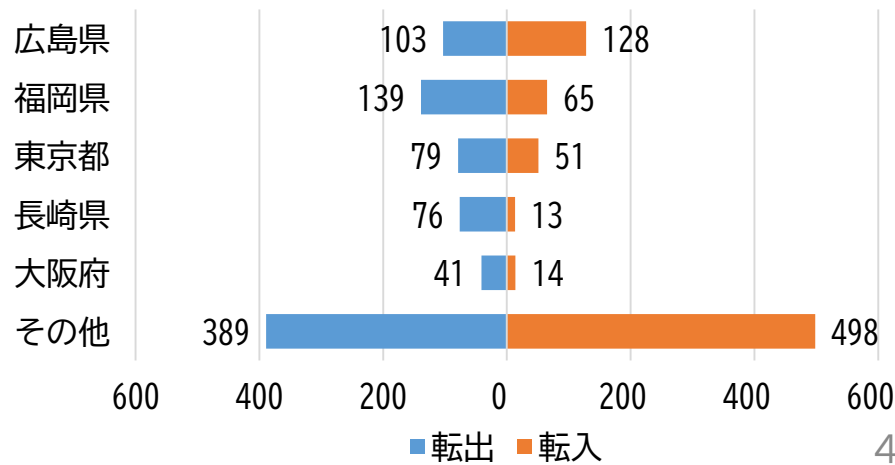
②県内の転出入状況 (上位5市町)

転出 798人 +123人 転入 921人



③県外の転出入状況 (上位5都道府県)

転出 827人 ▲8人 転入 769人

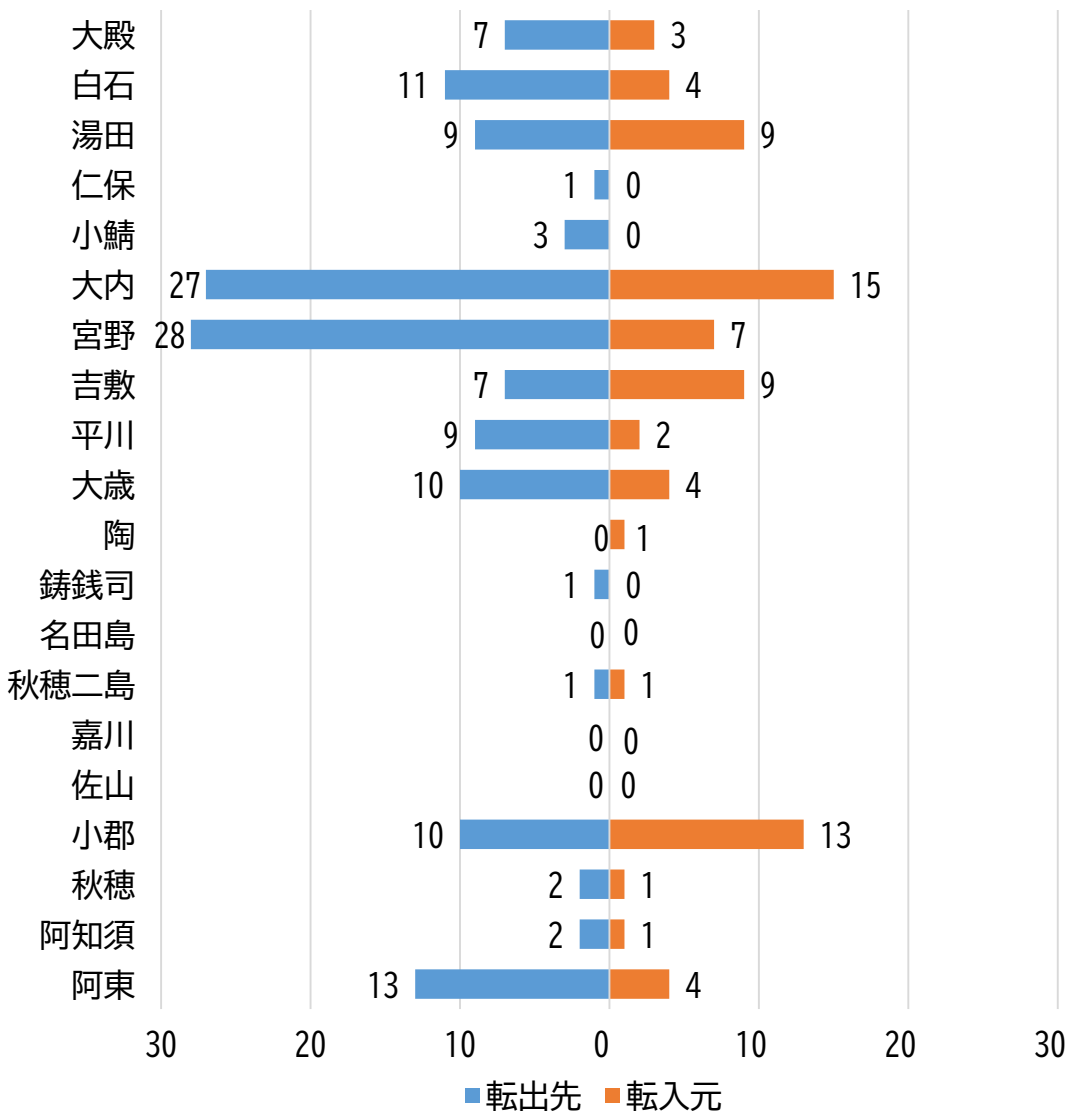


【参考⑳】 徳地地域 市内・県内・県外の転出入状況 (H27. 10. 1~R2. 9. 30)

【5年間の人口増減】
▲179人

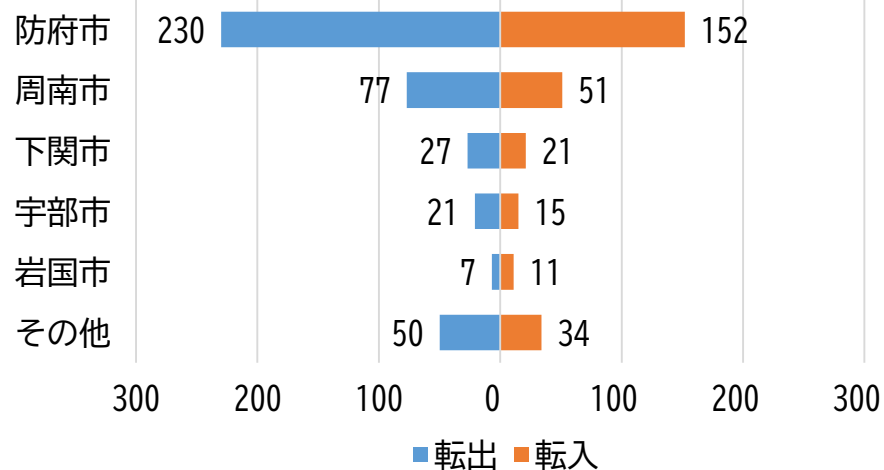
①市内の転出入状況

転出 141人 ▲7人 転入 74人



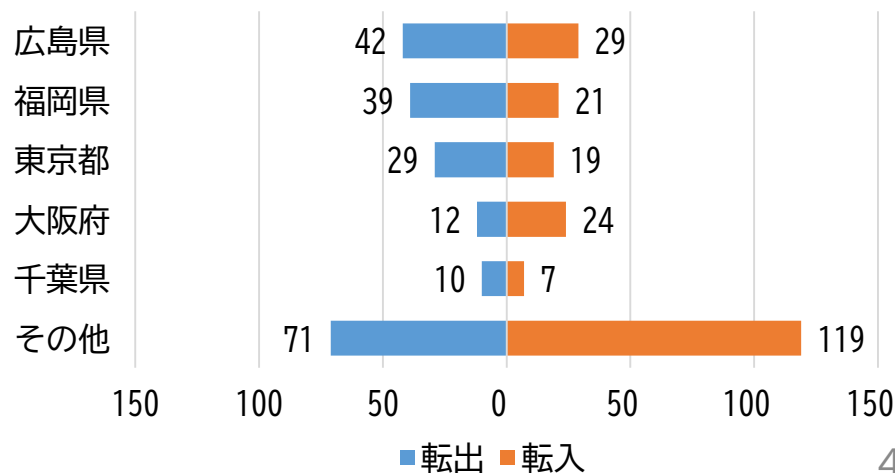
②県内の転出入状況 (上位5市町)

転出 412人 ▲28人 転入 284人



③県外の転出入状況 (上位5都道府県)

転出 203人 +16人 転入 219人

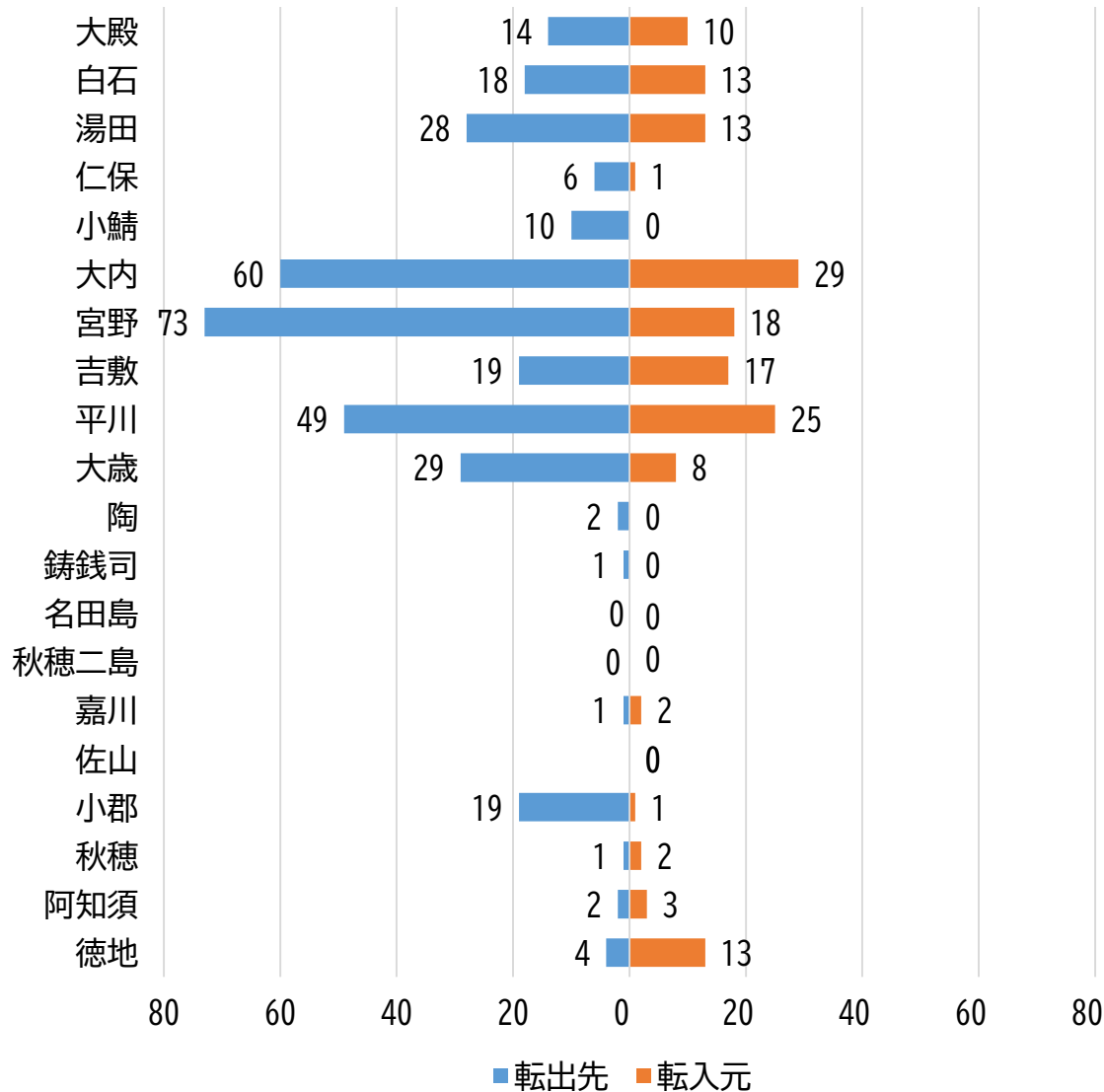


【参考②】 阿東地域 市内・県内・県外の転出入状況 (H27. 10. 1~R2. 9. 30)

【5年間の人口増減】
▲243人

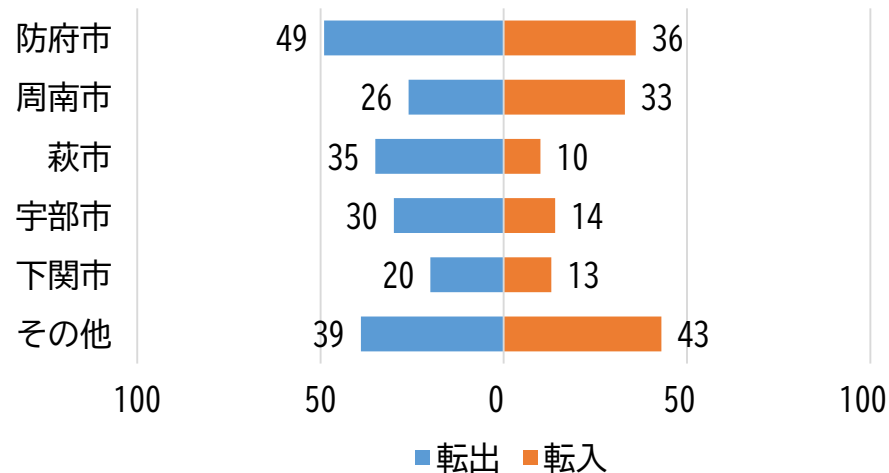
①市内の転出入状況

転出 336人 ▲81人 転入 155人



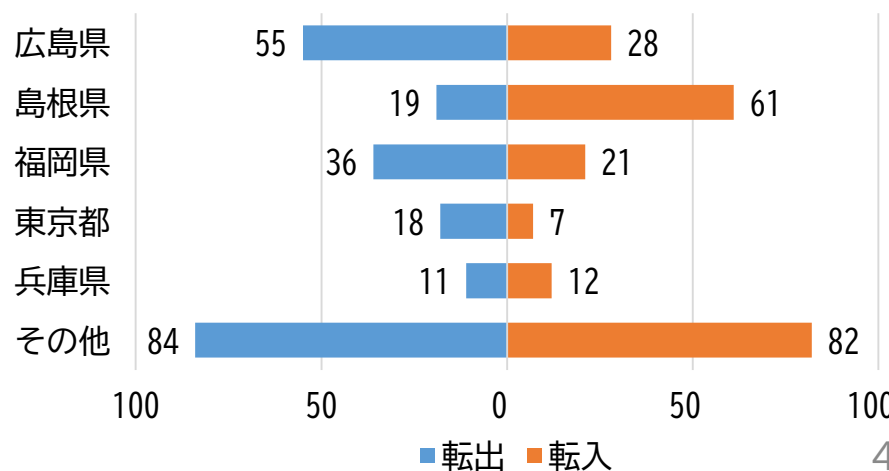
②県内の転出入状況 (上位5市町)

転出 199人 ▲50人 転入 149人



③県外の転出入状況 (上位5都道府県)

転出 223人 ▲2人 転入 211人



Ⅲ 人口動態、将来人口推計から見えてきた課題

第1回策定協議会における「政策提言A I」等の検証結果に基づく検討事項に加え、人口動態や将来人口推計から見えてきた課題について、検討を進めていく必要があります。

(1)～(3)については、15ページ参照

- (1) 人口減少が進む農山村エリアにおいては、日常生活機能や地域コミュニティの維持・確保を図ると同時に、転出超過ゼロに向けた施策展開の検討が必要。
- (2) 広島や福岡などの大都市圏への若者の転出超過の抑制に向けた施策展開の検討が必要。
- (3) 国や県のまち・ひと・しごと創生総合戦略等を始めとした施策との連携のもとで、希望出生率の実現に向けたあらゆる政策分野での施策展開の検討が必要。

IV 今後の予定

1 策定協議会の今後の予定

第1回 (令和4年3月25日(金))	第二次山口市総合計画後期基本計画の策定について
第2回 (令和4年5月20日(金))	<u>各委員からの話題提供</u> 今村 主税 委員 (環境)、橘 康彦 委員 (地域福祉)、 田中 貴光 委員 (デジタル) 現状分析 (人口動態)
第3回 (令和4年6月29日(水))	<u>各委員からの話題提供</u> 現状分析 (まちづくりの状況等)
第4回 (令和4年7月23日～29日)	<u>各委員からの話題提供</u> 現状分析 (市民ヒアリングの状況等)
第5回 (令和4年8月31日～9月2日)	<u>各委員からの話題提供</u>
第6回 (令和4年9月下旬)	<u>各委員からの話題提供</u>
第7回 (令和4年10月)	<u>各委員からの話題提供</u> 骨子案について
第8回 (令和4年11月下旬)	素案について
第9回 (令和5年1月上旬)	最終案について
令和5年2月上旬	答申

第2回～第7回の協議会では、
各回、委員3名程度からの
話題提供を予定
(説明15分程度、質疑5分程度)

2 後期基本計画策定のスケジュール

		令和3年度					令和4年度											
		R3 11月	12月	R4 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5 1月	2月	3月
全体			12月議会			3月議会			6月議会			9月議会	● 骨子案	● 素案	12月議会	● 最終案	パブリックコメント	● 策定
市内推進体制	策定本部会議 (部長級等)	● 第1回 (11/22)						● 第2回 (5/16)	● 第3回 (6/27)				● 第4回	● 第5回	● 第6回	● 第7回	● 第8回	
	各部局								→ 施策別計画の検討									
	市内PJチーム								→ 各プロジェクトチーム 随時開催									
市民参画による策定体制	策定協議会 (外部委員)				● 第1回 (3/25)	● 第2回 (5/20)	● 第3回 (6/29)	● 第4回	● 第5回	● 第6回	● 第7回	● 第8回	● 第9回	● 答申				
	共につくる未来懇話会						各地域づくり協議会や、地域で活動している団体等(若者、女性など)との懇話会の実施											
	21地域						→ 21地域 開催											
	各種団体							→ 各種団体 開催										
子どもたちの参画事業	※小・中学生を対象とした 絵画コンクール						→ 小・中学校との調整			← 作品募集	→ 審査	→ 展示・表彰式						